

古事記傳

九

休

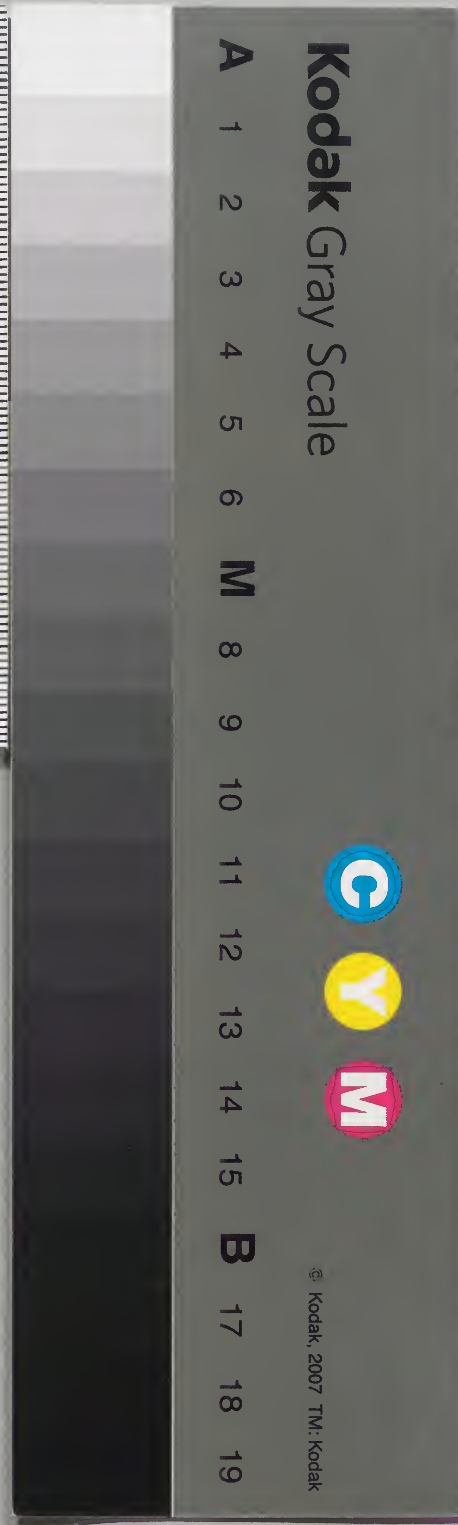
和書門	類	三五四六〇號	一二八函	一四架	一五冊
-----	---	--------	------	-----	-----



內閣文庫	和	三五四六〇號	一二八函	一四架	一五冊
------	---	--------	------	-----	-----

內閣文庫	番號	和 35460
	冊數	15 (9)
	函號	137 3

共十五



高岡宮治
神沼河耳
命坐葛城高岡宮治

本居宣長

神沼河耳命坐葛城高岡宮治

天下也此天皇娶師木縣主之

祖河俣昆賣生御子師木津日

孫玉手見命送天皇御年肆拾

古事記傳三十一之卷

高岡宮卷

神沼河耳命坐葛城高岡宮治

天下也此天皇娶師木縣主之

祖河俣毘賣生御子師木津日

子玉手見命柱一
天皇御年肆拾



皇云乃若然其地益田池於西方近此
 鳥陵在德明寺村東南其俗呼主膳家
 皇云乃若然其地益田池於西方近此
 鳥陵在德明寺村東南其俗呼主膳家
 皇云乃若然其地益田池於西方近此
 鳥陵在德明寺村東南其俗呼主膳家
 皇云乃若然其地益田池於西方近此
 鳥陵在德明寺村東南其俗呼主膳家

淳穴官卷

師木津日子玉手見命坐片鹽

淳穴宮治天下也此天皇娶河

俣毘賣之兄縣主殿延之女阿

久斗比賣生御子常根津日子

伊呂泥命。自伊下三次大倭日

子鉏友命。次師木津日子命。

此天皇后孫漢倅乃御謚安寧天皇申以。○片塩ハ訶
 多志波ヤ訓法ハ書紀雄畧卷ノ堅磐此云柯陀之波和
 名抄小筑前國總波郡堅磐加多之方ハ方を今本ハ萬ヤ
 誤ヤ作ヤ遂ハ神名式ノ越前國今立郡加多志波神社
 萬ヤ作ヤ多志波了ハ名孫例ナリ此多ヤ堅磐乃意
 此地名ハ下片塩ヤ書法ハ借字ナリハハ志波ハ塩字
 波ハ由志ナヤシテ此ハ万葉九十九見河内大橋獨
 志波ハハハ去娘子哥小級照片足羽河之左丹塗大橋之上從云々

賦源地ナリ師此説也然ハ片塩今本
 加多阿須波波ハ河内國宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 詞加多阿須波波ハ河内國宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 録河内國神別ノ淳穴直永子賜姓春江宿禰郡名抄伊豫國
 國若江郡人淳穴直永子賜姓春江宿禰郡名抄伊豫國
 宇城安奈ヤ云ハ續後紀三ノ伊豫國人淳穴直永子繼
 同姓真德等賜姓春江宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 姓ヲ賜テ思ハ河内國宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 伊豫郡是也共ハ春江宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 在思合以ハ若江郡是也共ハ春江宿禰郡是也共ハ春江宿禰
 或人モ此川ナリ被大橋今國府渡堂云處ハ

掛^カきりし^シあり^リ云^ユ流^{リウ}。石川^{シヨクガハ}郡^{クニ}あり^リ。古市^{コジ}郡^{クニ}を^シ經^{ケル}て^テ宿^{ヤク}郡^{クニ}。西^ニ志^シ紀^キ郡^{クニ}。東^ニ堺^{サカイ}郡^{クニ}。北^ニ牙^{ツバ}郡^{クニ}。あり^リ。津^ツ國^{クニ}住^シ吉^{キチ}郡^{クニ}。通^{ツウ}流^{リウ}大^{ダイ}道^{ダウ}あり^リ。此^{コノ}川^{カハ}を^シ渡^{ワタ}り^リ。是^{コノ}古^{コノ}語^{コト}傳^{ツタ}へ^ル。説^{セツ}小^{コノ}や^ヤ河^{カハ}は^ハむ^ム。天^{テン}皇^{スミ}在^ニ御^{ミコ}名^ナ此^{コノ}師^シ木^キ也^ヤ由^{ヨリ}安^{ヤス}理^リ。志^シ紀^キ郡^{クニ}。初^{ハツ}建^{ケン}王^{ワウ}守^シ不^フ悔^{カヒ}村^{ムラ}也^ヤ。此^{コノ}石^{シヨク}川^{カハ}亦^モ近^{チカ}き^キ地^チ少^シ了^シ。あ^ハら^ハく^ク由^{ヨリ}縁^ヰあ^ハれ^レバ^バ。此^{コノ}宮^{ミヤ}は^ハ此^{コノ}川^{カハ}乃^ハ近^{チカ}き^キ所^所也^ヤ。其^{コノ}後^{ノチ}若^{ニハ}江^エ郡^{クニ}も^モ志^シ紀^キ郡^{クニ}乃^ハ北^{キタ}に^ニ並^{ナリ}べ^キ也^ヤ。師^シ木^キの^ノ所^所在^ニり^リけ^レり。冠^{カウ}辭^ジ考^{カウ}不^フ此^{コノ}宮^{ミヤ}を^シ交^{カウ}野^ノ郡^{クニ}を^シ舟^{フネ}橋^{ハシ}川^{カハ}を^シ片^{カタ}足^タ村^{ムラ}に^ニあり^リ。是^{コノ}は^ハ據^{コト}を^シあ^ハら^ハけ^レり。交^{カウ}野^ノ郡^{クニ}を^シ舟^{フネ}橋^{ハシ}川^{カハ}を^シ片^{カタ}足^タ村^{ムラ}に^ニあり^リ。云^ユヤ^ヤ云^ユ云^ユ云^ユ。社^{シャ}も^モあり^リ。や^ヤこ^コろ^ロを^シ志^シ紀^キ郡^{クニ}に^ニあり^リ。又^{マタ}或^{アル}説^{セツ}不^フ大^{ダイ}和^ワ國^{クニ}葛^カ下^カ郡^{クニ}三^{サン}倉^{ソウ}堂^{ドウ}村^{ムラ}に^ニあり^リ。此^{コノ}宮^{ミヤ}乃^ハ此^{コノ}處^{トコロ}に^ニあり^リ。又^{マタ}高^{カウ}市^シ郡^{クニ}を^シあ^ハら^ハけ^レり。や^ヤこ^コろ^ロを^シ志^シ紀^キ郡^{クニ}に^ニあり^リ。於^オ片^{カタ}塩^{シホ}是^{コノ}謂^{イハ}浮^ウ穴^{アナ}宮^{ミヤ}也^ヤ。漢^{カン}籍^{セツ}不^フ遷^{ケン}都^ト也^ヤ。其^{コノ}後^{ノチ}實^{セツ}乃^ハ後^{ノチ}世^セ乃^ハ如^{カク}引^{ヒキ}遷^{ケン}け^レり。は^ハ非^ヒ文^{ブン}上^{ジョウ}代^{ダイ}不^フ御^{ミコ}代^{ダイ}と^トも^モ不^フ都^トの^ノか^カり^リ。は^ハ大^{ダイ}方^{ホウ}上^{ジョウ}代^{ダイ}也^ヤ。

皇^{スミ}子^シを^シも^モ御^{ミコ}父^フ天^{テン}皇^{スミ}也^ヤ。同^{ドウ}大^{ダイ}宮^{ミヤ}不^フ在^ニ坐^{イハ}す^ル。多^{オホ}く^クハ^ハ別^{ベツ}地^チ不^フ住^シ坐^{イハ}す^ル。御^{ミコ}父^フ天^{テン}皇^{スミ}崩^{クニ}坐^{イハ}す^ル。皇^{スミ}太^{タイ}子^シ天^{テン}津^ツ日^{ニチ}嗣^ス所^所知^チ名^ナ也^ヤ。其^{コノ}元^{ゲン}也^ヤ。住^シ坐^{イハ}す^ル郷^{キョウ}即^{ツキ}都^ト也^ヤ。其^{コノ}後^{ノチ}多^{オホ}く^クハ^ハ各^{オノ}其^{オノ}本^ホ郷^{キョウ}に^ニ住^シ坐^{イハ}す^ル。天^{テン}治^チ去^クり^リ。後^{ノチ}世^セに^ニ如^{カク}く^ク。元^{ゲン}來^{ライ}住^シ坐^{イハ}す^ル。坐^{イハ}す^ル某^{コノ}宮^{ミヤ}治^チ天^{テン}下^カ也^ヤ。云^ユる^ル所^所實^{セツ}不^フ也^ヤ。古^{コノ}言^{ゴン}不^フ有^アり^リ。河^{カハ}俣^ヒ毘^ヒ賣^{マイ}ハ^ハ大^{ダイ}御^{ミコ}母^ボ不^フ了^シ。前^{マエ}段^{ダン}に^ニ出^デる^ル也^ヤ。縣^{ケン}主^{シュ}は^ハ師^シ木^キ縣^{ケン}主^{シュ}也^ヤ。先^{マエ}不^フ師^シ木^キ縣^{ケン}主^{シュ}之^シ祖^ソ河^{カハ}俣^ヒ毘^ヒ賣^{マイ}也^ヤ。云^ユて^テ其^{コノ}兄^{ケイ}也^ヤ。云^ユ流^{リウ}故^コ不^フ師^シ木^キを^シバ^バ省^{シヨウ}け^レる^ル也^ヤ。○殿^{テン}延^{エン}は^ハ書^{ショ}紀^キ不^フ葉^{エフ}江^{カハ}也^ヤ。ある^ルに^ニ就^{ツキ}て^テ殿^{テン}字^ジ延^{エン}佳^カは^ハ破^ハた^タる^ル也^ヤ。師^シ木^キ殿^{テン}字^ジ不^フ用^{ヨウ}也^ヤ。是^{コノ}字^ジ記^キ中^{チュウ}不^フ假^カ字^ジ不^フ用^{ヨウ}也^ヤ。例^{レイ}を^シあ^ハら^ハけ^レり。波^ハの^ノ誤^{コト}あり^リ。年^{ネン}の^ノ傍^{ホウ}に^ニ波^ハ字^ジあり^リ。

と書て御本あり。さゆは是る字形也。遠字れば定米難し。訓は姑書紀に葉不依、於此名地名。さゆはあふ。○阿久斗比賣。斗を舊印本延往本共。計や作る。誤あり。又福寺本。又延佳。一本作斗。云ひ。神名帳。不攝津國嶋上郡阿久斗神社。此社芥川村。阿久斗。又和名抄。了神名帳。但馬國養父郡。伊久乃神社。もあふ。又和名抄。不。同國二方。郡に久斗郷もあふ。とさゆ。八名乃似あふ。故不引る。書紀あふ。三年春正月戊寅朔壬午。立。湍名底。名。仲媛命。示曰。湍名底。皇后。一書云。磯城縣主葉江女川津媛。一書云。大間宿祢女系井媛。あふ。湍名底。仲媛命。八。皇鴨。王女也。さゆ。あふ。鴨。王。さゆ。名心得。其故。八。王。さゆ。皇胤。あふ。さゆ。申さぬ。例あふ。不。事代主神。御子。不。此。名。

あふ。さゆ。由。不。思。多。不。是。不。又。和。國。高。社。郡。鴨。都。波。八。重。事。代。主。命。神。社。高。市。郡。高。市。御。縣。坐。鴨。事。代。主。命。神。社。御。靈。の。頭。男。不。化。了。婦。人。不。娶。了。生。了。勢。乃。御。子。名。さゆ。心得。鴨。王。さゆ。一。書。云。不。法。是。舊。事。紀。あふ。天。見。方。奇。自。方。命。さゆ。勢。其。事。不。氷。垣。館。殿。不。落。云。法。一。○常根津日子伊呂泥命。此御名義常何。由。不。未。思。得。若。書。紀。乃。如。く。御。母。湍。名。底。仲。媛。命。さゆ。其。御。名。不。如。根。根。美。称。根。字。不。伊。呂。泥。勢。同。了。同。母。兄。不。意。書。紀。此。御。名。義。謀。况。作。れ。神。代。卷。神。武。卷。欽。明。卷。孝。德。卷。さゆ。兄。不。地。然。割。理。和。名。抄。に。も。兄。日本紀云。伊呂祢。伊呂。同。母。姉。伊。呂。泥。云。不。乃。命。乃。御。兄。を。那。泥。汝。命。申。上。賜。不。礼。那。泥。云。乃。母。

此類也。准其法。伊呂市社。此男女に通布祿あり。同母
云。阿泥の阿を省。さして伊呂は人成親を愛みて云
き。下。泥云あり。伊呂は人成親を愛みて云
詠言。了。某入彦某入姫。中。以御名。伊理。以。郎子郎
女子。伊。良。此。皆。此。同。言。乃。括。用。不。同。意。乃。好
坐。王。此。御。子。此。伊。理。泥。王。崇。神。紀。不。飯。入。根。以。云。名。京。伊
也。伊。呂。泥。云。中。通。了。乃。以。知。法。同。母。兄。弟。を。伊。呂
勢。伊。呂。杼。伊。呂。妹。母。也。伊。呂。波。中。云。也。伊。呂。波。中。云。也。親。み
愛。み。て。云。稱。を。一。万。葉。十。六。小。伊。呂。雅。を。る。管。監。小。笠
云。乃。京。さ。て。此。伊。呂。泥。を。書。紀。に。某。兄。弟。書。ま。し。了。某。字
は。如。何。なる。由。る。多。く。轉。て。其。名。を。云。至。其。人。を。親。み。て。云。乃。京。伊
伊。呂。波。中。云。也。伊。呂。波。中。云。也。親。み

此大師之子

伊呂波中云。乃。京。伊。呂。波。中。云。也。親。み
志。伊。呂。波。中。云。也。伊。呂。波。中。云。也。親。み
蠅。伊。呂。波。中。云。也。伊。呂。波。中。云。也。親。み
浪。書。此。垂。伏。紀。伊。呂。波。中。云。也。伊。呂。波。中。云。也。親。み
改。命。田。子。赫。珠。落。了。讀。抄。三。編。不。師。木。京。南。其。委。也
阿。遲。鉏。高。書。也。根。神。宗。阿。遲。志。貴。書。也。安。身。是。其。證。也
傳。十。一。の。五。十。師。木。縣。主。勢。由。出。下。此。木。御。天。皇。及。弟
七。葉。外。羨。師。木。縣。主。勢。由。出。下。此。木。御。天。皇。及。弟
尊。意。也。此。御。名。に。貢。坐。師。木。御。天。皇。及。弟
言。此。美。稱。也。此。御。名。に。貢。坐。師。木。御。天。皇。及。弟
其。意。也。此。御。名。に。貢。坐。師。木。御。天。皇。及。弟
心。味。凝。文。行。起。高。照。日。之。御。子。九。十。五。亦。欲。見。來。之。久
尾。知。又。吉。野。川。音。清。近。見。二。友。敷。十。三。丁。小。五。十。串。立。神

○古事記傳九一

○十一

酒座奉神主部之雲聚山陰見者之文余本尔山を玉小

藤原之蔓のこまなり山あぢあぢ是なり此れ外は云言

万葉亦甚多或は美字意或は戀去ぬ不意ふり

持義の意おはして登毛志言れ倭建命段御鈕友耳

建良子所伝名も高麗書紀懿德卷多奇友其命鈕友

也同美称なり師木津日子命師米津御兄命鈕スギ

日大日本彦耜友天皇一云生三皇子第一曰息石耳命第二トコツヒコイロ

兄第二曰大日本彦耜友天皇第三曰磯城津彦命舊事

常津彦を息石耳命と名けりハトヤイロ

此コノ天皇之御子等并三柱之中ウチ

大倭日子鈕友命者治天下次オホヤマトヒ

師木津日子命之子二王坐一シキツヒ

子孫者伊賀須知之稻置ハシラノミコハ

祖之一子和知都美命者坐淡道ヒトハシラノミコ

三平ノミヤニシキカレコノミコニムメフタバシラニシキイロネノナハ

之御井宮。故此王有二女。兄名

蠅伊呂泥。亦名意富夜麻登父

通阿禮比賣命。弟名蠅伊呂抒

也。

二王は布多婆斯良之訓法一王字此事之伊邪河宮段
小云法一。一子孫者は比登婆斯良能美古波之訓了。

子孫を御子對意小取法也。然分應下此御

子此名外漏殊傳好又喜り多也。伊賀は伊賀國風土

記云殘篇一猿田彦神始此之國為伊勢加佐波夜之國

時二十余万歳知此國矣猿田彦神女吾娥津媛命云此

神之依知守國謂吾娥來郡其後清見原天皇御宇以吾

娥郡分為國之名云後改伊賀吾娥之音轉也。和名抄に

阿我郷同延長風土記云伊賀國者昔漏伊勢國大日

本根子彦太瓊天皇御宇分而為伊賀國本此号者

伊賀津姫之前領郡也仍為郡名亦為國名中河内道

本紀云伊賀國之難波朝御世隸伊勢國飛鳥朝代割置如

故倭姫命世記小伊賀國天武天皇庚辰歲七月割伊勢

也通之

國郡此國名... 狛爾伊賀國名張郡周知... 延長風去記... 同郡小周知山... 本村小あり延長風記... 荒木山有神号須智明此二... 處狛内何國多存心... 延和名狛播磨國... 狛置和名狛伊賀國名張郡名張... 延長風土記不... 信がふし... 書紀天武卷小隱郡隱驛家又名張奈... 見... 山以余日... 越路也又暮小逢了朝面無子隱... 山... 長... 起妹... 廬... 野... 見... 長...

散... 久... 古... 江... 心... 野... 流... 城... 録... 也... 磯... 津... 磯... 漏... 古事記傳九一... 〇十四

皇紀御紀に弟字妹字... 御女等は共尔黒田廬戸官御宇天皇... 御子も生坐... 被段上見... 書紀彼卷... 御姉を倭國... 香媛亦名... 組某姉御... 妹城組某弟... 天皇御年肆拾玖歲御陵在畝

火山之美富登也 天皇御年肆拾玖歲御陵在畝

肆拾玖歲書紀不ハ三十八年冬十二月庚戌朔乙卯天皇崩時年五十七... 皇崩時年五十七... 皇紀御紀に弟字妹字... 御女等は共尔黒田廬戸官御宇天皇... 御子も生坐... 被段上見... 書紀彼卷... 御姉を倭國... 香媛亦名... 組某姉御... 妹城組某弟...

年秋八月丙午朔葬磯城津彦玉手看天皇於畝傍山南

御陰井上陵諸陵式畝傍山西南御陰井上陵片塩淳
穴宮御宇安寧天皇在大和國高市郡磯城東西町南
北二御宇戸以母... 唱了換考定... 係正本と考定

河内畝火山西南方麓小著山高き園下。書紀
傍山南字あるは式に依る。彼慈明寺村北南宮御
上西字を脱る。陵金同求さまあり。御陰井八吉田里中の路傍小在
井西此方に一町あり。西此方に一町あり。西此方に一町あり。
境園宮卷

大倭日子鉏友命坐輕之境岡
宮治天下也此天皇娶師木縣

主之祖賦登麻和訶比賣命亦
名飯日比賣命生御子御真津
日子訶惠志泥命自訶下四
多藝志比古命

此天皇後雅漢様の御謚懿德天皇也。輕ハ大和
國高市郡にあり。神名帳に輕樹村坐神社あり。

名義太真若... 飯日比賣命名義珠... 二年二月癸卯朔癸丑
 立天豐津媛命為皇后... 磯城縣主葉江男弟猪手女
 泉媛... 磯城縣主太真稚彦女飯日媛也... 天豐津媛
 命... 安寧天皇の御子... 天皇... 御兄あり... 御真
 津日子訶惠志泥命御名意御真木入日子又御
 真津比賣... 御真... 御孫の意... 又地名...
 詳... 國造本紀... 長國造志賀高穴穗朝御世觀松
 長阿波國那賀郡... 神名武彼國名方郡... 訶惠志泥
 御間都比古神社あり彼色止命を奈... 信惠志泥
 也未思得... 泥... 例... 乃... 林... 多藝志比古命名義白檮原

天

朝... 皇子... 多藝志耳命... 同... 書紀... 后生觀
 松彦香殖稻天皇... 云天皇母弟武石彦奇友背命... 友背命
 友背命... 今... 入... 乃... 乃... 乃...

故御真津日子訶惠志泥命者

治天下也次當藝志比古命者

血沼之別多遲麻之竹
 別葦井之稻置之祖

村多西、方吉田村、阿越路、此、少、南、方、小、原、即、畝
 火山、此、南、の、谷、内、あり、具、原、氏、の、畝、火、山、の、巽、方、小
 原、云、る、小、谷、多、真、名、子、谷、乃、真、名、を、首、尊、る、名、も、其、
 と、名、此、地、然、云、係、ふ、と、あ、る、又、或、説、ふ、名、米、寺、
 東、南、小、原、あり、云、る、
 此、地、多、少、あり、
 振上、官、卷

御真津日子訶惠志泥命坐葛
 城掖上宮治天下也此天皇娶

尾張連之祖奥津余曾之妹名

余曾多本毘賣命生御子天押

帶日子命次倭帶日子國押

人命

此天皇後孫漢様の御謚は孝昭天皇中申以。○葛城多
 上出。○掖上ハ。皆此字然系延佳本。

○古事記傳廿一

○廿一

の氏をあらぶるは、殊ふらりて、例ありは、彼
此姓之祖也。云々、必あるは、傳きあをさる。さて
舊事紀、天孫御天降、御供奉、神
天降時、事小、志記、例の偽、おて、實、迹
迹、命乃、御天降、御供奉、其、古き傳、有、むを、取
了、記、首、天、香語、命、尾張、連、等、祖、あり、又、同
記、五、卷、に、此、姓、世、系、次、小、舉、て、明、命、を、饒、速、日、命
混、一、つ、此、尾張、連、を、物部、連、同、祖、小、出、如
甚、き、偽、説、由、傳、十五、乃、九、葉、小、委、小、辨、了、如
又、其、御、子、天、香、語、命、を、亦、云、高、倉、下、命、云、て、白、檮
原、官、段、字、乃、高、倉、下、字、一人、云、あ、る、も、信、ら、ぬ、と、云
あり、そ、れ、外、了、取、可、く、多、く、も、ま、り、た、る、也、然、る、に、
も、凡、て、は、古、き、家、業、乃、あり、け、り、取、り、記、せ、り、見、
了、ひ、お、ろ、小、捨、始、祖、あり、十三、世、孫、尾、網、根、命、品、太、天
皇、御、世、賜、尾、治、連、姓、云、云、
世、乃、名、乃、十四、世、孫、あり、下、世
記

其は倭建命、段、小、尾、張、國、造、之、祖、美、夜、受、此、賣、云、云、
此國造、即、此、氏、也、お、ろ、小、捨、始、祖、あり、
下、居、住、け、り、尻、網、根、小、至、了、此、姓、を、賜、了、家、業、
此、事、猶、輕、馬、官、段、小、云、を、考、合、作、信、小、加、の、美、
夜、受、此、賣、云、尾、張、氏、又、女、也、當、時、既、小、此、姓、を、
了、如、く、聞、ゆ、れ、り、也、と、云、例、の、後、を、前、及、て、云、依、
事、紀、云、此、氏、乃、本、居、小、大、和、國、葛、城、云、云、然、云、故、ハ、境、
原、官、段、小、此、氏、人、小、葛、城、之、高、子、那、毘、賣、云、云、又、舊、
事、紀、云、此、氏、三、世、孫、天、忍、男、命、葛、木、古、神、劍、根、命、女、為、妻、云、云、
石、姫、云、云、次、天、忍、男、命、葛、木、古、神、劍、根、命、女、為、妻、云、云、
世、孫、瀧、津、世、襲、命、亦、云、葛、木、彦、命、七、世、孫、建、諸、隅、命、葛、木、
直、祖、大、諸、見、足、尾、女、為、妻、云、云、あり、さ、て、書、紀、神、武、卷、
高、尾、張、邑、或、本、云、葛、城、邑、也、云、云、高、尾、張、邑、云、云、因、改、
号、其、邑、曰、葛、城、云、云、高、尾、張、云、云、葛、城、の、本、名、也、
聞、ゆ、小、國、名、小、尾、張、云、云、高、尾、張、云、云、出、了、其、本、居、此、氏、
人、小、葛、城、云、云、出、了、彼、國、小、下、住、居、了、故、小、其、本、居、の、名、
を、取、了、國、名、云、云、亦、云、思、了、也、然、小、ハ、非、ト、カ、れ、神

也。也。也。人花乃人。字印本。小野。妹子臣。敏達天皇の御
 子。春月。皇子。此子。小野。氏。敏達。天皇。の。御。母。ハ。春。月。
 臣。氏。乃。女。不。了。春。月。臣。小。野。臣。同。祖。○柿。本。臣。天。武。
 紀。第。十。三。年。十。一。月。戊。申。朔。柿。本。臣。賜。姓。曰。朝。臣。姓。氏。録。
 大。和。國。皇。別。柿。下。朝。臣。大。春。月。朝。臣。同。祖。天。足。彦。國。押。人。
 命。之。後。也。敏。達。天。皇。御。世。依。家。門。有。柿。樹。為。柿。本。臣。氏。
 所。由。社。名。式。小。山。城。國。紀。伊。郡。飛。鳥。田。神。社。一。名。柿。本。歌。
 仙。學。仰。か。る。人。麻。呂。は。此。氏。人。を。り。不。係。此。氏。乃。人。績。
 紀。に。此。彼。出。る。り。○壹。比。韋。臣。壹。比。韋。は。大。和。國。添。上。郡。
 地。名。不。了。輕。鳴。宮。段。乃。大。御。哥。に。伊。知。比。韋。能。和。迹。佐。

能。迹。表。は。是。乃。是。乃。猶。此。地。事。は。彼。御。哥。乃。下。云。
 傳。は。此。姓。天。武。卷。十。三。年。十。一。月。戊。申。朔。櫛。井。臣。
 賜。姓。曰。朝。臣。姓。氏。録。左。京。皇。別。櫛。井。臣。和。安。部。同。祖。彦。媛。
 津。命。五。世。孫。米。餅。春。大。使。主。命。之。後。也。和。安。部。朝。臣。大。春。
 不。了。此。事。伊。邪。河。曾。段。乃。迹。臣。下。云。此。外。朝。臣。彦。媛。
 は。見。云。ハ。○大。坂。臣。太。坂。地。名。不。了。和。名。抄。に。備。後。國。
 安。那。郡。大。坂。郷。也。是。乃。其。由。ハ。次。乃。阿。那。臣。
 下。云。又。和。名。抄。大。和。國。葛。上。郡。大。坂。郷。也。此。天。
 和。東。海。大。坂。ハ。古。書。不。了。見。云。此。姓。此。乃。外。
 不。見。云。ハ。直。ハ。異。姓。乃。大。坂。○阿。那。臣。阿。那。ハ。書。紀。

景行卷十三小穴海安閑卷に六婀娜國をある地

志了和名抄備後國安那郡奈夜須これあり夜須奈やハ

を嫌ひ了後に唱加りても國造本紀ル吉備穴國造

纏向月代朝御世和述臣同祖彦訓服命孫八千足居定

賜國造彦訓服命ハ天押帶日姓氏録ル右京皇別安那

公天足考國押人命之後也中あり那字印本ル郡中作

は那中ありサて此氏ハ此中あり臣姓中あり公中あり

重仁紀ル吾名色中あり是あり又美濃國郡上郡安那

あり然ル是ハ正中あり備後國安那中ありも定

事ハ國造本紀ル依テあり是を備後の安那

多紀臣ハ丹波國多紀郡中あり出り多紀中ありハ

地名ハ奈原地中あり信あり定難ハ又中あり也

波久葉栗郷中あり出り是中あり

續紀ハ寶龜七年八月丙辰朔癸亥山背國ハ割郡ハ羽

栗翼賜姓臣後紀ハ文德實録ハ不中あり姓氏録ハ左京皇別葉栗

和尔部朝臣同祖彦燒津命ハ三世孫建穴命ハ之後也本

安中あり右京皇別葉栗ハ小野同祖彦國攝命ハ之後也臣

姓ハあり無きハ知中あり臣和名抄尾張國智多郡ハ七中ありハ

之浦中あり出り是中あり

此姓他ハ見ル河中ありハ○牟邪臣和名抄上總國武射郡

○古事記傳九一

之北不_レ理_レ大和國高市郡宗_レ身狹小非國造本紀不武
社國造志賀高穴穗朝和迹臣祖彦意祁都命孫彦忍人
命定賜國造_レ云_レ續紀不神護景雲三年三月陸奥國
壯澆郡人春見部奧麻呂等三人賜姓武射臣_レ云云
素_レ少_レ此氏族_レ守_レ三代實錄此六不武射臣助
皇極紀不見_レ身狹君_レ都怒山臣此地名也姓也
身狹臣_レ別姓_レ不_レ俗_レ續紀九に角山君内麻呂
云人は見_レ是_レり_レ君の_レ戸_レ不_レ異姓_レは_レ同姓
俗_レ此_レ人_レ私_レ教_レ陸奥國鎮所_レ伊勢飯高君和
谷抄伊勢國飯高郡伊比_レこれなり_レ大神宮儀式帳_レ忍
飯高國_レ見_レ是_レ倭姫

命世記_レ于時飯高縣造祖乙加豆知命平汝國名何同
賜_レ自_レ意須_レ此飯高國此自_レ而進神田并神戶倭姫命飯
高志_レ止_レ白_レ事_レ貴_レ止_レ續紀不天_レ平十三年四月申伊勢國
飯高郡采女正八位下飯高君笠目之親族縣造等皆賜
飯高君姓_レ了_レ神護景雲三年二月_レ伊勢國飯高郡
人飯高公家繼等三人賜姓_レ宿祢_レ末子實_レ繼_レ六年四月戊
辰飯高公若舍人等十六人賜姓_レ宿祢_レ成寅典侍_レ等_レ月
飯高宿祢諸高薨伊勢國飯高郡人也性甚廉謹志慕貞
繁華奈保山天皇御世直内教坊_レ遂_レ補_レ本郡采女飯高氏
真_レ采_レ女_レ者_レ前_レ此_レ始_レ矣_レ歷_レ仕_レ四_レ代_レ始_レ終_レ無_レ失_レ薨_レ時_レ年_レ八_レ十_レ也
中_レハ_レ更_レさ_レる_レる_レ法_レ一_レ宝_レ龜_レ元_レ年_レの_レや_レこ_レろ_レも_レ諸_レ高_レ也
所_レ了_レ了_レ笠_レ目_レ孫_レ目_レ字_レを_レ北_レ二_レ乃_レ七_レ三_レ葉_レ小_レ八_レ月_レ小_レ誤_レ了_レ
北_レ三_レ北_レ十_レ四_レ葉_レ小_レち_レ因_レに_レ誤_レ了_レ了_レ古_レ本_レ小_レち_レ不_レ奉_レ了_レ榮
あり_レ了_レ了_レ此_レこ_レろ_レ此_レ氏_レ人_レの_レち_レく_レ朝_レ廷_レ不_レ仕_レ奉_レ了_レ榮

右の如きは此人乃甲子同九年二月癸巳飯高公大人
の如く見ゆ。此の如く見ゆ。諸九二人賜姓宿祢見在續後紀永
和三年三月庚子朔丙午左京人飯高宿祢全雄同姓弟高等五烟改宿
祢賜朝臣全雄一の巻不今雄中あり。同九年六月甲子朔丙寅
伊勢國父飯高公常比麻呂弟五百繼飯高宿祢濱永等
男女共七人賜姓飯高朝臣編附左京三條中見在三代
實錄に貞觀十五年十二月二日越前國敦賀郡人伊部
造豊持賜姓飯高朝臣即改本居貫左京五條三坊其先
出自孝昭天皇皇子天足彥國押人命也。○壹師君和名
抄伊勢國壹志郡伊知是なり續紀十三小壹師君族古

麻呂續後紀十九小壹志公吉野なり云人見也。此
吉野文德實錄齊衡二年此処小壹志宿祢吉野なり
此の如く見ゆ。前小宿祢姓を賜はり。史小其事。漏
りてふ。依依引三代實錄に貞觀四年七月廿八日左京
人壹志宿祢吉野賜姓大春日朝臣天足彥國押人命之
後也。○近淡海國造チカツノミは心あぶ物不見也。崇峻
後小近江臣滿江人見在。此の如く見ゆ。他姓なり。王
次國造本紀。淡海國造志賀高穴穗朝御世彦坐王
三世孫大陀年夜別。○書紀小天足彥國押人命此和珥
臣等始祖也。此の如く見ゆ。此の如く見ゆ。姓ハ漏多。二は殊不廣き
氏なり。此の如く見ゆ。此の如く見ゆ。此の如く見ゆ。伊

那河宮段に云傍にさして此皇子乃御後也。上件の外小
 も氏人多くあり。姓氏録に見在り。又三代實録九に
 民首方永了多入此命乃後也。又續後紀四小近江
 國人嶋朝臣真行賜姓高生朝臣其先觀松彦香殖稻天
 皇之後也。嶋朝臣古本小ハヤカ。嶋朝臣古本小ハヤカ
 是也。此皇子此後存る後也。嶋朝臣古本小ハヤカ。嶋朝臣古本小ハヤカ

天皇御年玖拾參歲御陵在掖

上博多山上也

カミハカタヤノヘニアリ。嶋朝臣古本小ハヤカ。嶋朝臣古本小ハヤカ

御年玖拾參歲書紀小ハ八十三年秋八月丁巳朔辛酉
 天皇崩也。あり。御年は記され。但大御父天皇の北
 十八年ハシヨク依。或書ル者百十四也。百十五也
 百十四歳を有。依。或書ル者百十四也。百十五也
 百二十也。云云。〇掖上博多山上書紀孝安卷三十八

年秋八月丙子朔己丑葬觀松彦香殖稻天皇于掖上博
 多山上陵也。ある。三十八年心得ぬ事あり。舊事紀小ハ
 十三年天皇

崩明年八月葬也。云云。は書紀小依。在也。三十八年を
 疑。人朝。年。は。出。州。あり。不記。せ。る。依。存。多。れ。崇。據。也。
 以。依。小。諸。陵。式。に。掖。上。博。多。山。上。陵。掖。上。池。心。宮。御。宇。存
 昭。天。皇。在。大。和。國。葛。上。郡。心。域。東。西。六。町。南。北。六。町。宇。戸
 五。烟。中。あり。大。和。志。小。在。室。村。陵。畔。有。八。幡。祠。瓦。冢。四。也。

古事記傳卷之八
凡了御陵地。山、上坂、上あが記せり。ハ上小
倍云。此古乃御陵也。必しも今俗云布上のみ
非。此古乃御陵也。今存るを見。其地形乃記
不違。有るがご思。思ひ出。此古乃御陵也。
人。此古乃御陵也。思ひ出。此古乃御陵也。
驚。此古乃御陵也。思ひ出。此古乃御陵也。

秋津嶋宮卷

大倭帶日子國押人命坐葛城
室之秋津嶋宮治天下也此天

皇娶姪忍鹿比賣命生御子大

吉備諸進命次大倭根子日子

賦斗邇命。二。桂。自。賦。下。故。大。倭

根子日子賦斗邇命者治天下

也。天皇御年壹佰貳拾參歲御

ハカハタマデノヲカノヘニアリ

陵在玉手岡上也。

此、天皇后此漢様御謚ハ孝安天皇ヤ申次。○室ハ和

名抄大和國葛上郡牟婁郷あり是あり今も室村あり

又三室村ヤ云も所御書紀履中卷不掖上室山ヤ所

依も此處なり。○秋津嶋官書紀不二年冬十月遷都於

室地是謂秋津嶋官ヤあり此ハ彼神武卷不皇興巡幸

因登腋上喙間丘而迴望國狀曰云猶如蜻蛉之醫帖焉

由是始有秋津洲之號也ヤあるハ誰も大倭一國此

ヤハ思買ヤ若くハ又此掖上乃あり此地形故御

覽了。詔了る不も所也。古ハ郡郷あり此如きを

ちあれバ迴望國狀。若然正處秋津嶋ヤ云は彼時あり此

地能号ありあお此、天皇此百餘年を久しく敷坐せる

業でし大官地乃名あり。故に後不お能故あり倭

國乃大号の如く不もあれり。師木嶋の又彼御古事

故倭一國此こヤ。勢ハ此官號は彼御古事の所あり

地多依故不如此。於け賜了る。何新不あれ彼御

故事不依了る號あり。○姪ハ和名抄に姪釋名云兄弟

之女為姪和名米比見ゆ米比ハ女甥能意乃称ふ

依依。○忍鹿比賣命御名鹿能義未思得比書紀あり

二十六年春二月己丑朔壬寅立姪押媛為皇后一云磯城縣主葉江女長媛一云十市縣主五十坂彥女五十坂媛也又云又孝靈卷小母曰押媛蓋天足彥國押人命之女子也如此疑了記されしゆゑハ天皇の御弟ハ必此御女也依依くすれど誰乃御姪云云は傳はるべしハ云難あり○大吉備諸進命進を師ハ須美云訓礼也此御子ハ書紀不ば見あざるに依て思ふ此孝靈天皇孫御子比古伊佐勢理昆古命亦名大吉備津日子命を或ハ此天皇乃御子也傳誤るる由も非流る其故は是ハ大吉備中申以御名員坐る由もおほゆりあく又進も彼伊

佐勢理昆古命其由は彼處ハ倭根子御子賦斗逐降御若鏡根子タラトミナ尊稱也了景行天皇の御子也此倭根子命也神代御記凡ハ古事記中ハ難波根子書紀神功卷也山背根子云云名見あり天皇ハ大倭國所知者也大倭國ハ倭國也倭根子云云奉る形り故此御號是也始者耳凡焼坑開化於三御世文清寧元明多中御名也此稱奉る形御諡也光仁云云仁明云云凡て御代御代孫天皇乃御通號也ありて詔命云云もみち倭根子天皇也申し奉るに云々孝德紀大化三年の詔不皇詔云々武紀十二年乃詔大明神御守日本倭根子天孫天皇勅命者云云續紀十の詔書現御神止大八島國

所レ知レ傳根子天皇命云賦斗ニ書紀小太瓊也書き
 云。多々あるが如し。年ハ一ニハ書紀小太瓊也書き
 詠字此意字の如也。迹の義ハ。多々思ひ得るは
 然レ書紀小太瓊^{オホヤサキ}生大日本根子彦太瓊天皇ヤありて
 大吉備諸進命ハ無^レ。○御年壹佰貳拾參歲書紀小太瓊
 百二年春正月戌戌朔丙午天皇崩也。ありて。御年ハ記
 作レ文。但^レ大御考^テ天皇の六十八年立。為皇太子年
 二十ヤある也。依ハ百三十七歳あり。後^レ。或
 書本傳百三十七ヤ也。百二十七ヤ也云^リ。○玉手^{冬テ}困書
 紀孝靈卷百二年春正月日本足彥國押人天皇崩。秋
 九月甲子朔丙午葬于玉手丘。此陵也。見也。諸陵式云玉
 手丘上陵室秋津嶋宮御宇孝安天皇在大和國葛上郡

北域東西六町南北六町守戸五烟也。今も玉手村
 ありて。即御陵也。其地也。あり。前皇廟陵記云玉手村是
 也。在室村西北河東也。大和志云玉手村南有神
 祠。小冢二。在邑中。云。河内國安宿郡小玉手。不
 小四十年。佐伯直阿。俄能胡了布人私地在公不献。此
 鳥皇女也。玉手盜み。衆を贖ひ。其地也。玉手代也。
 号^レ。云。あり。是ハ何れ也。む。さ。さ。り。但安寧
 天皇乃大御名^ノ玉手公。河内國あり。や。お。河。に。云。れ。ハ。
 彼ハ仁德乃御世^ノり。地名を以。不も申。レ傳了。於。付。れ。ハ。此玉手
 名^レ。後此地名を以。不も申。レ傳了。於。付。れ。ハ。此玉手
 麻提能伊鞑能云。あり。也。何れ也。む。さ。さ。り。玉手
 大田

大田

大田
 大田
 大田
 大田

黒田宮卷

大倭根子日子賦斗邇命坐黒

田廬戸宮治天下也此天皇娶

十市縣主之祖大目之女名細

比賣命生御子大倭根子日子

國玖琉命一柱。玖琉。又娶春日

之千千速真若比賣生御子千

千速比賣命一柱。又娶意富夜麻

登玖邇阿禮比賣命生御子夜

麻登登母母曾毘賣命次日子

刺肩別命次比古伊佐勢理毘

古命亦名大吉備津日子命次

倭飛羽矢若屋比賣又娶其

阿禮比賣命之弟蠅伊呂孺生

御子日子寤間命次若日子建

吉備津日子命此天皇之御

子等并八柱男王五女王三

此天皇后孫漢様乃御謚孝靈天皇也申以。○黑田八和名抄小大和國城下郡黑田郷久留多字ある此乃依信今も黒田村にあり。出雲風土記云黒田郷久留多字ある此乃依信。故乃名也。○廬戸宮此宮此御趾ハ大和志尔宮古村也黒田村に在り。都杜あり。書紀に日本足彦國押火天皇百二年冬十二月癸亥朔丙寅皇太子

遷都於黑田是謂廬戸宮也。○十市縣主。十市ハ和

名抄に大粘國十市郡止保知と抄あり。十ハ登表ある

ハ假字違字ア地名ナリ。ハ形ノ法ハ其ハヤ

後乃訛小コモソハ先十字在テ書来キハ本ハ登

表アリ。唱子ハハ然レモ余ハ神名帳同郡小十市御縣

生神社。大月次。阿子。さて此縣主氏他ハ見衣次。○大

月神名式尾張國山田郡大月神社佐渡國羽茂郡大月

神社和名抄小同郡大月。女保郷在アリ。さて此人を

書紀孝元卷小磯城縣主アリ。○細比賣命細は師

乃久波志少訓ま。茂用ハ倍。月徴比賣アリ云例

もあれハナリ。又細字を然訓詁例も万葉ナリ多

カリ。書紀小ノ二年春二月丙辰朔丙寅立細媛命為皇

后一云春日千乳早山香媛一云十市縣主等祖如直古

媛也。見衣又孝元卷小母曰細媛命磯城縣主大月之

女也。又阿瑠。○大倭根孫日子國玖琉命書紀小后生大

日本根子彦國津天皇中あり御名意玖琉ハ括小テ統

詠意なり。今此俗信不物を統る也。久苗米流也。久ハ

ハ統るを云モ括小テ云モ環ル也。包テ云モ。ハ意ナ

リ云ナリ。さて書紀小牽字を志モ書レ。ハは縁寄引

ク意ハ又拘也。ヤ注セリ意ハ其ハ史記小牽於所聞ナ

リ云方類小ハ俗言小久ハ良苗ナリ云ナリ。ハ

○春日和名抄に大和國添上郡春日郷加須加ナリ流

此カリ神名帳同郡小春日神社春日祭神ナリ云ナリ書

古事記傳七

〇四十一

〇古事記傳七

〇四十一

〇古事記傳七

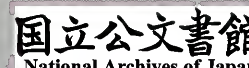
〇四十一

〇古事記傳七

〇四十一

紀開化卷小春日此云箇酒鵝繼躰卷勾大兄皇子御哥
 に播屢比能等須我能俱你武烈卷哥不如此あり上
 は師乃冠辞考不春日日ののひむや云けりあり
 有り万葉九尔春日之霞時尔やあるあし知信さ
 加須賀を春日書云云云云云云云云云云云云云云
 即系地名尔用ひきき云云云云云云云云云云云云云
 同例あり此事別不委く云云云云云云云云云云云云
 起乃事姓氏録大春日朝臣の條不見云云云云云云
 其文は上乃春日臣此下不引るが如し其詞不彼氏
 乃先祖大雀天皇の御代に糟垣を以垣不也一因了
 糟垣臣中号多乃了を後不春日臣改むや依此
 説不依るやきき本糟垣ありが後不省て加須賀
 云ハ云れり形り了了又其糟垣は本賜りり姓云れ
 此説の疑はし由は後のとや聞ゆ云云云云云云云云
 主云云云云見云又此段不如此春日之云云云云云

は正去く地名云云云云云云云云云云云云云云云
 御世中云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 地不因云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 余云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 誤て大雀此御世中は傳了云云云云云云云云云云
 糟垣因て其の地名は御世中は傳了云云云云云云
 賜ひしが大雀乃御世中は傳了云云云云云云云云
 堤此如く廣く築ふ海垣もあり云云云云云云云云云
 汝と云れ垣云云云云云云云云云云云云云云云云
 如く云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 代此榜幡千は姫命乃千は不同ト云云云云云云云
 皇の旧女御子不千は都久知比賣命申次も坐了速
 は光映云云云云云云云云云云云云云云云云云云
 命乃一此傳云云云云云云云云云云云云云云云云
 春日千乳早山香媛中あり云云云云云云云云云



香やハ互不夜や和や此省不さて此記書記共不父を
了多々ガ異奈例に於みあり。○千々速比賣命書記
奉さるる傳は事此に不。○千々速比賣命書記
不は此御子無し。神名式に尾張國中嶋郡不知除波夜
神社云あり。○意富夜麻登冬迹阿礼比賣命ハ浮穴
宮御宇天皇此御曾孫不。彼御段に見ゆ蠅伊呂泥
亦名あり。書記不は倭國香媛亦名。組某姉中乃。○夜
麻登々母々曾毘賣命此御名夜麻登々此之や書記不
之倭迹々日百襲姫命やあり。又御妹乃御名倭飛羽矢
若屋比賣や申以も書記不。倭迹々稚屋姫命やあり。
了各互不少。此異。彼此相照。参考。迹

に委云ハ倭登々あるを登を一畧。倭登々も云
あり。此記ハ畧りる方書。御妹乃倭飛の例を以知信。
是も書記不。又書記際神卷不。倭迹速云。云名
也。迹是。是洞。此。迹。畧。形。了
同音。此。重。方。少。下。畧。例。多。外。登。麻。流。也。
云類あり。然るを此御名を書記不。了。登。了。又
字一。脱。多。了。思。中。不。委。了。了。又
書記不も御妹乃御名也。共。登。の。不。見。言。也
新ハ此も然。迹。脱。了。見。也。然
了。此。見。ハ。稱。名。了。ハ。添。了。也。首。了。也。云。了。了。此。は
本。了。添。了。了。了。御妹此御名倭飛を書記不ハ倭迹

迹ありて、毘八奈久、又彼崇神、卷あり、倭迹速ハ、速ヤ
連き、さ、了、同、志、也、不、も、毘八、添、さ、海、さ、水、を、以、准
知、法、ト、し、て、御、名、義、ハ、登、カ、登、カ、一、畧、け、る、は、上、の、千、々
意、ち、同、ト、約、伊、曾、ハ、伊、佐、表、の
通、音、母、々、ハ、百、曾、ハ、勤、功、有、也、約、伊、曾、ハ、伊、佐、表、の
さて、此、日、女、命、ハ、書、紀、崇、神、卷、ハ、五、年、國、内、多、疾、疫、民、有、
死亡、者、且、大、半、矣、六、年、百、姓、流、離、或、有、背、叛、七、年、天、皇、幸、
千、神、淺、茅、原、而、會、八、十、萬、神、以、上、問、之、是、時、神、明、憑、倭、迹
迹、日、百、襲、姫、命、曰、天、皇、何、憂、國、之、不、治、也、若、能、敬、祭、我、者、
必、當、自、平、矣、天、皇、問、曰、教、如、此、者、誰、神、也、答、曰、我、是、倭、國
域、内、所、居、神、名、為、大、物、主、神、云、云、於、是、疫、病、始、息、國、内、漸

謚、五、穀、既、成、百、姓、饒、之、未、也、十、年、云、云、於、是、天、皇、始、倭、迹
迹、日、百、襲、姫、命、聰、明、叡、智、能、識、未、然、乃、知、其、歌、怪、也、於、是、
武、埴、安、彦、命、謀、反、也、事、也、朝、廷、乃、御、為、小、種、々、林、勤、功、志、不
賜、系、不、事、也、事、也、朝、廷、乃、御、為、小、種、々、林、勤、功、志、不
坐、坐、故、不、百、勤、功、也、は、稱、奉、也、水、海、也、さ、て、乃
多、同、年、の、下、に、是、後、倭、迹、々、日、百、襲、姫、命、為、大、物、主、神、之
妻、然、其、神、常、晝、不、見、而、夜、來、矣、倭、迹、々、日、百、襲、姫、命、語、夫、曰、君、常
晝、不、見、諸、分、明、不、得、視、其、尊、顏、願、暫、留、之、明、且、仰、欲、觀、美
麗、之、威、儀、大、神、對、曰、言、理、灼、然、吾、明、且、入、汝、櫛、笥、而、居、願
無、驚、吾、形、爰、倭、迹、々、日、百、襲、姫、命、心、裏、密、異、之、待、朔、以、見、櫛、笥、遂

有美麗小蛇。其長大如衣紐。則驚之叫啼。時大神有恥。忽

化人形。謂其妻曰。汝不忍令遊吾。吾還令羞汝。仍踐大虛。

登于御諸山。爰傳述之。姬命仰見。而悔之。急居。則著撞陰。

而薨。乃葬於大市。故時人号其墓。謂箸墓也。是墓者。月也。

人作夜也。神作云。見其急。急居此。云免岐于ヤ。ある

以了注せ。も。多あり。活のあ。ハ。免。岐。于。ヤ。ある

乃西。乃。見。其。地。を。今。も。箸。中。村。云。て。御。墓。も。大。道。

乃西。乃。見。其。地。を。今。も。箸。中。村。云。て。御。墓。も。大。道。

其故。ハ。彼。孝。靈。乃。皇。女。を。崇。神。乃。御。世。に。は。百。歳。お。多。く

餘。了。多。く。お。多。く。な。れ。バ。大。物。主。神。此。御。事。や。あ。り。坐。け。む。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

事。も。似。如。の。は。又。彼。姫。命。乃。皇。女。御。天。皇。の。王。姑。

志也其を執りて源外疑ふべき事非也此米物主神に
 御妻坐あり坐非故事書紀亦云此其女命の御事
 依記述れり此異事傳世あり此記亦云生至
 依毘賣下下時志崇神の御世あり八道亦前此事あり
 崇神の御代あり前記著し御陰を撞きて覺坐すは
 其時に非也他時の事ありあり然思はるる所也
 多著し物食時不食を用ふ物あり彼覺坐すは夜時
 明添待下櫛笥を用ふ見賜ふる事あり然る時
 不非也著し持賜ふる事あり然る時崇神乃御
 世也米物主神を祠可賜ふる故事あり引きて彼
 御妻不坐り坐し薄也此御代此事不語傳りし事
 然る坐し此故事也他代亦あり其代也
 ○用子刺肩別命御名義刺肩味時此御子書紀
 別子書紀其代官段不坐云此御子書紀
 無也○此古伊佐勢理理古命書紀彦五十狹芥彦

御書紀御名義伊佐不願願也勢理神
 代刺冰須勢理命此須勢理也同也須勢理進也
 勢理神名書紀不坐進命也其代也
 其彼孝安天皇此御子大吉備諸進命也此皇子傳誤
 加云云考合書紀續紀五に伊豫國人周敷
 連真國等三十人賜姓周敷伊佐世利宿禰也
 勇を賞ふ由姓あり信也神名式小播磨國賀古郡
 云也○大吉備津日子命書紀亦云吉備津彦命也
 名義吉備小國名あり如此御名負坐る由也彼國此事
 也下云信也○倭飛羽矢若屋比賣書紀亦云倭迹也

稚屋姫命之御名飛登毘訓信貴御師乃御名書紀

不倭迹日御多名例之此御名書紀又書紀之迹也

御師之御名比例不同其意也同御名御師乃御名書紀

賣亦不此比不不稱名多御師乃御名御師乃御名書紀

御名御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

不御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

故治之

○古事記傳卷之十一

○四十七

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

針

○古事記傳卷之十一

○四十七

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

御師乃御名書紀御師乃御名御師乃御名書紀

は書紀小孫也。或る事少く異あれども、何れも下れ。是又此御代此皇子、亦非る證あり。又國造本紀、活日帝皇子、大命孫彦狹嶋命、命云、大命、命ハ崇神孫是、又異ある傳あり。此御代乃御子、亦非、亦證あり。凡て古、亦同名多し。此御代、又一命を未き、此御多し。例も多き、その上。○若日子建吉備津日子命、此御名も又吉備者、負坐る所由、下に見ゆ。書紀、此は稚武彦命、乃、命。此御名、小吉備、て、此の無き。○註、男王、此古美古女王、此賣美古、訓法、凡て天皇乃御子及御胤を、王申、以、之、伊邪河宮、段、甲子、坐、在、此、處、委、也、
云、
○
○
○

故大倭根日子國玖琉命者
治天下也大吉備津日子命與
若建吉備津日子命二柱相副
而於針間冰河之前居忌瓮而
針間爲道口以言向和吉備國

也。聞爲筮口以言向味吉備圖

若建吉備津日子命此御名上小下尔も若の下建此

上に日子ヲ海ヲを此小ハ諸本共に其二字乃無きハ

書記尔も稚武彦ヤある如く省きても申せしふ然

流例多し月代宮段不出きも此二字無し然るを

是を補ふハ。○二柱相副而ハ相並て云む

如し此事上卷小副其姉石長比賣ヤある也傳十六の

に委云了。凡て曾布ヤハ常ハ大なる物ハ少き物乃

此相並配ふも云了。此ハ兄命ハ大將軍弟命

波里萬部也即國名義ハ此國風土記小菟原里土中有

井所以名菟原息長帶日賣命韓國還上之時御船宿於

此村一夜之間生菟根高一丈許仍名菟原即關御井故

云針間井也。是ハ小國名也始ハ謂ハル也云針

間井也。何也。國名也。是ハ出也。御井也。

也。若然。榛木。由北。谷内。氏云。赤津衛

諸國。名産。針。也。東。也。播磨。針。也。是。也。針。也。

能加波。比加波。知。姑。比能加波。訓。此。

能加波。比加波。知。姑。比能加波。訓。此。

河也氷る地名物不見色以今此名存在奴す
 國人不尋以儀制備前國名或人於説不須佐之男命
 亦非以備前國名也或人於説不須佐之男命
 上布都之魂神經此山下流れて御野郡不至て海也
 入事後不針間氷河云又大川也西川也云凡
 古事記に針間氷河云又大川也西川也云凡
 殊不彼御野川備前此中不ても東方不依る地也
 也氷の説不神代孫籛川必播磨乃國内にこそある説け
 礼右の説不神代孫籛川必播磨乃國内にこそある説け
 も口説を云了其證不忌部正通口説を引して小證を
 存るこや不非凡了古き名地を強て己分國引入
 切り構布る不凡了古き名地を強て己分國引入
 ○前サキ佐サキ伎キ訓法外師久久麻マ中中訓法外師久久麻マ
 又川也此記不久久麻マ中中訓法外師久久麻マ
 皆垣也此記不久久麻マ中中訓法外師久久麻マ

佳木不伊波比倍於訓法外師久久麻マ中中訓法外師久久麻マ
 倍於見不頭觀儀試杖増用度上談路國御原郡籠料料
 各受一一見不頭觀儀試杖増用度上談路國御原郡籠料料
 口各受一見不頭觀儀試杖増用度上談路國御原郡籠料料
 牙不故不後に不可ひて何をも書流さる法一故今辨
 之少不後に不可ひて何をも書流さる法一故今辨別
 之少不後に不可ひて何をも書流さる法一故今辨別
 籠和名是也非盆字亦侯籠比良加俗云保止岐字亦作
 了信籠云名ハ見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 了信籠云名ハ見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 了信籠云名ハ見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 用ひ籠ハ小き物也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 籠ハ小き物也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 籠ハ小き物也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 皆此字書紀神武卷上嚴籠途此云怡也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 皆此字書紀神武卷上嚴籠途此云怡也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 皆此字書紀神武卷上嚴籠途此云怡也見色以大抵籠ハ大米不去て腹大さり
 堀也魚菜を煮る籠云名あり忌籠不神祭不用る器
 堀也魚菜を煮る籠云名あり忌籠不神祭不用る器
 堀也魚菜を煮る籠云名あり忌籠不神祭不用る器

不^レ齋^一忌^ハ物^レ以^テ故^ニ名^{ナリ}。了^リ居^ルハ地^ヲ堀^テ。
 下方^ニ也^ハ埋^リ置^キ云^フ。万^ノ葉^ノ哥^ノに穿^レ居^ルヲ以^テ是^レあり。
 今^レ時^ハ土^ノ中^ニ有^リ。上^ノ代^ノ四^ノ瓦^ノ器^ヲ以^テ出^スる^ト云^フ。有り^レ。
 あり^レ見^ルに。底^ニ圓^ク直^ニ不^レ居^ル。バ^ハ傾^キま^ル。お^りあ^り。
 水^垣宮^段不^レ毛^レ。九^ノ迹^ニ坂^ノ居^ル忌^ハ倉^ニ而^シ云^フ。ハ^ハ理^ノ書^ノ紀^ハ不^レ。
 は^レ其^ノ不^レ鎮^シ坐^ル所^ニあり^{。万}葉^三三^三丁^に齋^ハ平^忌穿^レ居^ル。又^四。
 丁^{十三}の^{十九}又^五十^一齋^忌平^前坐^置而^シ。七^{十五}不^レ。
 丁^不も^あり^{。又}一^十齋^忌平^前坐^置而^シ。七^{十五}不^レ。
 久^ク佐^サ麻^マ久^ク良^ク多^ク妣^ニ由^リ久^ク吉^ク美^ク平^ク佐^サ伎^キ久^ク安^ク礼^レ等^{。伊}波^ハ比^ヒ倍^ベ。
 須^ス惠^エ都^ツ安^ア我^ガ登^ト許^コ能^ノ弊^ル。七^{十九}不^レ伊^ハ波^ハ比^ヒ倍^ベ乎^{。等}許^ハ故^ハ。
 尔^ニ須^ス惠^エ豆^ノ云^フ。了^リ此^ノ外^ニも^{。彼}水^垣宮^段尔^モ。
 軍^ヲ首^ヲ達^シ此^ノ處^ニ不^レ。此^ノ行^ツ事^ヲ以^テあ^はふ^{。凡}て^{。國}言^ハ向^テに^{。出}立^ス。

道^ヲ口^ニ不^レ引^キ。必^ズ為^ル行^ツ事^ヲ以^テ了^リ。了^リ平^ニ安^ク乎^{。言}向^テに^{。出}立^ス。
 此^ノ以^テ城^ヲ鎮^シ以^テ新^ニ乃^ク終^ル。木^ヲ我^リ不^レ入^ルむ^{。以}終^ル時^ニ。
 さて^{。其}に^{。後}忌^ハ倉^ニ而^シ。了^リ此^ノ外^ニも^{。彼}水^垣宮^段尔^モ。
 云^フ。是^レは^{。古}神^ヲを^{。祭}リ^{。以}祈^フ。と^{。云}。忌^ハ倉^ニ居^ル云^フ。
 彼^ハ万^ノ葉^ノ十^七あり^{。哥}不^レ伊^ハ波^ハ比^ヒ倍^ベ乎^{。等}許^ハ故^ハ。
 彼^ハ明^カり^{。不}然^{。聞}ゆ^{。又}書^ノ紀^ハ。不^レ伊^ハ波^ハ比^ヒ倍^ベ乎^{。等}許^ハ故^ハ。
 文^多か^{。以}所^{。彼}崇^ニ神^ヲを^{。祭}リ^{。以}祈^フ。と^{。云}。忌^ハ倉^ニ居^ル云^フ。
 籠^ノ鎮^シ坐^ル所^ニあり^{。和}理^ノ境^上に^{。坐}。其^ノを^{。以}。忌^ハ倉^ニ居^ル云^フ。
 以^テ不^レ種^ル。と^{。あ}は^{。れ}中^ニ取^分下^{。此}物^ヲを^{。居}。了^リ平^ニ安^ク乎^{。言}向^テに^{。出}立^ス。
 行^ツ事^ヲ以^テ了^リ。止^{。代}此^ノ礼^典。以^テ。深^ク。了^リ平^ニ安^ク乎^{。言}向^テに^{。出}立^ス。
 依^テ。中^古。の^{。絶}廢^シ。の^{。儀}式^ハ。○道^ヲ口^ニ。其^ノ入^ル。
 初^ムる^{。處}。在^{。口}。云^フ。奥^ノ。方^ヲを^{。尻}。云^フ。人^ノ。其^ノ不^レ前^後。

故臣祖命者

字を用ひて北陸道不レ古之乃三知乃久知ハ越前
古之乃三知乃奈加ハ越中古之乃美知乃之利ハ越後
山陽道不レ岐比乃美知乃久知ハ備前吉備乃
美知乃奈加ハ備中吉備乃美知乃之利ハ備後云西
海道不レ筑紫乃三知乃久知ハ筑前筑紫乃三知乃
之里ハ筑後比乃三知乃久知ハ肥前比乃美知乃之利
は肥後止與久迹乃美知乃久知ハ肥前止與久迹乃美
知乃之利ハ豊後云云並和名抄不見云云此ハ吉
備國不將入道云云後まも播磨カケトモ山陽道口
ふてある此不為道只云云由ハ水垣宮段に

東方十二道云云處傳五十八葉に委云云考合以信
危下道口道危云云其國を治不京よりゆ路次
序不於云云名有吉備國上卷傳註物出
言向和心既不神代に鬼心一本不向平字
其也一か云云不此兄弟命二柱共不吉備津日
子命此稱貫申云云此御功績不油云云云云此言
尚此事書紀を考るに崇神御卷云廿年秋北明詔群卿
如云云九月丙戌朔甲午辰火彦命遣北陸越前別遣
東海吉備津彦遣西道丹波道主命遣丹波國致詔云日
若有不受教者乃奉兵伐之既而共授印綬為將軍云云

○古事記傳 七

○五十二

流。流り。去。武。植。安。彦。其。妻。吾。田。媛。中。供。不。叛。け。る。事。起。
 其。四。道。將。軍。今。急。發。之。將。暉。等。共。發。路。十。一。年。夏。四。月。四。
 道。將。軍。以。平。戎。兼。之。狀。奏。焉。其。中。有。北。陸。東。海。西。道。丹。
 波。有。り。さ。る。西。道。ハ。山。陽。道。を。云。下。右。の。段。此。其。ま。ハ。
 吉。備。津。彦。命。ハ。五。十。狹。芥。彦。命。ハ。異。人。也。如。く。見。也。武。
 侍。川。別。々。を。遣。し。出。雲。振。根。を。誅。し。其。國。を。示。し。合。れ。し。
 書。紀。不。見。ゆ。

故。此。大。吉。備。津。日。子。命。者。吉。備。上。道。
 臣。之。也。次。若。日。子。建。吉。備。津。日。子。
 命。者。吉。備。下。道。次。日。子。寤。間。命。
 者。針。間。牛。鹿。次。日。子。刺。肩。別。命。
 者。高。志。之。祖。也。利。波。臣。豐。國。之。國。前。
 者。高。志。之。祖。也。利。波。臣。豐。國。之。國。前。

○古事記傳九一

○五十三

也。

上道臣和名抄不備前國上道郡加牟豆美知字阿多此

地に因れる姓あり。上道郷も此郡内不あり。此郡

云了して師ハ上道中不備前を云々云。國造本紀不上

道國造輕嶋豐明宮御世元封中彦命兒多佐臣始國造

中云理。仲彦應神紀不見。書紀雄略卷に七年吉備上道

臣田狹事見不。清寧卷不も此氏人子眾ありし事見

也。然て衰了也。天武の御世に朝臣姓を

賜ひし氏。此中不も漏る。姓氏録不も此氏ハ見

也。續紀不。天平宝字元年七月上道臣斐太都賜姓朝

臣。閏八月以上道朝臣斐太都為吉備國造。見也。此人

此榮不。由さて此吉備姓始祖此事書紀不傳了

は此記不異あり。此事次不。下道臣乃不委論不依

。○下道臣下字諸本不。上道作るは誤了。今ハ真福

寺本に依れ。諸本不。二方共不。上道不。一方は

今何を何れ。辨了。考を加不。此記不。且兄命

應神卷不依。い。考を加不。此記不。且兄命

此後を下道不。弟命不。後不。道臣不。後不。吉

備姓此事書紀不。雜武彦命是吉備臣之始祖也。見

不。兄命ハ。何の始祖。又應神卷不。二十二年春三月。妃

吉備臣祖御友別之妹兄媛有戀父母之情西望而歎云
 云。天皇聽之。送于吉備。夏四月。兄媛發船而往之。天皇望
 兄媛之船。以歌曰云々。秋九月。天皇狩于淡路嶋。轉以幸
 吉備時。御友別參赴之。則以其兄弟子孫為膳夫而奉饗
 焉。天皇於是看御友別謹惶侍奉之狀。而有悅情。因以割
 吉備國封其子等也。則分川嶋縣封長子稻速別。是年道
 臣之始祖也。次以上道縣封中子仲彥。是上道臣香屋臣
 之始祖也。次以三野縣封弟彥。是三野臣之始祖也。復以
 波區藝縣封御友別弟鴨別。是笠臣之始祖也。即以苑縣
 封兄浦。疑別是苑臣之始祖也。即以織部縣賜兄媛。是以

其子孫於今在干吉備國。是其緣也。其御友別之祖
 武彥命。御孫奈由。弟彥命。御友別乃季子也。御友別之祖
 前國御野郡。奈由。波區藝縣。奈由。見古文。苑縣。備
 備中。國下道郡。不曾能。御友別。是奈由。後國。備
 前國。邑久郡。又備中。國。賀夜郡。小服部。鄉。備後。國。備
 品治郡。母服織。鄉。安部。郡。是奈由。後國。備此有
 書紀。孫傳。下道。臣也。上道。臣也。並推武彥命。孫
 子孫。多。乃。兄。御。子。孫。無。乃。小。也。甚。以。名。孫。子
 其故。多。彼。崇。神。卷。小。四。道。將。軍。孫。子。法。西。道。言。向。多。子
 比。小。此。此。命。不。以。坐。伏。狀。其。延。國。弟。命。の。御。親。ハ。見
 志。父。若。弟。命。專。吉。備。臣。等。此。祖。亦。坐。於。彼。時。小。此。記。乃。如
 又。必。御。兄。弟。相。副。了。夫。兄。物。小。傳。子。心。比。兄。命。孫。子。如
 を。奉。て。氏。子。祖。不。坐。弟。命。此。御。事。を。記。さ。れ。ば。乃。は。い。ま
 分。若。く。ハ。吉。備。國。を。言。向。多。ま。い。小。弟。命。孫。子。此。此
 記。は。御。兄。弟。二。柱。中。傳。子。書。紀。ハ。若。建。吉。備。津。日。子。傳。て。兄。命。此
 御。名。を。未。だ。死。は。し。子。子。吉。備。津。日。子。傳。て。兄。命。此

事少多ありしを思ふなり也。さて此は兄命に御名吉備津日子と記共御名に未だに因て二柱より傳不建吉備津日子と大若別名に推武彦命之後也。然もあまの御子疑ひにに推武彦命之姓録ありしに吉備津彦命以後也。見るに續紀七六彦之苗裔上道臣云々也。見るに此吉備津彦也。弟命を申すなり。其由三代實録に亦不見也。又姓氏録に棟部首吉備津彦五十狹芥命之後者不見也。未定難姓あり。又國造本紀に葦北國造吉備津彦命兒三井根子命。定賜國造。故且書紀に中あれ也。さしあきるに吉備國言向なり。此記此傳を正し。傳不從ひて云はれ。但吉備國言向なり。此記此傳を正し。了りる。若然らば弟命の御子孫に御兄弟相副也。彼國言向賜以事也。見命此御味無也。

命於御末に彼國の築在坐む其世嗣也。若建其命此御母吉備建日子命。然るに姓氏録に見ぬ。其縁也。男彼御友別系也。然るに三代實録に其長子別下道臣乃祖次子。道上道臣乃祖次子。此兄弟を謂ひて始御冠也。若建其命也。多らむ。此兄命の後在道中。兄下道此祖不弟然礼也。此記乃傳不也。傳不也。必誤中。以傳不也。此吉備姓上件如く此彼別也。亦伝て八廣く吉備臣。

云云於其見去日代官段書記神功卷云云吉備
 臣祖元見云又後所了也雄畧顯宗欽明云云御卷云
 也吉備臣云云云神名式に備中國賀夜郡吉備津
 彦神社名神是也此氏神相傳又吉備武彦命を
祀する云云神号を思
すハ始祖若建日子命云云又云云祖ハ坐
すハ國言向坐云云大吉備津日子命云云祖ハ坐
云云武彦載云云ハ何れハ一柱あり云云此神
社ハ世ハいはゆる吉備津宮云云宮内村云云在
 了下道臣ハ和名抄小備中國下道郡之毛豆美知云云
 此地依氷冰姓あり書記云云川嶋縣云云
ハ是即下道郡國造本紀云下道國造輕嶋豐明官朝
 御世元封元彦命亦名稻妻別定賜國造建字書記云云
速の誤云

云云ハ云云是を國造云云書記雄畧卷云吉備下道臣前
津屋云云人罪あり云云獲七斗以誅殺云云見
 天武卷十三年十一月戊申朔下道臣賜姓曰朝臣續紀
 天平十八年冬十月丁卯從聖位下下道朝臣眞備賜姓
 吉備朝臣十二の二葉小此人ハ姓を
道朝臣云云ハ誤云云此人ハ此此時
 下道を改て吉備云云天平神護二年十一月為右
 大臣宝龜六年十月覺等八十三云
ハ世ハ名高き吉備大臣云云又同二十一年十一月
 己丑下道朝臣乙吉備直事廣三人並賜吉備朝臣姓云
 矣直事廣ハ二人の名
あり誤字云云脱字云云姓氏錄左京皇別吉備朝臣此
朝臣今本ハ宿禰大日本根子彦太瓊天皇皇子稚武彦
了假誤云云

命之後也。是ハ加於天平乃ニ下道を改 太平神護二年五月癸亥下道臣色夫多賜姓朝臣姓氏
録左京皇別下道朝臣吉備朝臣同祖推武彦命之後孫吉
備武彦命之後也。此ハ吉備武彦を推武彦命ノ孫也
○笠臣書紀應神卷本以波區藝縣封御友別
弟鴨別是笠臣之始祖也。カモワケニコレ
字今本不田字之ヲ神功卷亦も吉備臣祖鴨別也
鴨別命八世孫笠三枚臣定賜國造これに笠臣國造ノ
孫云ハ據ありて云ヤ見キハ引るナリ。書記仁

德卷小笠臣祖縣時以人好博見茲時德卷縣備笠
臣垂天智卷笠臣諸石奈也又見伊天武卷十三年
十一月戊申朔笠臣賜姓曰朝臣續紀天智神護元年六
月笠臣氣奈麻呂賜姓朝臣氣奈麻呂姓錄在京皇別
朝臣孝靈天皇皇子推武彦命之後也應神天皇巡幸吉
備國登加佐米山之時飄風吹放御笠天皇怪以鴨別命
言神祇欲奉天皇故其狀爾天皇欲知其真偽令獵其山
所得甚多天皇大悅賜名賀佐也。イトホクモノエタリキ
其姓也。又鴨別命賜名賀佐也。然加佐米山也。
不笠乃七也。起是也。續紀天平神護二年

十二月右京人宇自可臣秋田等界女十四人賜姓笠朝
 臣彦捷嶋命隨後也笠朝臣姓を賜了。○高志利波臣高志は
 越國蘇牟上卷見波利波川和名抄に越中國磯波郡
 止奈美此山越後國磐船郡不利波郷也。其
 代要記越中加賀埴波山。續紀七
 七八五尔越中國蘇利波臣志留志云人男此人東大
 寺北事小功ありて越中資外介不。○豊國之國前
 從五位上叙。後伊賀守に在。○豊國之國前
 臣豊國孫神。○國前公和名抄於豊後國國
 崎郡君佐木君字を書。○國前公和名抄於豊後國國
 是あり書紀垂仁卷あり豊國國前郡。景行
 卷あり二年熊襲友之幸筑紫先遣國前臣祖菟名手云
 去國造本紀小國前國造志賀高穴穗朝吉備臣同祖吉
 備都命六世于佐自命定賜國造字ハ。吉備臣同
 祖云るは異あり傳あり。○五百原君和名抄小駿河
 國廬原郡伊保波良字あり是あり廬原郷も三。奇
 乃云。國造本紀小廬原國造志賀高穴穗朝代以池田
 坂井君祖吉備武彦命兒意加部彦命定賜國造池田坂
 字一本ハ思作。書紀天智卷小廬原君臣續紀九尔
 五百原君虫麻呂續後紀四小廬原公有守字云人見

是あり書紀垂仁卷あり豊國國前郡。景行
 卷あり二年熊襲友之幸筑紫先遣國前臣祖菟名手云
 去國造本紀小國前國造志賀高穴穗朝吉備臣同祖吉
 備都命六世于佐自命定賜國造字ハ。吉備臣同
 祖云るは異あり傳あり。○五百原君和名抄小駿河
 國廬原郡伊保波良字あり是あり廬原郷も三。奇
 乃云。國造本紀小廬原國造志賀高穴穗朝代以池田
 坂井君祖吉備武彦命兒意加部彦命定賜國造池田坂
 字一本ハ思作。書紀天智卷小廬原君臣續紀九尔
 五百原君虫麻呂續後紀四小廬原公有守字云人見

姓氏録。右京皇別。廬原公、皇朝臣同祖。推武彦命之後也。孫吉備武彦命、景行天皇御世、被遣東方伐毛人及内
鬼神到于阿倍廬原國。復命之日、以廬原國給之。阿部郡
有少阿内、さて上、京、姓、伊、も、八、某國之少國、名を挙げ
る、小、此に駿河之少云、さ、伊、如何、云、仁、大抵朝廷に
出て、常、小親、近、く、仕、奉、る、人、等、此、姓、小、八國を云、以、國を
云、八國、小在、て、常、に、親、近、く、八仕、奉、さ、る、氏、々、あり。○角
鹿海、直、角、鹿、は、越、前、國、あり、敦、賀、あり、此、地、此、事、以、訶、志
比、官、段、乃、米、小見、あり、海、師、此、阿、麻、師、訓、さ、る、事、を
用、勝、海、部、あり、此、事、あり。
書紀雄略卷小吉備海部直續
紀九小海部直、あり、あり、海部

天

海部、直、角、鹿、は、越、前、國、あり、敦、賀、あり、此、地、此、事、以、訶、志
比、官、段、乃、米、小見、あり、海、師、此、阿、麻、師、訓、さ、る、事、を
用、勝、海、部、あり、此、事、あり。
書紀雄略卷小吉備海部直續
紀九小海部直、あり、あり、海部
同、海部、直、角、鹿、は、越、前、國、あり、敦、賀、あり、此、地、此、事、以、訶、志
比、官、段、乃、米、小見、あり、海、師、此、阿、麻、師、訓、さ、る、事、を
用、勝、海、部、あり、此、事、あり。
書紀雄略卷小吉備海部直續
紀九小海部直、あり、あり、海部

多し書紀之同く志す。此記之ハ異あり。然る所以ハ。
 書紀ハ諸説之ヲ申正し、之ヲ擇んで記す。此ハ故
 名之モ、其ノ後、其ノ又、然レ其ノ亦、非レ大方書紀
 出来テ、其ノ以来ハ、何事モ其趣ハ合テ、正レテ、
 合テ、其ノ正レ、其ノ家ノ傳説之ヲ、
 也。其ノ書紀ハ、合テ、其ノ書成テ、
 一ハ有、其ノカ。舊事紀ハ、彦五十狹芥彦命、亦名、吉
 等、祖、稚武彦命、宇自可、臣等、祖、彦狹嶋命、海直
 了。凡レ彼書ハ、依、其ノ書、其ノ書、其ノ書、其ノ書、
 一ハ傳、其ノ也、其ノ也、其ノ也、其ノ也、其ノ也、
 第二柱、此、吉備津日子命、と先、奉、り、り、り、り、
 吉備國言尚坐。

天皇御年壹佰陸歲御陵在片
コノスメラミコトニモナリムハカハカヲカ
 茲、事、也、連、對、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、
 間、命、也、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、
 孫、也、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、
 繁、也、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、
 天皇御年壹佰陸歲御陵在片

岡馬坂上也

御年壹佰陸歲書紀云、天智十六年春二月丙午朔癸丑。
 天皇崩御、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、
 御年壹佰陸歲書紀云、天智十六年春二月丙午朔癸丑。
 天皇崩御、其、言、其、言、其、言、其、言、其、言、

為皇太子ヤあるレ不依レ或書ル百二十八載ハ百二十八載ハ百
 三十四載ハ法ヲ○片岡カクヲカ書紀カ綏靖カ卷ノ不見レ片丘
 也コト推古ミコノミコト卷ニ二十一年皇太子イデミレキ遊行レ於片岡
 云ク歌ミウタ之ミレタハム曰ク斯ナ那ナ提テ流ル箇カ多タ鳥ヲ箇カ夜ヤ摩マ尔ニ云ク古今集コノ哥
 天アメノ皇ミコ神カミ原ハラ朝アサ原ハラハ云ク片岡カタガハ坐マ神社カミヤ也ナリ神名帳
 に見レありシ○馬坂ウマカ書紀カ孝元カミヤマト卷ノ六年ニ秋アキ九月ニ戊戌ツチノイノチ朔
 癸卯ミヅノボ葬ムス大日本オホニッポン根子ネコ彦太ヒコタ瓊ニギハヤヒ天皇ミコト于片丘カタガハ馬坂ウマカ陵カミヤ諸陵カミヤ式
 小片岡コカタガハ馬坂ウマカ陵カミヤ黑田クロノタ廬戸イロド官カミ御宇ミコト孝靈カミヤマト天皇ミコト在大和國オホヤマト葛
 師ウヂ郡ノ兆城チウシロ東西トウシ五間イツノ南北ナンボク五町イツノ守戸ウヂノ五烟イツノ前皇ミマエノ廟ミヤ
 陵カミヤ記カミヤ小馬坂コウマカ或曰イハレ今馬イマ瀨坂セカ是也ナリ云ク大和志オホヤマトノシ小在コト王寺オウジ

村馬脊坂東山中陵畔有冢ニヤ云云

境原宮卷

本居宣長謹撰

大倭根子日子國玖琉命坐輕
 之堺原宮治天下也此天皇娶
 穗積臣等之祖内色許男命
 妹内色許賣命生御

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the main text on the left page. The text is dense and covers most of the page area.

古事記傳二十二之卷

境原宮卷

本居宣長謹撰

大倭根子日子國玖琉命坐輕

之堺原宮治天下也此天皇娶

穗積臣等之祖内色許男命

下效此妹内色許賣命生御

古事記傳二十二

一

子大毘古命次少名日子建猪

心命次若倭根日子大毘毘

命又娶内色許男命之女伊

賀迦色許賣命生御子比古布

都押之信命又娶河内

青玉之女名波邇夜須毘賣生

御子建波邇夜須毘古命此

天皇之御子等并五柱

此天皇後の漢様乃御謚孝元天皇也申次○輕ハ上

出づ○堺原宮書紀云四年春三月甲申朔甲午遷都於
輕地是謂境原宮也此宮の地乃事境園宮段傳廿
葉七云云或人輕村の大道乃西日今此里人○穗

積臣、穗積の地名なり。万葉十三丁、又、帛州、猶從出而水

蓼穗積至鳥網張坂手乎過石走甘南備山丹云々。帛州

誤字、中、お、を、と、穗積切、依、依、上、奴、其、國、ハ、大、和、お

系、と、本、より、少、く、何、郡、も、在、空、云、く、詳、し、く、は、右

哥、よ、依、く、思、ふ、添、上、城、上、下、十、市、の、郡、乃、内、あ、る、は

甘南備山の飛鳥の神南備山、奈良京より其山

又、十、市、郡、は、穗、津、村、云、云、坂、手、村、を、あ、り、お、り

又、和、名、抄、に、撰、津、國、島、下、郡、尾、張、國

丹羽郡、美濃國本巢郡、播磨國賀茂郡、又、穗積郷、河

神名式、伊勢國朝明郡、穗積

神社あり、於て此、姓、ハ、白、檮、原、宮、段、に、迹、藝、速、日、命、娶

登美毘古之妹登美夜毘賣生子牟摩志麻遲命此者物

部連穗積臣、妹臣、祖也、也、見、之、也、舊、事、紀、五、上、此、氏、の

世系、中、記、に、書、紀、天、武、港、に、十、三、年、十、一、月、庚、申、朔、穗

積臣、賜、姓、曰、朝、臣、姓、氏、録、左、京、神、別、穗、積、朝、臣、右、上、朝、祖

神饒速日命、五世孫、伊香色雄命、之後也、并、穗、積、臣、伊

香賀色雄男、大氷立宿禰、之後也、也、書、紀、崇、神、卷、垂

卷、必、也、穗、積、臣、遠、祖、大、氷、立、宿、禰、也、見、之、也、内、色

許男命、内色許賣命、宇都志許、訓、傍、也、内、色、許、賣、命、例、多

名、義、宗、都、美、麗、の、意、也、顯、見、之、意、也、志、許、表、志、許、賣、命、神、代、の、葦、原、醜、男、乃、例、也、傳、九、の、六、は、

舊事紀元記世於此氏乃世次考考亦神摩志麻治命
 の子味饒田命彦湯支命彦湯支命彦子大祓命出雲醜
 大臣命出石心大臣命出石心大臣命の子大祓命出雲醜
 命大矢日宿祢命大矢日宿祢命彦子釼色雄命釼色謎
 命大綜祿命大峯大臣命彦子此四人母曾坂原由良都
 姫あり同書七山亦釼色謎命物部連公祖出石心命孫
 也此云の然也此世疑其故大水日宿祢
 此崇神垂仁乃御世の人なり此内色
 詐男乃伯父中世の違へはなり〇大毘古命名
 意云此命の御功乃事水垣宮段見
 云云り〇少名丹子建猪心命日子の思少名毘古那

神名例其依獨有書其少名日子御内國汝
 毘古對子路在對素云衆物多此猪心武
 云於書紀猪心男心此あり世思也書紀
 景行卷武屋主忍男武雄命云路武猪心
 事所云舊事紀高伊香色雄命日子建膽心大祢命猪
 膽心建心猪心故異神此云名張防也然也猪心
 毘古建心猪心若倭根子日子大毘古命大御父天皇の
 御名乃大倭根子對多若倭根子少乃稱奉出家
 子此乃耳終同本外也稱名あり言の首を濁例
 〇古事記傳二十一 〇四

演翔下卯立齋色謎命為皇_{オホミカサキ}后生二男子_{ミコ}女_メ第一曰天
 彦命_{ツギヤ}第二曰稚日本根子彦_{オホヒ}大日_{ヒコ}天_{アメノミコ}皇_{ミコ}第三曰倭迹_{ヤマト}
 姬命_{ヒメノミコ}云天皇母弟少彦男_{オホヒコ}命也_{ミコ}也_{ミコ}見_ミ之_ノ卷_{マキ}化_カ卷_{マキ}下
 母曰齋色謎命穗積_{ホヅメ}臣_{ウヂ}遠祖_{トホノミ}齋色雄_{イハヒコ}命_{ミコ}之_ノ妹_{イモ}也_{ナリ}也_{ナリ}○
 伊賀_{イハ}迦_カ色_シ許_コ賣_ウ命_{ミコ}賀_カ迦_カ舊_{コノ}伊_イ本_ホ小_コ迎_{ムカ}賀_カ也_{ナリ}
 邪河_{サカ}宮_{ミヤ}殿_ノ諸_{シロ}奈_ナ並_ニ賀_カ迦_カ也_{ナリ}何_{ナニ}故_{ナリ}也_{ナリ}此_{コノ}水_{ミヅ}延_{ノビ}佳_{カシ}本_ホ又_{マタ}
 言_{コト}茶_チ從_{ヨリ}ひ_フ命_{ミコ}但_タ水_{ミヅ}垣_{カキ}宮_{ミヤ}段_ノ伊_イ迦_カ賀_カ色_シ許_コ男_ヲ
 發_{ツク}語_{コト}之_ノ賀_カ迦_カ赫_カ也_{ナリ}止_ト色_シ濁_ナ孫_ノ伊_イ本_ホ小_コ迎_{ムカ}賀_カ也_{ナリ}
 之_ノ夜_ヨ時_{トキ}隱_{カクレ}宮_{ミヤ}是_{コト}也_{ナリ}色_シ許_コ賣_ウ命_{ミコ}上_ノ布_フ比_ヒ能_ノ比_ヒ賀_カ氣_キ流_リ美_シ
 田_タ郡_ノ伊_イ香_カ以_{ヨリ}加_カ地_チ阿_ア波_ハ國_{クニ}麻_マ殖_シ郡_ノ伊_イ加_カ志_シ社_{ヤシ}神_{カミ}社_{ヤシ}也_{ナリ}

伊建治故

持_テ良_キ女_メ也_{ナリ}此_{コノ}續_{ツグ}命_{ミコ}唐_{タウ}紀_キ崇_{タカ}神_{カミ}也_{ナリ}物_{モノ}部_ベ部_ベ遠_{トホ}祖_ノ大_{オホ}蘇_ソ麻_マ
 紀_キ小_コ大_{オホ}綜_{ソウ}許_コ命_{ミコ}之_ノ異_イ也_{ナリ}傳_{ツタ}也_{ナリ}此_{コノ}古_{コノ}布_フ都_ツ押_{オシ}之_ノ信_{シン}
 命_{ミコ}信_{シン}之_ノ麻_マ許_コ登_ト也_{ナリ}訓_{ツク}也_{ナリ}姓_{セイ}氏_シ錄_{ロク}也_{ナリ}彦_{ヒコ}布_フ都_ツ意_イ斯_シ麻_マ已_イ止_ト
 命_{ミコ}少_コ書_シ之_ノ印_{イン}本_ホ也_{ナリ}都_ツ部_ベ也_{ナリ}名_ナ義_ギ布_フ都_ツ也_{ナリ}夫_ツ布_フ都_ツ也_{ナリ}
 云_ク其_{コノ}例_レ萬_{マン}葉_{エフ}不_フ又_{マタ}大_{オホ}馬_{ウマ}也_{ナリ}都_ツ麻_マ也_{ナリ}押_{オシ}也_{ナリ}大_{オホ}也_{ナリ}見_ミ也_{ナリ}
 信_{シン}也_{ナリ}真_{マコト}事_{コト}也_{ナリ}其_{コノ}下_ノ例_レ也_{ナリ}依_{ヨリ}也_{ナリ}此_{コノ}御_{ミコト}名_ナ也_{ナリ}下_ノ也_{ナリ}
 柱_{ハシ}也_{ナリ}云_ク注_ツ也_{ナリ}其_{コノ}書_シ紀_キ也_{ナリ}妃_{ハヤシ}伊_イ香_カ色_シ謎_メ命_{ミコ}生_ナ彦_{ヒコ}太_タ
 忍_{ニシ}信_{シン}命_{ミコ}也_{ナリ}青_{アヲ}庄_{タマ}名_ナ義_ギ字_ジ之_ノ如_{コト}也_{ナリ}神_{カミ}名_ナ帳_{チヤウ}也_{ナリ}伊_イ豆_{マメ}
 國_{クニ}那_ナ賀_カ郡_ノ青_{アヲ}玉_{タマ}

比賣神社。波迹夜須毘古命此御名也。此地。同。事。

其名義。彼。傳。五。の。五。云。里。此。事。地。名。亦。

亦。法。其。事。乃。大。和。國。十。市。郡。天。香。山。近。地。也。事。此。地。乃。

五。日。万。葉。一。三。十。丁。填。安。乃。堤。二。五。丁。填。安。乃。御。門。之。

原。又。填。安。乃。池。堤。此。事。所。事。也。此。比。賣。此。地。乃。

住。也。事。故。事。名。復。負。事。乃。法。事。名。又。負。事。乃。比。賣。

○建波迹夜須毘古命此御名也。御母乃許生立坐。

其。同。地。名。也。法。事。名。帳。乃。大。和。國。十。市。郡。畝。尾。坐。健。

如。云。事。記。云。汝。妃。河。内。書。玉。繫。女。填。安。媛。生。武。填。安。彦。

命。事。也。此。命。乃。謀。反。事。也。滅。之。事。賜。事。水。垣。

木國之野。事。五。出。青。谷。林。山。

朝。段。小。見。カレ。ワ。カ。ヤ。ト。ネ。コ。目。事。也。

故若倭根子日子大毘毘命者。

ア。メ。ノ。レ。タ。シ。ロ。シ。メ。レ。キ。ソ。ソ。ミ。イ。ロ。セ。オ。ホ。事。也。

治天下也。其兄大毘古命之子。

タ。ケ。ヌ。ナ。カ。ハ。ワ。ケ。ノ。ミ。コ。ト。事。也。

建沼河別命者。阿倍臣次比古。

等。之。祖。次。比。古。事。也。

伊那許志別命。自比至志。六字。膳臣。

之祖オヤ比ヒ古コ布都フツ押之オシ信命シノミコ娶尾ウメ

張連等之祖ムラジラガオヤオホキナ意富那イモカヅラ毘之妹ヒ葛

城之高千那キノタカチナ毘賣ビメニミ那毘賣ナヒメ那毘命ナヒノミコ生子ウミセルミコ

味師内宿禰ウチノスクネ此者コノハ山代内ヤマロノウチノ又娶マタウメ

木國造之祖宇豆比古之妹山キノクニノミヤツコノオヤウヅツコヒコガイモヤマ

下影日賣生子建内宿禰シタカゲヒメヒメウミセルミコノサネノウチノスクネ

シタカゲヒメヒメウミセルミコノサネノウチノスクネ
建内宿禰サネノウチノスクネ皇子ミコ神沼河耳カミヌマカハミ命ミコトノ列直ウラナラシ同月トウグヱツ傳ツタヘ此御コノミコト
子ミコ御功ミコノミツ乃事水垣宮ノニミツノミヅキ段タビ為ナリ現ウツル後ノチ中ナカ阿倍アヘ臣ノミ阿倍アヘ臣ノミ
決キ于コ地チ名ナ也ヤ用ヨウ何ナニ地チ云クハル云クハル詳カ於ニ駿河國スエノ
安倍郡アヘノ安部郡アヘノ安部郡アヘノ安部郡アヘノ
古書コトコト地チ之ノ名ナ又マタ律國リツクニ東ヒト律リツ郡ノ又マタ安倍野アヘノ之ノ地チ
取ク賀カ國クニ阿ア辨ハシ郡ノ之ノ引ヒク河カハ倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ
取ク賀カ國クニ阿ア辨ハシ郡ノ之ノ引ヒク河カハ倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ阿ア倍ヘ臣ノミ

國造纏向日代朝御代建沼河命孫大臣命定賜國造須

一本云那少云云 ○比古伊那許志別命真福寺本又一

作已注 名義未思得收姓氏錄小彦背立大稻腰命

小同 ○膳臣膳ハ膳夫也其事ハ既小上卷ハ出傳十

五葉ハ下書紀小大彦命是膳臣等凡七族之始祖也膳

字今本又膳景行卷小五十二年秋八月乘輿幸伊勢轉

入東海冬十月至上總國從海路渡淡水門是時聞覺賀

鳥之聲欲見其鳥形尋而出海中仍得白蛤於是膳臣遠

祖名磐鹿六鴈以蒲為手繼白蛤為膳而進之故美六鴈

臣之功而賜膳大伴部忌火御飯事條下抄内膳司供

ホメテ 臣之功而賜膳大伴部忌火御飯事條下抄内膳司供

故初也現ハ其ノ事ハ古ノ事ナリ
膳臣膳ハ膳夫也其事ハ既小上卷ハ出傳十
五葉ハ下書紀小大彦命是膳臣等凡七族之始祖也膳
字今本又膳景行卷小五十二年秋八月乘輿幸伊勢轉
入東海冬十月至上總國從海路渡淡水門是時聞覺賀
鳥之聲欲見其鳥形尋而出海中仍得白蛤於是膳臣遠
祖名磐鹿六鴈以蒲為手繼白蛤為膳而進之故美六鴈
臣之功而賜膳大伴部忌火御飯事條下抄内膳司供

一、月戊申朔膳臣賜姓曰朝臣。姓錄左涼皇別高橋朝臣。阿倍朝臣同祖。大稻與命之後也。景行天皇巡狩東國。供獻太峪。手時天皇嘉其奇美。賜姓膳臣。天淳中原瀛真。人武。天長三年改膳臣賜高橋朝臣。在賜子孫。彼景行御世。三年。其後。統紀。五年。朝臣。姓。賜。高橋。朝臣。其。書。紀。其。後。統。紀。五。年。朝。臣。姓。賜。高。橋。朝。臣。其。部。少。其。後。統。紀。五。年。朝。臣。姓。賜。高。橋。朝。臣。其。和。國。添。紀。哥。弟。抱。筒。播。志。切。此。高。橋。安。曇。二。氏。任。之。者。宜。名。為。正。氏。任。膳。臣。同。祖。太。護。景。雲。二。年。仁。月。勅。准。令。以。高。橋。安。曇。二。氏。任。膳。臣。同。祖。太。為。奉。膳。其。以。他。氏。任。之。者。宜。名。為。正。氏。任。膳。臣。同。祖。太。

政。常。膳。云。鞍。橋。安。曇。二。氏。任。膳。臣。同。祖。太。事。由。傳。云。乃。城。十。八。葉。孫。鹿。本。鳥。命。之。後。也。景。行。天。皇。巡。狩。東。國。至。上。總。國。從。海。路。渡。淡。水。門。出。海。中。得。白。蛤。於。是。磐。鹿。六。鳥。為。膳。進。之。故。美。鴈。賜。膳。大。伴。部。膳。臣。同。祖。大。稻。與。命。之。後。也。景。行。天。皇。巡。狩。東。國。後。子。所。以。名。之。曰。膳。臣。同。祖。大。稻。與。命。之。後。也。景。行。天。皇。巡。狩。東。國。膳。大。伴。部。膳。臣。同。祖。大。稻。與。命。之。後。也。景。行。天。皇。巡。狩。東。國。取。姓。氏。乃。由。緒。二。對。和。泉。國。皇。別。膳。臣。守。太。臣。松。原。臣。阿。倍。朝。臣。同。祖。大。稻。與。命。之。後。也。此。文。乃。攝。津。國。皇。別。高。橋。臣。阿。倍。朝。臣。同。祖。大。稻。與。命。之。後。也。

外山山君筑紫國造越國造伊賀臣丸土族之始祖也
見大書阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及
次大書阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及
朝臣同祖孝元天皇皇子大彥命之後也
京皇別阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及
未小阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及
河別命阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及
城山君乃續紀世六小賀國敢朝臣云々筑紫國造乃事
志賀高亢穗朝御世阿倍阿倍清濁異乎然承此清濁之辨及

命定賜國造云云屋主田心命ハ姓氏録伊賀氏條小
夫稻與命男彥屋主由命伊賀臣ハ夫武御世
十三年子朝臣姓を賜姓氏録右京皇別伊賀大稻與命
男彥屋主由命之後也伊賀大稻與命
立大稻與命許曾倍朝臣名張阿倍志斐連大彥命八世孫
若櫻部朝臣也我下孫伊波我加利命之後阿倍朝臣
他田廣瀨朝臣道公音太部會加臣杖部造坂合部首久
久智坂合部伊我水取吉志三宅以朝下連命之後也
大丘首由比命之後也難波忌寸難波大彥命孫波多也
見見えぬ尾張連上出傳ハ意富那昆
奮事紀五尾張連勤世秋能記神力饒速日命七世

孫建諸隅命乃子倭得玉彦命亦云師大稻親命母ハ葛
大諸見足屋是乃倭出○高那那昆賣名儀女諸見己姫
好上不見之身千々速乃千々同水那那名外兄名
稻月心舊事紀好書亦依ハ稻乃意師ハ兄名
昆心連名少ク賣ハ女乃云色亦是心那
省云州カ同例命ニ此比賣即舊事紀
を考る小大稻日命ハ妹ハ其父の建諸隅
命乃妹大海姫命名葛林高名姫命云ハ此高
名姫其ハ此記乃如く大稻日の妹あり
誤乃其父の妹大海姫乃亦名ハ傳ハ
大海姫ハ水垣宮天
皇妃ハ別宮姫
高千那那賣同母三母在ハ故
葛城之乃云老心注那昆三字以音
ハ那昆賣三字云有倭ハ○味師内宿祢

宇麻志宇智能須久注那昆三字以音
小打切乃例美林字麻志運云名
師學ハ意ハ音ハ取ハ例ハ非
多ハ師ハ木ハ土ハ師ハ切ハ乃如ハ用ハハハ音ハ取ハハハ名
例ハ音ハ訓ハ切ハ雜ハ子ハ書ハ内ハ地ハ名ハ乃ハ其ハ事ハ建
肉宿祢乃處乃云倭ハ宿祢ハ遠飛鳥宮段哥ハ須久祢

此河原是此號乃正一正一見ゆ是假字書を云
 所書紀松記昔稱皇子為大兄大兄又稱近臣為少兄也宿
 稱之義取於此此意の稱御皇乃御名不
 小負給承は御兄の御名太兄不乃不對予少兄也
 申せ侍は須久然も臣のあり賜も侍内を須
 以那延を約く須久云あり侍私記の此文乃次
 必或説帝王相親云曾古尔祿與蓋敬あるは甚細く
 云小足ぬこ侍るおハ舊事紀乃説あり此外
 所小舊事紀宿祿の事を云は皆違ふり侍て此持
 古乃ぬ臣等を尊み親む云は祿あり侍て此持
 祿必おれ侍て浄御原御世より始まり此御世亦八色
 賜は第一真人第二朝臣第三宿祿なり侍て其時諸氏
 賜る侍て此人乃事書紀應神卷小九年夏四月遣武内
 宿祿於筑紫以監察百姓時武内宿祿弟弟美内宿祿
 廢亮節諱言于天皇云々天皇則推問武内宿祿與甘美
 内宿祿於是二人各堅執而爭之是非難決天皇勅之令
 請神祇探湯是以武内宿祿與甘美内宿祿共出于磯城
 川濱為探湯武内宿祿勝之便執橫功以殿作甘美内宿
 祿遂欲殺矣天皇勅之令釋仍賜紀伊直等之祖也直祖
 は建内宿祿乃母家なり賜也ハ其家の奴也侍て其
 なり此事実小應神天皇の九年なりは味師内宿祿ハ
 の命長かり侍て景行天皇の御世乃末孫也見ゆ
 武内宿祿弟弟あるは此記也兄弟乃次序異なり侍て
 是れ也異母なり此記の趣は何れを兄弟也云

宿祿於筑紫以監察百姓時武内宿祿弟弟美内宿祿
 廢亮節諱言于天皇云々天皇則推問武内宿祿與甘美
 内宿祿於是二人各堅執而爭之是非難決天皇勅之令
 請神祇探湯是以武内宿祿與甘美内宿祿共出于磯城
 川濱為探湯武内宿祿勝之便執橫功以殿作甘美内宿
 祿遂欲殺矣天皇勅之令釋仍賜紀伊直等之祖也直祖
 は建内宿祿乃母家なり賜也ハ其家の奴也侍て其
 なり此事実小應神天皇の九年なりは味師内宿祿ハ
 の命長かり侍て景行天皇の御世乃末孫也見ゆ
 武内宿祿弟弟あるは此記也兄弟乃次序異なり侍て
 是れ也異母なり此記の趣は何れを兄弟也云

き、非、波、（舉）、（序）、母、乃、尊、（昇）、次、序、の、書、紀、の、弟、也、也、

体、を、以、定、む、法、也、（山）、代、内、臣、山、代、の、山、城、國、也、（此、國、乃、事、

（水、垣、宮、内、の、和、名、抄、の、山、城、國、綴、喜、郡、守、智、郷、之、也、

（記、書、紀、雄、略、卷、の、山、背、内、村、神、名、式、の、綴、喜、郡、内、神、社、也、

（今、内、里、村、也、云、）、（抄、）、此、姓、の、書、紀、欽、明、卷、（十、四、年、十、五、年、

（内、臣、名、）、乃、事、見、有、之、也、（姓、氏、錄、大、和、國、皇、別、内、臣、孝、元、

天皇、皇子、彦、太、忍、信、命、之、後、也、（ま、と、山、公、内、臣、同、祖、味、内、

宿、祢、之、後、也、（大、和、國、の、後、）、（智、）、（後、）、（木、國、造、

國、造、本、紀、の、紀、伊、國、造、檀、原、朝、御、世、神、皇、產、靈、命、五、世、孫、

天、道、根、命、定、賜、國、造、姓、氏、錄、河、内、國、神、別、紀、直、神、魂、命、五、

世、孫、天、道、根、命、之、後、也、（和、泉、國、神、別、紀、直、神、魂、命、子、

御、食、持、命、之、後、也、（木、國、造、の、水、垣、宮、段、書、紀、敏、達、卷、）

（豐、耳、抄、云、人、見、方、）、國、造、也、（直、）、（同、氏、）、（抄、）、（上、

（卷、）、（天、津、日、子、根、命、木、國、造、祖、也、）、（抄、）、（傳、）、（續、紀、）、（神、龜、元、年、十、

（七、の、七、十、六、葉、）、論、子、係、の、如、（抄、）、（傳、）、（續、紀、）、（神、龜、元、年、十、

月、紀、伊、國、名、草、郡、大、領、紀、直、摩、祖、為、國、造、（天、皇、紀、國、小、行、

天、平、元、年、三、月、紀、直、豐、嶋、為、紀、伊、國、造、延、曆、九、年、五、月、紀、

直、五、百、友、為、紀、伊、國、造、也、見、之、續、後、紀、兼、和、二、年、又、三、代、

實、錄、貞、觀、五、年、小、紀、直、氏、の、人、子、宿、祢、姓、を、賜、（之、也、見、

（之、）、（續、後、紀、喜、祥、二、年、紀、伊、守、伴、宿、祢、龍、男、與、貞、觀、儀、

式、子、出、雲、國、造、也、紀、伊、國、造、也、（任、式、を、載、ら、れ、り、他、

此人乃子孫の後の山城國綴喜郡乃地に移り居住する
 所奮め大和此居地の名を取其地を内村と云は
 内臣中住云ふ又彼子孫も其地を大和乃居地と
 云ふ内臣内臣終云ふ山城に移り其内臣内臣居地と
 云ふ其故も其地を内村と云ふ何れも其地を大和
 乃居地と云ふ本み山城ありは此子孫の居住家依り
 地名なり下巻高津宮段太御歌の以此人哉字知能阿曾
 阿曾賜り書紀神功卷の哥あり然あり阿曾美
 乃畧あり阿曾美の事は彼續紀慶雲四年の詔詞あり
 大御哥の階ありは彼續紀慶雲四年の詔詞あり
 建内宿祢命のよまありは書紀あり彦太忍信命是
 武内宿祢之祖父也阿曾美景行卷の三年春二月庚
 寅朔辛幸于紀伊國將祭祀群神祇而不吉乃車駕止之
 遣屋主忍男武雄心命猪心武令祭爰屋主忍男武雄心

命請之居于阿備柏原而祭祀神祇仍住於此
 遠祖道彦之女影媛生武内宿祢也此記乃傳
 異あり他書也武内宿祢同建内宿祢也武内宿祢
 孝元天皇乃曾孫彦太忍信命孫也龍岡之
 其此因の生員成教卷初天皇與武内宿祢同百生之
 此記乃其故也景行卷三年命紀國
 立為太子年七十四也此記乃其故也景行卷三年命紀國
 然歷代天皇均生坐乎此也此記乃其故也景行卷三年命紀國
 五十年御事也此記乃其故也景行卷三年命紀國
 十一年御事也此記乃其故也景行卷三年命紀國
 年百七歲也此記乃其故也景行卷三年命紀國

小遍々語傳了之り信子六御代乃朝小仕奉了あ忠
誠小功績多續紀三藤原不比等子食封を賜ふ詔小
宿祢命乃仕奉流事止同事叙止勅而云々又天平八
年詔云昔者輕原大宮御宇天皇辭孫建内宿祢盡
事君之忠致以臣之節創為八命長めりあはせ
氏之祖永遺万代之基云々命長めりあはせ
比林下高津宮天皇乃大御歌小那許曾波余能那
賀能比登長乃久乃世の心よせ賜ひ書紀子は難
等能比登長乃久乃世の心よせ賜ひ書紀子は難
許曾波余能那賀乃比登乃の誠小書紀の年紀小據
計林小大元三百歳子餘不及のあ中乃り
景行天運四年乃仁德天皇五十年乃二百八十年乃
九十年乃十二年乃計は二百八十年乃

仁德の五十年より後

仁德の五十年より後幾年存在を
何年乃見あ高敷心定免の
お此乃墓の事見えの書
帝王編年記小仁德天皇七十八年庚寅大臣武内宿
祢久云武内宿祢大臣者六代帝為大臣也遂不知其死
處一書云伐平東夷還時祢身苦由入於申斐國也不知
其死處者一書云入於美濃國不破山一書云還來大和
國葛下郡薨室破賀墓是也云云他書云此類
八十云公卿補任小景行九年己卯生仁德世
年庚寅薨年三百十三云云或云二百五十五
二百八十八云云二百八十八云云二百
云云又武内傳云物小因幡國風王能回難波高津宮
治天下五十五年春三月朕臣武内宿祢御歲三百六十
餘歲當國御下向於龜金履殘御陰所不知蓋因幡
國美郡宇倍山麓有神社也曰宇倍神社是武内宿祢

者。木^キ臣^{オミ}。都^ツ奴^ヌ臣^{オミ}。次^{ツギ}。父^フ米^メ能^ノ摩^マ伊^イ。
坂^{サカ}本^{モト}臣^{オミ}之^ノ祖^{オヤ}。次^{ツギ}。父^フ米^メ能^ノ摩^マ伊^イ。
刃^ヤ比^ヒ賣^メ次^{ツギ}怒^ヌ能^ノ伊^イ呂^ロ比^ヒ賣^メ次^{ツギ}葛^カ。

城^キ長^{ナガ}江^エ曾^{ソウ}都^ト毘^ヒ古^コ者^ノ。玉^{タマ}手^テ臣^{オミ}的^イ。
臣^{オミ}生^{イク}江^エ臣^{オミ}。

阿^ア藝^ギ那^ナ臣^{オミ}。又^{マタ}若^ニ子^シ宿^{ソク}禰^ネ。江^エ沼^ヌ財^{サイ}。
臣^{オミ}之^ノ祖^{オヤ}。

等^ト之^ノ祖^{オヤ}也^{ナリ}。又^{マタ}若^ニ子^シ宿^{ソク}禰^ネ。江^エ沼^ヌ財^{サイ}。
臣^{オミ}之^ノ祖^{オヤ}。

吾^ウ九^クは九^ク人^ニの師^シの許^コ能^ノ多^タ理^リ訓^{クニ}ま^シる^ル。依^ヨら^ズ從^スふ^ル。法^{ホウ}。
古^コ書^{ショ}は見^ミえ

古事記の訓記に、昔の物語文に、
阿藝那臣、又若子宿禰、江沼財、
等之祖也、又若子宿禰、江沼財、
吾九は九人の師の許能多理訓まらる依ら從ふ法、
古書は見え、
城長江曾都毘古者、玉手臣的、
刃比賣次怒能伊呂比賣次葛、
者木臣都奴臣次父米能摩伊、
坂本臣之祖次父米能摩伊、
古事記の訓記に、昔の物語文に、
阿藝那臣、又若子宿禰、江沼財、
等之祖也、又若子宿禰、江沼財、
吾九は九人の師の許能多理訓まらる依ら從ふ法、
古書は見え、
城長江曾都毘古者、玉手臣的、
刃比賣次怒能伊呂比賣次葛、
者木臣都奴臣次父米能摩伊、
坂本臣之祖次父米能摩伊、

依德川小治田官高市郡羽田羽田書紀履中卷此
 羽田來羽田之羽田羽田羽田同羽田羽田此
 羽田內羽田羽田又此羽田子孫河內和泉此彼
 依德川見見和名抄河內國茨田郡幡多神名式小
 和泉國和泉郡波多神社祖根郡波太神社是此
 地也此羽田羽田是此地名也詳南
 依此人乃名書紀是羽田矢代宿祢書是也
 年履中紀乃始波多臣波多は上の波多あり此氏書
 紀天武卷小十三年十一月波多臣賜姓曰朝臣見ゆ
 推古卷波多臣廣庭持統卷羽田朝臣齋波多朝臣
 依後人波多廢帝紀小波多朝臣百嶋中人見尤
 依同人波多廢帝紀小波多朝臣百嶋中人見尤

皇姓氏錄右京小八多朝臣石川朝臣同祖武內宿祢命
 之後也林臣林ハ地名也此小國今多也何
 皇定免之皇和名抄河內國志紀郡拜志
 鄉此羽田羽田彼國與此氏也ハハ天武紀小十三
 年十一月林臣賜姓曰朝臣姓氏錄左京小林朝臣石川
 朝臣同祖武內宿祢之後也皇別林朝臣道守朝
 臣同祖武內宿祢之後也續紀凡九小河內國志紀郡人
 林臣海主野守等改臣賜朝臣ハハ姓氏錄小林宿祢
 異姓也又蘇我入鹿也林臣云依皇極波美
 紀見右ハ何處乃地名子依皇極波美
 臣之ハ地名也詳神名式近江國

伊香郡波弥神社。同郡八代。與志漏神社。丹後國丹波郡
 波弥神社。是此地。天武紀。十三
 年十一月。波弥臣賜姓曰朝臣。釋弥字。在祢子。誤也。
 姓氏錄。よは。此姓見之。續紀。北。播美朝臣。與人。云
 人見ゆ。○星川臣。星字。諸本。並黑。作依。誤也。星川
 は。和名抄。大和國山辺郡星川。保之郷。あふ。是也。武
 國久良郡。伯耆國會見。郡。あふ。此郷名。天武紀。星
 川。臣。麻呂。云。人見ゆ。其子。黒麻呂。續
 紀。七。見ゆ。亦。三。集。十。下。月。星
 川。臣。賜姓。曰。朝臣。姓氏錄。大和國。星川。朝臣。石川。朝臣
 同祖。武内宿祢之後也。敏達天皇。御世。依居地。賜姓。星川

臣。淡海。臣。崇峻。紀。近江。臣。滿。云。人見ゆ。此
 姓。姓氏錄。見之。淡海。真人。淡海。朝臣。○長谷部君
 續紀。北。六。長谷部。木麻呂。長谷部。公。真子。此。九。參河
 國。碧海。郡。人。長谷部。文選。あ。云。以。見。此。氏。人
 和名抄。參河國碧海郡。乃郷名。長谷部。所
 和名抄。其。あ。世。假字。作。は。像。あ。
 若。此。假字。付。よ。あ。し。は。此。郷。八。長谷部。を。長字
 茂。省。ま。二。字。よ。書。依。例。切。り。は。續紀。北。此。郡。よ。此。氏
 入。現。え。れ。れ。此。より。出。此。姓。も。姓。氏。録。よ。見。之。長谷
 部。造。姓。あ。り。右。の。氏。々。乃。外。あ。れ。姓。氏。録。よ。左。京。道。守。朝臣
 波多。朝臣。同祖。波多。矢代。宿祢。之後也。河内國。道守
 朝臣。波多。朝臣。同祖。武内。宿祢。男。八。多。八。代。宿祢。之後也。

道宗臣道守朝臣同祖武内宿禰男波多八代宿禰之後也和泉國皇別道守朝臣波多朝臣同祖八多八代宿禰之後也三代實錄九小右京人園屋公祖代賜姓八多朝臣其先出自八代屋代宿禰也抄乃抄○許勢小柄宿禰許勢抄居地名小和名抄大和國高市郡巨勢郷乃此乃神名帳同郡巨勢山坐石掠孫神社あり万葉小巨勢山を賦歌多一の北四丁七乃六丁十の勢道一八北四丁乃許湍乃春野抄乃りり巨小柄は表加良教訓抄舊印本小柄を朝作抄ハ誤なり諸本亦小柄抄乃り抄名抄小柄器物莖一和名衣云賀良衣三代實錄五小八男韓抄書名義未思得

此代實錄第五男也見之乃許勢臣許勢乃生乃如也此氏乃引系續紀文乃依小柄宿禰乃禰乎利宿禰の後抄書紀繼躰卷小元年許勢男大臣大臣乃依乃現抄北三年九月薨孝德卷小大化五年巨勢德陀古臣為左大臣齊明紀四年正月薨此外此氏人ハ此彼現乃乃助天武紀小十三年十一月巨勢臣賜姓曰朝臣姓氏錄右京皇別巨勢朝臣石川朝臣同祖巨勢雄柄宿禰之後也巨勢械田朝臣雄柄宿禰四世孫稻茂臣之後男荒人天豐財重日足姬天皇謚皇極御世遣佃葛城長田其地野上溉水難至荒人能解機術始造長槭川水灌田

天皇大悅賜滅田臣姓也。巨勢斐太大臣。巨勢滅田同氏。巨勢雄柄四世孫。稻茂男。荒人之後也。許勢臣稻持欽。巨勢滅田臣武内宿禰之後也。○雀部臣天武紀。十三年十一月。雀部臣賜姓曰朝臣。續紀十八。小典膳正六位下。雀部朝臣真人。等言。磐余玉穗宮。勾金椅宮。御宇。天皇御世。雀部朝臣男。人為大臣。供奉而誤紀。巨勢男。大臣。真人等。先祖。巨勢男。柄。宿禰。之男。有三人。星川。建日子者。雀部朝臣等。祖也。伊弉宿禰者。輕部朝臣等。祖也。牟利。宿禰者。巨勢朝臣等。祖也。淨御原。朝廷。定八姓之時。被賜雀部朝臣姓。然則。巨勢雀部。雖元同祖。而別姓之後。被任大臣云。

云。望請改。巨勢大臣。為雀部大臣。云々。大納言從三位。巨勢朝臣。奈麻呂。亦證。朝其事。於是。下知治部。依請。改正之。男人大臣の事許。姓氏錄。左京。小雀部朝臣。巨勢朝臣。同祖。建内。宿禰。之後也。星河。建彥。宿禰。謚。應神。御世。於皇太子。大鷦鷯。尊。繫木。綿禰。掌監。御膳。因賜名。曰大雀臣。之。雀部。負。由。緣。切。也。又。攝津國。雀部朝臣。巨勢朝臣。同祖。建内。宿禰。命。之後也。文德實錄六。小雀部朝臣。春。臣。等。改。姓。紀。朝臣。等。所。由。神。八。井。耳。命。の。御。後。也。此。同。姓。也。彼。處。云。依。如。し。○輕部臣。輕部。云々。大和國。高市郡。

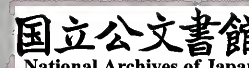
二十 二十五

又附敏達紀曰蘇我馬子宿禰の附加藤淵は非彼...
川村...
各ハ河内の依り...
蘇我臣上の蘇我山依り...
滿智宿禰...
元年以蘇我稱目宿禰為大臣欽明紀卅一年三月薨...
年以蘇我馬子宿禰為大臣推古紀卅四年五月薨...
蘇我蝦夷臣大...
我倉山田石川麻呂臣右大臣...
天智紀曰三年五月大紫蘇我連大臣薨...

蘇連子...
赤沓臣為左大臣天武紀元年八月配流...
天武紀十三年...
此...
孝元天皇皇子...
二...
並賜姓宗岳朝臣...
宿禰...
書...
改...
本後紀...
古事記傳二十一
二十六

皇川哉忌又我を岳よ改多し此集古本八皆
真名は宗岳書跡を志を心也を心也後人乃お中
考乃如之書皆付の字改云今按宗岳書迹餘材抄の
が如くは乃字を改云然改は古の如くは乃
も古の字を撰びて人名の如くは乃字を撰びて
頃亦心乃本より初名が如くは乃字を撰びて
然亦心乃本より初名が如くは乃字を撰びて
取亦心乃本より初名が如くは乃字を撰びて
え心乃本より初名が如くは乃字を撰びて
川朝臣の人は世よ多し見れど石
名諸國は多かれは何也定先難大和名抄は攝津國
河邊乃倍郡これなり其餘畿内は山城國葛野
郡大和國土市郡天日郡天志郡天相郡天武郡天
氏人書紀は彼此見れど天武紀は天武十三年正月

川邊臣賜姓曰朝臣姓氏錄
世孫宗我宿禰之後也此宗我宿禰也蘇我石川田
中臣此地乃體なり次舒明紀八年庚辰國奉宮天皇遷
居田中宮也此天和國高市郡東田中村あり其
記云又神樂河原鎮御所中臣也此天武紀
郡於此勝云也此觀万葉十三長哥見ゆは其郡
今水田中村あり卷多奇の内は亦上卷の
倭田中直也云姓氏傳云此天武紀
又田中臣足麻呂田中臣鍛師あり見ゆ十三年十一月
田中臣賜姓曰朝臣姓氏錄右京田中朝臣武内宿禰五



世孫稻目宿禰之後也。○高向臣此地タカムカシ地タカムカシ體タカムカシ不定タカムカシ也。

和名抄云越前國坂井郡高向多加無古神名式同郡

亦高向神社云云此地ハ繼躰紀見天皇乃御母振媛也

○本郷又因幡國公上郡多加糸久神社云云又河内

國錦部郡云今高向村此内推古

高向漢人玄理云云此高向河内志武内宿禰亂云此高向臣姓思ひ混云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

也見也天武紀云云此氏人舒明紀皇極紀天武紀

紀子櫻井寺推古紀小櫻井見功之れ小右の河内乃
小中河以也又神名式云和泉國大鳥郡櫻井神社あり
又今大和國十市郡丹波櫻井也云處あり其外國々小
此下此氏人舒明紀小櫻井臣和慈古見功天武紀小亦
三年十月朔櫻井臣賜姓曰朝臣姓氏錄左京櫻井朝臣
石川朝臣同祖蘇我石川宿禰四世孫稻目宿禰大臣之
後也○岸田臣此氏人天智紀岸田臣麻呂見功天
武紀岸田臣賜姓曰朝臣姓氏錄右京
岸田朝臣武内宿禰五世孫稻目宿禰後也男小祚臣孫
耳高家居岸田村因負岸田臣號也岸田村國を云

武内宿禰語之曰是何瑞也大臣對言吉祥也復當昨日
臣妻產時鷓鷯入于產屋是亦異焉爰天皇曰今朕之子
多美許母幣具理能夜麻能云雄略天皇の天
六下以重疊評群乃山云此人書紀仁德
卷以初天皇生日本菟入于產殿明且譽由天皇喚大臣
武内宿禰語之曰是何瑞也大臣對言吉祥也復當昨日
臣妻產時鷓鷯入于產屋是亦異焉爰天皇曰今朕之子
群神社平群坐紀底神社あり倭建命乃御歌多
是謂之評群郷亦あり神名帳同郡平群在床神社平
群神社平群坐紀底神社あり倭建命乃御歌多
多美許母幣具理能夜麻能云雄略天皇の天
六下以重疊評群乃山云此人書紀仁德
卷以初天皇生日本菟入于產殿明且譽由天皇喚大臣
武内宿禰語之曰是何瑞也大臣對言吉祥也復當昨日
臣妻產時鷓鷯入于產屋是亦異焉爰天皇曰今朕之子

與大臣之子同日共獲並有瑞是天之表焉以為取其鳥
 名各相易名子為後葉之契也則取鷓鴣名以名太子曰
 大鷓鴣皇子取木菟名号大臣之子曰木菟宿祢是平群
 臣之始祖也此河神竟真集哥子都致教久祢須女羅加
 遠伊婆布奈理氣利三の向ハ名易世世久祢須女羅加
 小本菟尔雅注因似鳴而少鬼頭垂角者也和名都久此
 人の第三男坐三代實録子見之引下履中紀子二
 年當是時平群木菟宿祢蘇賀滿智宿祢物部伊苜佛大
 連圓大使共執國事此紀人應神紀三年其間百
 三十年乃以長壽くして百平群臣上乃平群子依
 五十年歲子餘此けむし
 此乃此氏人雄畧紀乃初子以平群臣真鳥為大臣武烈
 初子真鳥大臣子鮪此外見ゆ天武紀子十三年十一
 臣心共み誅る依

月平群臣賜姓曰朝臣姓氏錄右京平群朝臣右川朝臣
 同氏武内宿祢男平群都久宿祢之後也三代實録五十
 以右京次平群臣春雄平群臣秋雄平群臣秋常春常等
 四人賜姓朝臣春雄自言祖出自都久宿祢矣○佐和良
 臣此ハ何國の地名より詳なり若ハ和名抄云筑前
 國早良郡あり早良郷平群郷並びてあり是ハ但此
 郡小郷共子佐波良ハ假字異なり然其心
 姓氏録云ハ此姓を小早良ハ書ハ彼郡郷小本ハ
 佐和良ありけむ後子和を波ハ唱誤也此ハ
 早字ハ佐字ハ音ハハ韻を通音ハ和子通ハ
 取字ハなり若ハ例なりハハ入声ハ乃韻
 為字を用あり例なりハハ入声ハ乃韻

例をよみ解り知サリ其外神名帳ミ美作國大庭郡佐波良
神社攝津國嶋下郡佐和良義神社サカ河内
人ハ續紀州六ミ佐波良臣靜女サカ云見ゆ姓氏錄河内
別早良臣平群朝臣同祖武内宿禰男平群都久宿禰之
後也○馬御ウマ檄ウチ連檄字ハ説文子杖也ウチ注ハ玉篇ハ繫
牛杖ウチ注ハ多水ハ久比ヒ訓法ハ古ハ此地名也
聞キ之コト如何イ切カ由乃姓氏ミ詳サカ於カ他書ハ見ミ之
依ヨ之コト無シ一ハ姓氏錄大和國馬工連平群朝臣同祖平
群木鬼宿禰之後也ウチ此コト姓氏ハ乃ハ如ク河内ハ聞キ之
御檄ウチ江カ野ノ五ノ姓ハ由ル心得ハ抄ノ和名

筑前國嘉麻郡馬見牟万美神名式子近江國蒲生郡馬
見ミ國神社野洲郡馬路石邊神社齊明紀子能登臣馬見
龍リウ也云人名ル河内ハ久比ヒ宇麻美ウマ也
依ヨ言ハの例ヲをモてシ河内ハ久比ヒ但シ馬路ハウチノ也
知チ之コト依ヨ之コト右ハ乃ハ氏ハ文ハ外ハ都ハ久ハ宿禰ハ子孫ハ
姓氏錄子平群文室朝臣都久宿禰之後也都保朝臣平
群朝臣同祖都久足尾ハ之後也額田首早良臣同祖平群
木鬼宿禰之後也不尋父氏負姓額田首未定雜姓子
韓海カラ都首武内宿禰男平群木鬼宿禰之後也ウチ見ミ之
三代實錄五子味酒首文雄味酒首文主味酒首文宗等
三人並賜巨勢朝臣先是巨勢朝臣河守等奏言文雄カ欸
備先祖出自武内宿禰大臣也大臣第五男巨勢男韓宿

祿是巨勢朝臣之祖第三男平群木鬼宿祢即是文雄之
 祖也木鬼宿祢之後賜味酒臣姓淪落貫伊勢國至于文
 雄祖宗改臣賜首姓云云是以改姓之望朝夕刻思云云
 但須順祖胤之流賜平群之姓而平群之字祢謂是凡巨
 勢之文義理堪愛云云特賜巨勢朝臣之姓將慰沉淪之
 懷從之神名武伊勢國首辨郡平群神社河津此氏
 人乃彼國淪落志伊勢國首辨郡平群神社河津此氏
 やあ木角宿祢木は紀伊國之建内大臣乃生坐家國
ら由縁ありあり又和名抄山城國紀伊岐郡紀
 伊郷之内也和名抄子周防國都
 濃郡都濃郷其由は次云造本紀周

防國造次曰都怒國造難波高津朝紀臣同祖都怒
 境由鳥足屋院賜國造此河角宿祢乃傳是應神
 紀仁德紀亦見於此木臣米山在の味高此氏又
 雄略紀亦紀小男宿祢紀大磐宿祢小鹿火宿祢顯宗
 紀生磐宿祢紀大磐宿祢欽明紀紀男麻呂宿祢其外亦
 見ゆ天智紀紀大入臣為御史大夫御史蓋今天武
 紀計三年十平明紀臣賜姓曰朝臣姓民錄左京別紀朝
 臣石川朝臣同祖建内宿祢男紀角宿祢之後也右京別紀
 朝臣石川朝臣同氏屋主忍雄建猪心命之後也建猪心
 行紀子見三代實錄九左京山山村忌寸安野
 肉未臣乃父三代實錄九左京山山村忌寸安野

夏野金子等賜姓紀朝臣紀角宿禰之後也此見ゆ神名
帳小大和國平群郡平群坐紀氏神社名神大月所此
社平群坐を以て見ゆ此木臣乃子有建○都怒
内大臣乃孫の氏の都怒氏神都怒
臣雄略紀元九年紀小弓宿禰を大將軍也此新羅伐
討次給小弓宿禰新羅在病志死也燒あ七
加ば子小鹿火宿禰父乃喪小從ひ還不葬死獨留角
國使倭子連奉八咫鏡於大伴大連而祈請曰僕不堪共
紀卿奉事天朝故請留住角國是以大連為奏於天皇使
留居于角國角臣壽初居角國而名角臣自此始也此
至角國は周防國あは都濃郡之にあり小鹿火宿禰は
紀氏也云あり

毛小弓宿禰乃子也云々紀文あはは是疑ひ
みは見えざる必然不疑く聞ゆはあり是疑ひ
引きあはは河少其故也既必祖乃名角宿禰也云は
角國又因是所之也聞之あみ小鹿火宿禰至
初角國小留居ふ依て角臣名之はいわぬ
也はあり故按角宿禰仁德紀四十三年百濟
小遣されし事河は還來不時角國小留居角
宿禰の事上引る國造木紀誤りて小鹿火宿禰乃
事小語傳りあはは非あ又祖の代より由縁あ
は地ある故也小鹿火宿禰小留居あはあはは
此氏人天武紀都努臣牛甘見ゆ十三年十一月角臣

賜姓曰朝臣。姓氏錄左京別角朝臣。紀朝臣同祖。紀角宿祢之後也。神名或曰日向國兒湯郡都濃神社也。○坂本臣
 坂本和名抄和名抄子。和泉國和泉郡坂本佐加鄉之也。
 次小引知書。此氏人根臣。穠宮段。見書紀雄略。
 卷小根使主。日根臣。稻城造。事見日根。和泉國乃郡。
 其外心書紀。其彼見。天武卷小。十三至十五。
 月坂本臣賜姓曰朝臣。續紀卅六小。天應元年。和泉國和泉郡人。坂本臣系麻呂等六十四人。賜姓朝臣。姓氏錄左京別坂本朝臣。紀朝臣同祖。紀角宿祢男白城宿祢後也。又和泉國坂本朝臣。紀朝臣同祖。建內宿祢男紀角宿祢之

後也。男白城宿祢三世孫。建日臣。因居賜姓坂本臣。又津攝國皇別坂本臣。紀朝臣同祖。彦太忍信命孫。武內宿祢之後也。續後紀小讚岐國人。坂本臣鷹野請除讚岐之籍。帳復和泉舊墟。許之云云。坂本臣鷹野等十三人。改臣賜朝臣。建內宿祢男紀角宿祢後也。於右の氏々外の角宿祢の子孫ハ。姓氏錄小掃守田首武內宿祢男紀都奴宿祢之後也。紀建內宿祢男紀角宿祢之後也。紀部建內宿祢男都野宿祢命之後也。紀辛梶臣建內宿祢男紀角宿祢之後也。一本辛字ハ。大家臣建內宿祢男紀角宿祢之後也。諡天智庚午。年依居大家負大宅臣姓掃守田首

武内宿祢男紀角宿祢之後也。丈部首同上。○
 久米能摩伊比賣久米之地名。大和國高市郡乃久米
 也。此地乃乃久米。傳摩之真伊刀乃伊刀富志牟
 意乃名也。上卷八千矛神の御歌。伊刀古夜能伊何
 休處。傳十一の考合考法也。○怒能伊比賣怒の意は
 未思得也。又怒云言人名多くありは若ハ沼矛
 玉依比賣あや乃如し。沼て名名の例は水垣宮久米の
 段沼名木之入日賣命乃下云。傳二十三
 例乃依らば此の地名乃何れも伊比賣の浮穴宮段
 常根津日子伊比賣命乃下。傳十一の十葉。云云如く同段
 乃。蠅伊比賣伊比賣伊比賣云名もあり同意なり。○葛城

長江曾都毘古葛城乃事は上に出也。傳十一の
 葛城乃居御歌。御女石之比賣命乃御歌。如
 豆良紀多如。美夜和藝幣能阿多理也。乃賜也。又書紀
 允恭卷亦此人の孫玉田宿祢乃家葛城乃事。趣見也。
 處也。乃詳也。天武紀。九年。幸于朝妻。因以著大
 神名。紀。乃大和國。葛城郡。長柄。神社。是也。此長柄
 且葛上郡。乃借字也。柄。書。乃例也。乃見也。乃
 乃。輕嶋宮。段。遠。飛鳥宮。段。乃河内。惠賀之。長江
 云地見也。乃神名式。志。絶。郡。志。絶。長。吉。神。社。乃

此ありさし其處定難也。但河内國多々見ゆ。
 下如引ふ曾以熊曾及曾必同北其意ハ傳五十六云
 此此人甚勇健ゆ故又此名を負ふゆ。都
 の通子辞ゆ。書紀景行卷小日向襲津彦皇子神
 次りゆ。依て此人乃棟書紀神功應神仁徳の卷小
 見ゆ。神功卷五年初見。仁徳乃四十二年
 万葉十一丁小葛木之其津彦真弓荒木尔毛云云
 よあり。駿河風土記云荒木田襲津彦ゆ。伊賀風土
 記云阿拜郡荒木山有神号須智明神所祭猿田
 彦武内宿祢葛城襲津彦也。ゆ。神名式云須智荒木
 神社古今著前集。伊賀荒木白髮明神乃相殿小坐葛
 城襲津彦ゆ。武。玉手臣玉手云地大和子河内子
 内の御子あり。

元有之其傳傳北

北七葉

云云此姓何依

天武紀小廿三年十一月玉手臣賜姓曰

朝臣姓氏錄右京玉手朝臣武内宿祢男葛木曾頭曰

命之後也。的臣的。神久波。割。景行卷小

膳夫等遺蓋故時人。浮。其。德。蓋。處。田。浮。羽。今。謂。的。者。誰。也。

昔筑紫俗号蓋曰。浮。羽。皇。勅。曰。惜。呼。朕。之。酒。蓋。因。曰。宇。積。

波。夜。郡。後。人。誤。号。生。葉。郡。俗。語。云。酒。蓋。為。宇。積。因。曰。宇。積。

惜乎。云。意。初。和。各。抄。云。意。初。後。國。生。葉。郡。以。波。夜。郡。後。人。誤。号。生。葉。郡。俗。語。云。酒。蓋。為。宇。積。因。曰。宇。積。

張國海都郡伊久波神社和名抄淡路國津名郡有波以

的字在書紀卷之書紀令射卷仁德射於朝廷卷孝德射于
 西門庭卷天武切也河生射也伊久布也伊久比須也
 訓家射也射也射也射也射也射也射也射也射也射也射也
 的也伊久波也云也又天武紀射也射也射也射也射也射也
 波之本也射也射也射也射也射也射也射也射也射也射也
 古路世間云阿字鏡也的人姓由久波也河也此姓也
 無豆知也河也伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由
 云依也伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由伊由
 由緣也書紀仁德卷十二年秋八月庚子朔己酉饗
 高麗客於朝是日集群臣及百寮令射高麗所獻之鐵盾

的諸人不得通唯的臣祖宿人宿射鐵的通焉時高
 麗客恭見之畏其射之勝巧共起於拜潮明日美指人宿
 祿而賜名曰的臣宿祿也其是也今也此也人初
 名戶田也時也此也時也人宿祿也其是也今也此也人初
 賜也名曰的臣宿祿也其是也今也此也人初
 及也小的也宿祿也其是也今也此也人初
 美爾蘇奈多麻波利也遠度保世流也此也人初
 後也心往也見也心也後也心往也見也心也後也心往也見也心也
 無也心往也見也心也後也心往也見也心也後也心往也見也心也
 氏の中は漏る後美爾蘇奈多麻波利也遠度保世流也此也人初

石川朝臣同祖彦太忍信命三世孫葛城襲津彦命之後也。又河內國的臣道宗朝臣同祖武內宿祢男葛城曾都皇別比古命之後也。又和泉國的臣坂本朝臣同祖建內宿祢男葛城襲津彦命之後也。○生江臣生江地名譽聞之地也。何國國未考得此氏人續紀十七尾張國山田郡人生江臣安久多比小生江臣智麻呂九子生江臣東人切云見云云國造本紀子德國造洺瀨朝倉朝以生江臣祖葛城襲津彦命四世孫菟上定屋定賜國造德國八三河國姓氏錄左京皇別生江臣石川朝臣同祖武內宿祢之後也。○阿藝那臣是儿地名云未考

得得方葉十四相模國哥小阿之我里乃安伎奈乃夜麻賀郡松本云真上阿祇賀郡松本云真上阿祇姓氏錄攝津國阿伎奈臣玉手朝臣同祖武內宿祢男葛城曾都比古命之後大和國阿祇奈君云又阿伎云云皇別阿伎奈臣玉手朝臣同祖武內宿祢男葛城襲津彦命之後也。鹽屋連道守連氏錄云葛城朝臣葛城襲津彦命之後也。鹽屋連道守連同祖武內宿祢男葛城曾都比古命之後也小家連鹽屋連同祖云云原井連同上與等連鹽屋連同祖云云布恩首的臣同祖布師臣洞正反未定神噶木襲津彦命男腰裙宿祢之後也。續紀四十一忍海原連兼養等言謹檢

古牒云葛木襲津彦之第六子曰熊道足祢是魚養寺之祖也熊道足祢亦世孫首麻呂飛鳥淨御原朝廷辛巳年貶賜連姓尔来云云望請除彼舊号賜朝野宿祢云云朝野者所處之本名也依請賜之續後紀曰大和國入忍海原連嶋依同姓百舌等賜姓朝野宿祢葛城襲津彦之後也十二又右京人參議從三位朝野宿祢鹿取男女總十九人改宿祢賜朝臣國牽天皇三世孫武内宿祢第六男葛木襲津彦之後也見也○又若子宿祢又字上乃例也依次爲姓也然云云是故也依宿祢乃下小者字の無き上乃例也

由異あり若子ハ和久暮賀訓勝馬書紀武烈卷歌少思寐能知眼吾_結子羅蘇卷哥ハ體那能後俱吾_{羊野}舒明卷哥ハ氣魂能和_吳葉_四時能乃和久胡_殿の若_あ少壯_人を美_云依祢切内_都天此宿祢ハ其を_白乃_名日_負依祢乃_江沼財臣財崇ハ間切_其津_兼延佳_云信_然依祢也_江落_間内_地名_小乃_和名抄_ハ加賀國_法沼_郡乃_乃國造本紀_能登_國造_の上_小江沼國造柴垣朝御世蘇我臣同祖武内宿祢四世孫志波勝足_定賜國造_乃乃_書紀欽明卷乃越人_江津_臣裙_代乃_去見_乃續_絶乃_五乃_女孺

江沼臣麻蘇比後紀小江沼臣小並奴等云久見之
姓氏錄大和國江沼臣石川同氏建内宿祢男若子宿祢
之後也下也也字無きは前後の例に祖字の丑件
九人華建内宿祢大臣乃子也亦此大臣亦子孫也
右乃氏之孫外也也姓氏錄云田其朝臣石川朝臣同祖
武内宿祢大臣之後也云云曰佐紀朝臣同祖武内宿祢
之後也欽明天皇御世率同族四人國民三十五人歸化
云云此ハ此大臣乃男等の韓國小罷行なり事書紀
子乃味曰佐紀朝臣同祖武内宿祢之後也池後臣建
内宿祢之後也山口朝臣道守朝臣同祖武内宿祢之後

也切此見之三代實錄十四小辨田首安雄賜姓純朝臣
安雄自言武内宿祢之裔也續後紀西小辨波國大天村
直福告及其同族等五又賜姓紀宿祢焉武内宿祢者枝
別也也見之又姓氏錄云出延臣孝元天皇皇子
臣乃子孫也此大臣乃男等の韓國小罷行なり事書紀
子乃味曰佐紀朝臣同祖武内宿祢之後也池後臣建
内宿祢之後也山口朝臣道守朝臣同祖武内宿祢之後
也切此見之三代實錄十四小辨田首安雄賜姓純朝臣
安雄自言武内宿祢之裔也續後紀西小辨波國大天村
直福告及其同族等五又賜姓紀宿祢焉武内宿祢者枝
別也也見之又姓氏錄云出延臣孝元天皇皇子
臣乃子孫也此大臣乃男等の韓國小罷行なり事書紀
子乃味曰佐紀朝臣同祖武内宿祢之後也池後臣建
内宿祢之後也山口朝臣道守朝臣同祖武内宿祢之後

此天皇御年伍拾漆歲御陵在
劔池之中岡上也

御年伍拾漆歲書紀ふハ五十七年秋九月壬申朔癸酉

大日本根子彦國彥天皇崩御、御名を記ささる御年は記さるに依り百十或書ふハ百十七

御名を記ささる御年は記さるに依り百十或書ふハ百十七

天子年十九、御名を記ささる御年は記さるに依り百十或書ふハ百十七

七百二十六也云云、〇劔池書紀應神卷ハ十一年冬

九月作劔池也、此記ゆハ同御世ハ此、舒明紀ハ

七年秋七月瑞蓮生於劔池、一莖二花皇極卷三年也

於劔池蓮、中有一莖三葉者云云、万葉十三卷ハ御佩

乎劔池之蓮、葉尔切也、見ゆ御陵ハ書紀開化卷ハ五年

春二月丁未朔壬子葬大日本根子彦國彥天皇于劔池

嶋上陵、今思ふハ此池ハ應神御世ハ出来諸陵式ハ劔

池嶋上陵、輕境原宮御宇孝元天皇在大和國高市郡兆

域東西二町南北一町守戸五畑也、大和志ハ在石

河村劔池、南俗呼中山冢、陵畔圓丘六也、前皇崩陵

劔池在高市郡難波池、中有靈劔也云、此池石川村ハ東

難波池有靈劔也云、依ハ心得、此池石川村ハ東

池有、今ハ大なる池也、東西乃徑四町あり、石川

村ハ御陵乃山ハ南方より池中より衝出、まはる小嶋

乃方あり、西南の方まに廣く周せり、應神天皇の御代

都ツヒメノミコトヲメシテ比賣命意祚都命生御子日ウニセル

子坐王イニスノミコ又娶葛城之垂見宿柱又娶葛城之垂見宿

禰之ムスメヲシヒメラメシテウニセル女鸕比賣生御子建豐波禰之女鸕比賣生御子建豐波

豆羅和氣王ヅラフケフミコ一柱自波下此天一柱自波下此天

皇之御子等并五柱ミコトノミコ男女ヒメヲミコト王ヒトハシラ四ヨハシラ皇

此天皇后の漢様乃御謚開化天皇也申波

照田宮段出傳批一郡伊邪河神名帳

此郡率神坐次神社藥川阿波神社

川社也乃此大神御子神社

天皇社也乃此大神御子神社

河乃御陵林小路町此云在

内西旗城代此云在春日地

假石百五步云云方葉老波

乃南を經てかの子守町

都子補皇

此書紀元年終十胡丙申朔戊申遷都于春日之地
 酒樽是謂率川宮伊勢川此云春日山也
 丹波大迹波丹後大迹波乃美知乃之利又丹後國成丹
 波郡丹波鄉あり續紀奈小和銅六年正月割丹波國五
 郡始置丹後國也此名多迹波おほき後世
 此訛也音便波也濁音なり名義未得取此訛
 仁縣主也此乃大名おの波次一縣の名お
 彼丹波郡丹波郷の所なり地志云於丹波國乃大
 縣主也出大縣主縣主の事ハ中傳七乃ハお
 其乃大縣主也出大縣主縣主の事ハ中傳七乃ハお
 孫孫可也號為朝倉宮殿志幾之夫縣主殿是
 見克續紀は坂上大忌寸縣大養大宿祢陸真大國造
 皆同例なり大ハ殊主稱子美也
 又ハ乃考河内其志實宮殿小云陰傳并左
 姓氏錄河内國神別小大縣主云姓あり其別家
 由基理名意味思得次許理也云例古書絶景
 武國凝別皇系神功卷小熊之凝應神卷小浦凝
 卷上卷憶伎嶋乃跡名忍許呂別家乃許
 竹野比賣和名抄小冊後國竹野乃加
 此地名因建名抄乃神名式小同郡

此書紀元年終十胡丙申朔戊申遷都于春日之地
 酒樽是謂率川宮伊勢川此云春日山也
 丹波大迹波丹後大迹波乃美知乃之利又丹後國成丹
 波郡丹波鄉あり續紀奈小和銅六年正月割丹波國五
 郡始置丹後國也此名多迹波おほき後世
 此訛也音便波也濁音なり名義未得取此訛
 仁縣主也此乃大名おの波次一縣の名お
 彼丹波郡丹波郷の所なり地志云於丹波國乃大
 縣主也出大縣主縣主の事ハ中傳七乃ハお
 其乃大縣主也出大縣主縣主の事ハ中傳七乃ハお
 孫孫可也號為朝倉宮殿志幾之夫縣主殿是
 見克續紀は坂上大忌寸縣大養大宿祢陸真大國造
 皆同例なり大ハ殊主稱子美也
 又ハ乃考河内其志實宮殿小云陰傳并左
 姓氏錄河内國神別小大縣主云姓あり其別家
 由基理名意味思得次許理也云例古書絶景
 武國凝別皇系神功卷小熊之凝應神卷小浦凝
 卷上卷憶伎嶋乃跡名忍許呂別家乃許
 竹野比賣和名抄小冊後國竹野乃加
 此地名因建名抄乃神名式小同郡

竹野神祇小あり。書記無仁卷。丹波、吾女孫中あり。竹野媛也。云同名あり。○比古由牟須美命。命傳下州。由味乃意未思得。改^由外祖父乃名。由^由地各。然乃須美乃事。其卷熊野久須美命。命傳下州。由味云。乃如^小姓氏録。小忍海部。南化天皇皇子。比古由牟須美命。之後也。出^下忍海部。造乃書記。納丹波竹野媛為妃。生彦湯產隅命。亦名彦蔭實命。舊傳紀小彦蔭等。祖彦湯產隅命。記^下伊勢品。庶母石美麻遲部君。吉備品。遲君。乃下考命。改^下伊勢品。○庶母石美麻又波女。訓法。美和名抄集。継糸和名。乃文知。継母乃波。冷本。無乃波。字鏡。嫡母乃

波々。庶兄乃々兄。相照。心得。漢國小乃乃差別。非所生母。庶母。庶兄を乃々兄。考合。傳北の三十九葉。延佳小委。乃々兄。考合。傳北の三十九葉。延佳本小。乃々兄。考合。傳北の三十九葉。延佳不^合命乃御姨。小御合坐。類あり。是も上代小不^合命乃御姨。小御合坐。類あり。是も上代小今漢國のさ。を以。上代乃事。伊賀迦色許賣命。を乃々兄。乃々兄。考合。傳北の三十九葉。延佳上小出。御真木入。日子印惠命。此命乃御段の歌。乃美麻紀伊理。毘古。あり。御名義。御真詳。乃木乃城。入。乃伊呂兄。伊呂妹。乃伊呂。乃親子愛。乃

て云依稱あり。此、事淳元宮、段常根津日子伊呂泥命乃下傳北一の十葉命
委、云、此、後御子、乃御名、入、毘古、入、毘賣、申、次
か多き、皆同、才、乃、御名、入、毘古、入、毘賣、申、次
里、侍、又、某、之、入、日、古、某、之、入、日、女、其、之、上、之、字、何
は、御、名、小、あり、之、字、無、き、ル、何、り、無、き、ハ、漆、ニ、ル、讀、を、也
不、處、み、ル、能、字、無、け、也、は、之、字、無、き、御、名、ハ、之、也、は、讀、ぬ
心、あり、侍、其、外、伊、理、泥、王、又、日、代、宮、段、柴、野、入、杵、あり、也
云、名、乃、伊、理、心、同、ト、孝、德、紀、二、年、乃、處、小、子、代、入、部、御、名、
御、子、代、定、某、部、ま、之、為、御、名、代、定、某、部、云、之、多、き、を、
の、御、子、代、御、名、代、定、某、部、ま、之、為、御、名、代、定、某、部、云、之、多、き、を、
毛、乃、を、入、部、ま、之、為、御、名、代、定、某、部、云、之、多、き、を、
ハ、其、御、名、也、後、世、ま、で、遺、る、を、多、き、を、定、免、置、侍、其、ハ、
其、人、を、愛、し、子、思、ひ、坐、て、死、事、り、故、み、入、心、ハ、云、あり、
侍、然、れ、ハ、伊、理、辨、也、訓、法、ま、り、今、本、子、心、ト、モ、ハ、

部、御、訓、ふ、ハ、漫、訓、あり、又、後、世、に、遺、る、を、多、き、を、定、免、置、侍、其、ハ、
御、亦、往、昔、也、各、世、に、依、假、名、所、書、紀、也、至、平、瓊、殖、也、書
此、也、御、訓、ふ、ハ、知、侍、言、義、ハ、未、思、得、淡、玉、壇、朝、の、皇、子、也、
印、色、之、以、有、子、命、也、申、次、ハ、何、り、迹、也、云、ハ、形、不、彼、此、乃
名、又、多、し、惠、ハ、御、真、津、日、子、訶、惠、志、泥、命、の、惠、等、同、ト、也、
御、真、津、日、子、訶、惠、志、泥、命、此、御、名、義、ハ、詳、矣、也、傳、三、十、一
考、合、次、大、彦、命、乃、御、女、也、此、同、名、也、水、垣、宮、段、は、現
在、也、彼、處、乃、傳、北、三、小、云、依、之、考、合、也、侍、書、紀
小、六、六、年、春、正、月、辛、丑、朔、甲、寅、立、伊、香、色、謎、命、為、皇、后、是、

也。后生御間城合彦五味瓊殖天皇也。御所は。此、同母兄
弟の坐す所。丸迹臣丸字のウの音を取、丸迹和乃
假字なり。丸ハ廣韻ハ胡官反、ウハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
多ク、詁ハ胡掛反、ウハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
胡光反、ウハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
外ハウカカ多ク、丸ハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
迹ハウカカ多ク、丸ハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
ハヒガ、丸ハ胡音ワ、慧ハ胡音ケ、反ハ反切ノ上ニ、胡字
續紀姓氏録ハ、丸部也。書キ、万葉
十一ハ、相狹丸ハ、卷ハ、相佐ハ、丸部也。書キ、万葉
ハ、彼、印、惠、少、丸、類、ハ、丸、迹、ハ、地名、ハ、大和國
二ハ、音、ハ、用、ハ、丸、迹、ハ、地名、ハ、大和國
漆上郡ハ、此、地、の、事、ハ、水垣宮段ハ、丸迹坂ハ、所、也
云、傳、ハ、三、乃、ハ、此、姓、ハ、書紀、孝昭、卷、ハ、天、足、彦
七十六葉

國押人命此和珥臣等始祖也。此命此記、此天
押帶自子命也。御子孫ハ、氏々多ク、奉、ハ、此、中、ハ
傳、ハ、ハ、三、葉、ハ、此、姓、ハ、漏、ハ、此、氏、ハ、水垣
宮、段、ハ、日子國、天、命、訶、志、比、宮、段、ハ、難波根子、建、振、熊
命、其、餘、明、宮、高津、宮、多治比、宮、朝倉、宮、廣高、宮、段、ハ、
丸、ハ、見、書紀、雄略、卷、ハ、春日、和珥、臣、
里、此、淨御原朝御世ハ、臣、ハ、氏、ハ、多ク、朝臣、ハ、
也。賜、係、ハ、如何、故、ハ、此、氏、ハ、漏、ハ、
天平神護元年七月左京人丸部臣宗人等二人賜姓
宿祢、部、ハ、姓、ハ、續紀、ハ、丸部、臣、ハ、書紀、
古事記傳二十二 四十七

神護景雲二年潤六月左京人和珥部臣男綱

寺三人賜姓和迹部朝臣姓氏錄云皇別和迹部宿祢和

迹部朝臣同祖彦姥津命四世孫矢田宿祢之後也

左京皇別和迹部朝臣大春日朝臣同祖彦姥津命三世孫難

波宿祢之後也和迹部臣和迹部朝臣同祖云云丸都部

迹部同祖彦姥津命男伊富都久命之後也皇別和

迹部天足彦國押人命三世孫彦國尊命之後也山城

國皇和迹部小野朝臣同祖天足彦國押人命六世孫米

餅搗大使主命之後一本彦姥津命三世孫難波宿祢之

後也皇別和迹部大春日朝臣同祖云云續紀九

九及姓氏錄云和迹部朝臣乃迹字本云其云安
作多知の中朝臣乃迹字如此云故云
ひのりも思ひやと迹を三代実録七左京人迹
写誤と云ふはあはれをい三代実録七左京人迹

部大田麻呂賜姓宿祢大田麻呂自言天帶彦國押人命

之後也まの播磨國飾磨郡入和迹部臣宅繼賜姓迹宗

宿祢自言天帶彦國押人命之後也迹宗云云九小

播磨國飾磨郡入和迹部臣宅真宅守寺賜姓迹宗宿祢

あや見えと云ふは此姓古くは和迹と云ふは天

武紀に始り和迹部臣君手少何志是より後の書には

和迹部臣の云あり何時より部てありと云ふ添里は

凡神名式小若狹國三方郡和迹部神社小あり○日子

國意祁都命名の事ハ次ハ云法ハ休て此命姓氏録文

部の下ぬハ天足彦國押人命孫比古意祁豆命見え

羽東首の下ぬハ天足彦國押人命男彦媯津命見え

ふハ何坐の正しぬハ安天皇乃御兄坐て同化天

皇ハ同天皇乃御曾孫小坐按ふハ天足彦國押人命ハ孝

孫ヤ何方をも正しぬハ孝坐坐て此命乃子孫ハ九

迹臣のみなハ甚多ク有て掖上官段子見えハ傳

一考多法ハ○意祁都比賣命同母兄妹同名て比古

比賣を以分つ例沙本昆古沙本昆賣あハ多

休て名義ハ未思得次此比賣乃弟表祁都比賣

ハ云何ハ是意表表以て姉妹の名を分てハ

億計玉尊弥計玉尊乃例ハ如ト太坐の意ハ法ハ

は若ハ地名ハ不ヤハ考多法ハ書紀ハ此意祁

媯字を書れハハハハハハハハハハハハハハハハ

休伊斯許理度賣の度賣ハハハハハハハハハハハハ

命ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

子ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

妃和珥臣遠祖媯津命之妹媯津媛生彦坐王ハ

王の事水垣宮段子見えハハハハハハハハハハハハ

ち乃御名此より前此記の書紀の王子亦某命也
のみあるを此始て二記共玉字の何れハ某玉字申
次の實は此王より始まるハ其命を申上某王
申次ハ後乃傳説の王子乃異の王子ハ本此異
あるハ是非の儘ハ定然なるハ但此後此記ハ
稀な書紀ハ此御子のハ彼紀ハ王字何れハ
上代より乃傳説の王子見ハ彼紀ハ一本ハ命ハ
れハ正ハ垂仁卷ハ出ハ姓ハ王ハ命ハ然ハ
美許登ハ美古ハ唱ハ進ハ相混ハ
記ハ神王字を書ハ何れハ王子美古ハ訓
御子の意なりとも御子の王字を用ふハ上代ハ

皇朝見之此記ハ書紀ハ皇朝見之
皇朝見之雄略卷ハ星川王齊明卷ハ建武天智卷
皇朝見之履中卷ハ太子王字書紀ハ又應神卷ハ男
并二十王也天武卷ハ長幼并十餘王ハ是古
書ハ如ハ天皇帝御子の王字を用ハ書紀ハ
ハ皇朝見之漢國ハ周代ハ主ハ
者ハ皇朝見之漢代ハ皇朝見之漢代ハ皇朝見之漢代
故ハ皇朝見之皇朝見之皇朝見之皇朝見之皇朝見之
賜ハ皇朝見之皇朝見之皇朝見之皇朝見之皇朝見之



故天根之柱

其水涉里下皆平字を用ひ... 別あくおし... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名... 御名... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名...

神御... 御名... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名... 然ふし書紀の書法ハ大抵天皇乃一世の御子乃御名...

古事記傳二十二

五十一

書紀神功卷依網吾彦男垂見云名見えり ○鶴
 比賣鶴和志訓彦朝倉君御狩天皇の御陵乃地
 名の高鶴書紀小高鷹作波字鏡不鶴
 見之和各抄小鶴兼若苑云鶴年名鶴地野王按鶴
 似鷹而小者也漢語抄云波之太賀也所乃凡鶴也野王按鶴
 均也也凡草木鳥獸也乃漢名也凡鶴也野王按鶴
 多也此字を用云也乃漢名也凡鶴也野王按鶴
 多加也訓也乃漢名也凡鶴也野王按鶴
 小負也乃漢名也凡鶴也野王按鶴
 豆羅和氣王諸本共小王字脱也乃漢名也凡鶴也野王按鶴
 得次和氣の事八日代宮段云波下書紀小は此
 御子魚齒類命也乃漢名也凡鶴也野王按鶴

故御真木入日子印惠命者治

天下也其兄比古由牟須美王

之子大筒木垂根王次讚岐垂

根王二主讚岐此二王之女五

柱坐也

其兄此兄ハ美古能加美ヲ訓法シ此ハ五柱皇子ト云
乃中の第一ヲ云意アリ云云

ハ子上ノ云云子等の中乃第一ナル一人を云

稱あり又其訓法ハ阿速命を指テ申サリ云云一人ハ限ラ

ぬ稱あり何れも此乃兄を云云同母乃兄を云云稱ありハ

○大筒木垂根王筒木ハ地名ナリ和名抄ハ山城國

綴喜郡綴喜郷あり此地名を或ハ下

紀を濁スハハ三音共ハ清音あり綴字を用

ハ非誤思乱多ク云云訓法ハ此地乃事ハ高津宮段

ト委云法ハ傳北六乃垂根ハ多理泥ヲ訓法シ多理ハ

是ハ多羅志ノ同意垂を即チ多羅志ト訓法シ

例ハ然ハ訓法ハ垂字を以テ書ル例乃尊稱ナリ

故此名皆ハ筒木ノ下ハ讀添来ハ地あり

垂根云云名ハ例六志賀宮段ハ建忍山垂根明宮段

ハ櫻井田部連之祖嶋垂根あり古書子宿禰

多ハ此足居垂根ノ假字ナリ宿禰ハ乱

字共ハ音を取ル不假字ナリ宿禰ハ其由續紀

垂根王讚岐ハ讚岐國ハ依也名ハ又神名帳ハ大和

國廣瀨郡讚岐神社和名抄ハ同郡散吉郷

本かサキ少訓ふいめ、三代實錄四十四、大和國散吉大建命神散吉伊能城神、河原の式の護岐神社あり。此、地、依、地、あり。○二王ハ、二柱之御子也、訓、上の註乃二王ハ、布多婆志良少訓、前後、一柱三柱、註、其處の、隨、同、字、訓、大筒木垂根、王、讚岐、垂根、王、あり。○女五柱、此ハ、二王の御女、合せて、五人あり、其中幾柱大筒木垂根、王の御女、幾柱讚岐垂根、王の御女、云々、知らぬ、又、其、御名、傳ハ、ら、あり、し、形、存、シ、王垣宮御段、娶、大筒木垂根、王之、女、迦、具、夜、比、賣、命、少、河、原、ハ、此、五、柱、の、内、に、存、シ、○坐、也、此、ハ、有、坐、云々、云々、九、七、有、坐、崇、坐、云々、ハ、坐、

音例

昔、王、子、大、室、皇、古、任、娶、並、

次、日、子、坐、王、娶、山、代、之、荏、名、津

比、賣、亦、名、苺、幡、戸、辨、此、一、字、生

子、大、侯、王、次、小、侯、王、次、志、夫、美

宿、禰、王、又、娶、春、日、建、國、勝、戸

賣之メ女ガ名ムスメ沙本ナハサ之大ホ閻見オホクラミトメ戶賣ニミアヒテ

生子ウミゼル沙本ミコ毘古王ホビコノミコ次ツギニ袁邪本ヲザホフ王ミコ

次沙本ツギニ毘賣命ホビメノミコト亦名メノミコト佐波遲比サハヂヒ

賣メ此沙本コノサホ毘賣命ホビメノミコト者ハ為伊冬米イメノ

皆以音皆以音三王名三王名次室ツギニムロ毘古王ホビコノミコ又娶近又娶近

淡海之御上祝以伊都玖淡海之御上祝以伊都玖

音天之御影神之女息長水依音天之御影神之女息長水依

比賣生子丹波比古多多須美比賣生子丹波比古多多須美

知能宇斯王知能宇斯王此王名次水之穗此王名次水之穗

真若王次神大根王亦名八瓜真若王次神大根王亦名八瓜

入日子王次水穗五百依比賣。

次御井津比賣。又娶其母弟。

袁祁都比賣命生子山代之大。

筒木真若王次比古意須王次。

伊理泥王。三柱此二凡日子坐。

王之并十一王。

王の并十一王。此國の事の上。傳ひ出。...

貞賣云云乃女の名も其母乃如聞ゆ亦不知何を水
 垣宮段の荒河乃辯之女云云此等事例あり
 之れも殊ある由あり父をあきく母を挙ぐ亦也
 鏡作連の祖伊斯許理度賣命猿女君女名子建之云云
 の祖天宇受賣命あり如き例あり女名子建之云云
 例あり倭建命段は大吉備建比賣書紀景行卷は襲武媛
 あり國勝終云云乃孝靈紀は倭國香媛あり
 正鹿山津見を書紀より正勝山但姓氏録より大明命五
 祇あり是勝終加通ふなり
 世孫建乃米命之後也云云姓之れを見え又同神三
 世孫天礪相命之後也云云何れが男名なり凡賣
 云ありゆめや若然らば彼神武紀より名草戸畔あり

今昔男あり河原也國勝終書紀神代卷は事勝國
 勝長狹終云云あり沙本之内大御見所賣諸本其字無
 今乃真福寺及於終物終依終是沙本終是和
 國添上郡の地各あり此地の事は西三垣宮紀は中葉
 あり云々見神地各あり神名帳に若狹國三
 方郡簡見神社あり此處今も此生獅子室懸古王
 乃若狹耳別の祖子あり由縁あり神功紀に倉見
 別神云火地現あり沙本蠟當王此王御母あり
 地沙本乃往臣新比林使至垣宮段は見ゆ亦此王乃
 事彼段は出島傳は四葉申の林下同母妹沙本蠟賣命

跡御路佐波遲此賣申次子准原氏現世不姓氏録豊
 公小彦坐命男澤道彦命此所為此王命家信北(上)表
 邪本王小沙本みえ上(2)同本地名如也沙を濁ふ故小
 五沙本毘賣命御兄小同本地名如也津乃如いふ
 佐保姫云云云云所地春乃哥の佐保姫秋の哥おは
 立田は奈良より西はありて立田姫申次神
 坐對立保也東みありて春乃の佐保
 姫云名を設き云云所也西三條公條公の高野
 山參詣記云奈良の所也佐保姫禊まあり
 所神小所也佐波遲北賣御名義未思得次是也
 地名也澤道小野号支也此所幸行澤道野有支其處乎
 今佐八書してサツ註伊久米天皇の玉垣宮御宇
 和歌唱云海地あり

天皇の坐次書紀繼躰卷小治目天皇御宇
 古注和名抄云大和國葛上郡牟婁郷あり此地に依り
 地名也○近淡海の上卷傳小見也○御上祝御上
 和名抄云近江國野洲郡立上美加郷是あり美加無
 や後乃音便の唱也拾遺集云安和元年大嘗會
 古ハ美加美也云云能宣大中臣云はやお依三上乃山の柳葉
 風俗みろみの山能宣大中臣云はやお依三上乃山の柳葉
 は榮えそ益休末乃世也清原萬代也三上の山乃
 響くおは野洲の川水清き合な港保平載集元暦元年
 大嘗會悠紀方風俗哥藤原季常誓ふ依三神乃山の杉
 村や八百万世乃表也此餘小歌多承祝ハ波布

理光創山城國相樂郡の郷名祝園此記小波布理曾能
 也書云又和名抄上野國新田郡の郷名小祝人波布利也是
 布理て多るゆの正神功紀小竹祝天野祝景見ゆ
 神武紀小居勢祝河内神社の祝部ハハ非ハ景欽
 行紀なほ蝦夷名大羽振辺類の名ハハハ
 册紀ハ天皇命神祇伯敬受策於神祇祝者ハハハ迺託神語報
 曰云云持統紀ハ八年三月乙巳奉幣於諸社丙午賜神
 祇官頭至祝部等一百六十四人純布各有差少見ゆ職
 員令神祇官伯一人掌神祇祭祀祝部の義解ハハハ謂為祭
 生贊辭者也其祝者國司於神戶中簡定即申太政官若
 无戶人者通取庶人也祭主ハ此ハ官職ハ祭主ハハ非贊辭

祝辭の類詞者書經疏ハハハ以言告神謂之祝祝祭主贊神祇志ハハ凡諸神祇
司及神生等未滿六年遭喪解俸得補替ハハ令祝部ハハ
事服闋之日復任滿限其祿宜祝部ハハ補之後不須ハハ轉替
同式凡祿宜祝凡諸社神ハハ
犯詳其由移送此官國司勿ハハ輒決罰民部式ハハ凡諸社神
 主祿宜祝者擇小佐以ハハ及六折ハハ以ハハ堪祭事者補之ハハ雖
 元來定氏之社并神戶百姓而先盡ハハ八位及六斗ハハ以生然
 後及壯年伯丁即免課役四時祭式祈年祭神祇官祭神
 七百五十七座奉班幣帛儀ハハ神祇官ハハ云云大臣以下
 云云神部引祝部等入云云中臣進就座ハハ宣祝詞ハハ每ハハ一段
 畢祝部稱唯云云忌部二人進夾案ハハ立史以官次唱御平

比山代直給... 天降命... 御事... 洲郡... 授近江國... 位上三上... 下三上... 國加佐郡...

女... 妻賜... 天物主... 伊須... 意富... 比賣... 郡... 左野方... 與近江...

丹波比古多々須美知能宇斯王丹波國丹波國多
 須美知能宇斯王丹波國造志賀高穴
 總朝御世彥坐主兒彥多都彥命定賜國造事於此
 王學爾ゆれり美知能宇斯の書紀小道生彥何依
 是あり奴志能宇斯の切まりあり欽明紀云道君
 云ふに彥何の又天武御世八色姓定免り依
 第五を道師云小道主ミチヌシ云云此古くあり依て
 字を換玉新姓カヘ凡俗カネせりあり又書

紀神代卷八日神所生三汝神云云今在北海道中ニテキタノクニニ號曰
 道主貴ミチヌシノカミ也ヒカシノカタトツリノカミ道主の道小國を爲す其油
 水垣宮段也東方寸道地也子處也倭云彥命傳北三
 兼此下此王及此名を負給ふ故ハ書紀崇神卷八汁
 辛九月以大彥命遣北陸武滄川別遣東海吉備津彥遣
 西道丹波道主命遣丹波因以詔曰若不受教者乃舉
 兵伐之既而共授印綬為將軍也丹波小遣ハ
 其道のミチノ坐カ子コ也道主ノ欽明紀云道君其止
 十二道乃正小委也云云彼欽明紀云道君其止
 文又越國郡司也云云彼欽明紀云道君其止
 郡司也云云彼欽明紀云道君其止
 以凡書也云云彼欽明紀云道君其止

形も後小故三子ノカシ訓子古意小あ置めり
 又彼三女神ノ在海北道中云云又書小宜降居道中
 奉助天孫也北面乃海路あり即胸形宮共處也海北道中
 は韓國の渡不海路あり云云云云其の外國の防
 護乃爲又降居ト是賜多なり故助天孫也詔守宮此
 義の傳七の六十五葉云云貞觀十二年乃告文乃趣
 を以て伊勢外官の書也小豊受大
 神乃丹波小坐一カシ事云云此王の事を牽よ
 世道主也云名因て又彼三女神乃御事を云云牽よ
 祭乃又此王の名も丹波道主貴也云云彼大神を齋
 も此よりしていひき妄説あり元々集
 あれり此妄説を取らぬ載られり
 小弥加宜神社の所ふ此王乃外祖神を祠給予候小
 也あはれ此王を書紀垂仁卷小丹波道主生者雅
 日本根子太日御天皇子孫勝坐王守也一云彦湯禰王

是守也西海馬は子孫の守字註云此王名名字諸本葉
 亦守也作也其若誤也出少著事候小延佳は名
 云ふ小改云云東之穂道若王之穂乃穂也更本
 誤也候也此名下小出候小處字云故美豆本
 能也訓也其水穂乃近江國の地名も穂あり也母の
 江も又此王近江安直の祖あり候小冷野洲郡小
 水保村あり是子孫の事も穂穂の意あり候
 真若小殊あり候小其稱名也神大根王云云
 候小其稱名也書紀景行卷小神滑り候小此王
 のあはれ候小大根乃意也著き候小此王の女等乃事自代
 官段小見ゆ八瓜入日子玉八瓜ハ夜都理也訓也

伊理の入日子入日女を娶り乃入栗同ト云云泥の例の
 尊称あり(十一)王の登表麻理伊都波斯羅等訓法
 一字の五を写誤をふか將押田翁が誦誤を修め數違
 あり上み奉り王等の合せし十五柱は有ふ二柱女
 あり三柱
 母の諸事之論等々信託し限言期未く小地例

故兄大侯王之子曙立王次菟

上王此曙立王者伊勢之品
 柱二
 遅部君伊

勢之佐那菟上王者比賣陀次
 造之祖
 君之祖

小侯王者當麻勾次志夫美宿
 君之祖

禰王者佐佐君次沙本毘古王
 祖也

者日下部連甲次袁邪本王者
 造之祖

葛野之別近淡海次室毘古王
 蚊野之別祖也

者バ若ツカ狹サ之ノ取ミ其ノ美ミ知チ能ノ宇ウ志シ王ヲ

娶メ丹ニ波ハ之シ河カ上カ之ノ摩マ須ス郎ラ女メ生ム

子ミ比ヒ婆バ須ス比ヒ賣メ命ノ次ツ真ツ砥ト野ノ比ヒ

賣メ命ノ次ツ弟ト比ヒ賣メ命ノ次ツ朝チ廷テイ別ベツ王ヲ

四シ柱チ此コ朝チ廷テイ別ベツ王ヲ別ベツ之ノ祖ソ此コ

美ミ知チ能ノ宇ウ斯ス王ノ之ノ弟ト水ミ穗ホ真マ若ワ

王ミ者ハ近チ淡ア海ミ之ノ次ツ神カ大オ根ホ王ノ者ハ

三ミ野ス國ク之ノ本モ巢ト國ク次ツ山ヤ代マ之ノ大オ

造ミ長ナ幡ガ部ベ連ラ之ノ祖ソ次ツ山ヤ代マ之ノ大オ

筒ツ木キ真マ若ワ王ノ娶メ同ド母ハ弟ト伊イ理リ泥ネ

王ミ之ノ女メ母ハ泥ネ能ネ阿ア治チ佐サ波ハ毘ヒ賣テ

ウニセルミコカニメイカツチノミコ
生子。迦邇米雷王。迦邇米三此

ミコクニハノトホツレオミノムスメナハタカ
王娶丹波之遠津臣之女名高

キヒメニミアヒテウニセルミコオキナガノスクネノミココノミコ
材比賣生子息長宿禰王此王

カヅラキレノタカヌカロメニミアヒテウニセルミコオキナガ
娶葛城之高額比賣生子息長

タラレヒメノミコトツギニソラツヒメノミコトツギニ
帶比賣命次虛空津比賣命次

オキナガノミコトツギニオキナガノミコトツギニ
息長日子王

キミノソノオキナガノスクネノミコオキナガノスクネノミコ
君之又息長宿禰王娶河俣稻

ヨリビメニミアヒテウニセルミコオキナガノスクネノミコ
依毘賣生子大多牟坂王

オキナガノスクネノミコオキナガノスクネノミコ
以音此者多遲

クニニミヤツコノオヤナリ
摩國造之祖也

此段ハ日子坐王の御子ト云フ乃子孫を奉命アリ○況ル
ハ大俣王ハ日子坐王乃第一子ト云フ云々云々○曙

立王阿氣多都督訓佐。姓氏錄縣犬養宿祢下必阿居太都命。

印本阿を佐誤又大標置阿居太都命此印本

今ハ古本ニ依始連下阿居太都命此印本

を脱誤今古本ニ依又二共太を大作

此誤なり居字ハ古書二ケの假字ハ用ひ依例

何り此誤也依此王ハ別人ハ同名ノ例

なれハあり同書小ア明立天御影命云名小見云

名義ハ未思得依此王乃事王垣宮段ハ見云

傳北五ノ十六葉ウナカミ○菟上王菟上ノ事ハ上卷菟上國造ノ下七

の六十九ウナカミ○菟上王菟上ノ事ハ上卷菟上國造ノ下七

葉七十ウナカミ○菟上王菟上ノ事ハ上卷菟上國造ノ下七

り詳カあり依神名帳ハ伊勢國朝明郡菟上神社あり又

河國宝飲郡ハ菟足神社あり社説ハ祭ハ神ハ國ハ化ハ天皇ハ孫

大候王第二子菟上王也ウナカミ○菟上王菟上ノ事ハ上卷菟上國造ノ下七

心得ぬ依此王乃事王垣宮段ハ出ハ勅ハ伊勢ノ南

遲部君ハ此氏ノ事考ハ品ハ遲部ハ事ハ平垣宮段ハ傳北

古葉ハ云依佐那造ハ佐那ノ事ハ平垣宮段ハ傳北

處ハ傳北五ノ十二葉ウナカミ○菟上王菟上ノ事ハ上卷菟上國造ノ下七

宿祢ハ云依事ハ王垣宮段ハ見云引ハ立ハ王ハ御代ハ宿

祢ハ云依事ハ王垣宮段ハ見云引ハ立ハ王ハ御代ハ宿

祢ハ云依事ハ王垣宮段ハ見云引ハ立ハ王ハ御代ハ宿

總彥命之後也。且下部。且下部。連同祖。又皇別。國。且下部。首。且下部。宿祢同祖。彥坐命之後也。且下部。且下部。首同祖。三代實錄九。播磨國。飭磨郡。人。且下部。利貞。且下部。歲直等。賜姓。且下部。連貫。附。攝津國。嶋上郡。狹穗彥命之後也。此。且下部。卷。今。本。誤。又。早部。作。然。不。下部。連。利。貞。等。改。本。居。貫。右。京。二。條。三。坊。引。見。え。り。神名式。小。和泉國。大鳥郡。日部神社あり。命を祭。甲斐國。造。國。造。本。紀。小。甲斐國。造。纏向。日代。朝。御。世。狹穗彥王。三世孫。臣。知津彥公。此。子。塩海。是。居。定。賜。國。造。葛野之別。葛野。八。山城國。葛野郡。之。み。み。此。地。の。

事止卷。傳。姪。又。明。宮。段。小。云。傳。三。十。二。葉。此。紙。考。焉。其。紀。小。葛野。羽。衝。云。人。見。え。り。此。氏。之。非。葛野。連。葛野。臣。等。引。見。え。り。此。地。の。此。淡海。蚊野之別。和名抄。小。近江國。愛智郡。蚊野。郷。あり。是。為。此。神名帳。小。同。郡。輕野。神社。あり。此。姓。葛野。若狹之耳。別。和名抄。小。若狹國。三。坊。郡。蘇美郷。今。本。弥。河上之摩須郎女。河上。和名抄。小。丹後國。熊野郡。川上郷。あり。是。為。摩須。義。小。朱。思。得。次。節。女。小。書。紀。景行。卷。小。即。姬。此。云。異。羅。葛野。見。え。天。智。卷。小。伊。羅。都。賣。續。紀。九。二。小。藤。原。伊。良。豆。賣。此。

寺也依所創定也此後又舒明紀云即後孝德紀云娘
子也其母所生男也即子女也即女也云伊羅云伊呂
况伊呂弟也此伊呂又入彦入姫也乃不尋常也皆
同言也云云親所愛也其云云稱也以此事上傳止一
既云云也北婆須北賣命御名儀未思得以此云垣
宮御宇天皇の末后也坐書紀陸仁卷也機坐此
記也依此云云一云日葉酢根命也云云也○真磁野此
賣命云云地名義未思得以此云此續命儀字の如
右三柱の女王也事王垣官段も出さる云云事
此云云彼云云傳云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

其云云本朝也朝延美迦度也訓此如何云云由
云云此名負給守也云云詳也云云○三州之總別三州
參河國也此國勇州豐川矢作川等云云其地并也
故云三州也名云云吉田川今太平川云云豐川
男川也加茂郡より出て池鯉鮒の西今固の東也南穂
子添也川云云信大平川也非ト云云云云云云
ハ和名抄也參河國寶飲郡也其是也飲字誤也
今也舊事紀五云三川穗國造美已正直也云云人あり
然也美加渡云云似也若くも此也朝廷創正の
也云云非云云也國造本紀云云穗國造泊瀬朝倉朝
以生江臣祖葛城襲津彦命四世孫菟上○近淡海之安
足祢定賜國造也云云此の傳也異云云○近淡海之安
直直字諸本共云置也作也其云若ハ稻字の脱也云云

一、相置^{イナキ}あり^ミむ^カの^カ思^シふ^カ直^チを^カ誤^アし^カなり^カ。下
 高津宮、段あり^カ直^チを^カ誤^アし^カなり^カ。故改^カめ^カ安^{ヤス}の^カ和名^{ワナ}抄^シ小^コ近^{チカ}江^エ、
 國^{クニ}野^ノ洲^ス郡^ノあり^カ。此^{コノ}氏^{ウヂ}の^カ考^{カウ}あり^カ。倭^{ヤマト}建^{タテ}命^{ノミコト}段^ノ近^{チカ}淡^{タニ}海^{ウミ}、
 之^ノ安^{ヤス}國^{クニ}造^ノあり^カ。此^{コノ}別^{ワカ}なり^カ。同^{ドウ}き^キう^ウ。此^{コノ}記^キ
 國^{クニ}造^ノ祖^ソ少^シ阿^ア我^カ書^{シヤ}紀^キめ^メの^カ紀^キ直^チ祖^ソ少^シ阿^ア我^カあり^カ。例^{レイ}も
 少^シ阿^ア我^カ氏^{ウヂ}を^カ時^{トキ}々^々の^カ加^カ婆^ハ泥^ニの^カま^マく^ク。直^チ少^シ阿^ア我^カ國^{クニ}造^ノあり^カ。
 此^{コノ}語^{コト}傳^{ツタ}へ^レる^カ。○三^ミ野^ノ國^{クニ}之^ノ本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ此^{コノ}二^ニ氏^{ウヂ}あり^カ。上^ウ
 は^ハ三^ミ野^ノ國^{クニ}造^ノあり^カを^カ造^{ツク}字^ジを^カ之^ノ小^コ誤^アし^カる^カ。法^{ホウ}一^{イツ}日^{ニチ}代^{ダイ}
 宮^{ミヤ}段^ノ三^ミ野^ノ國^{クニ}造^ノ之^ノ祖^ソ神^{カミ}大^{オホ}根^ネ王^{ノミコト}見^ミ入^イ書^{シヤ}紀^キ其^{ソノ}卷^{マキ}あり^カ。
 美^ミ濃^ノ國^{クニ}造^ノ名^ナ神^{カミ}骨^{ホネ}少^シ阿^ア我^カあり^カ。若^カ三^ミ野^ノの^カ本^ホ巢^ノあり^カ。
 石^{イシ}城^{シヤウ}國^{クニ}造^ノ常^{トコ}道^{チウ}神^{カミ}國^{クニ}造^ノあり^カ。例^{レイ}を^カ思^シふ^カ。三^ミ野^ノ國^{クニ}造^ノあり^カ。
 あり^カ。國^{クニ}字^ジの^カ例^{レイ}を^カ思^シふ^カ。三^ミ野^ノ國^{クニ}造^ノあり^カ。

本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ別^{ワカ}なり^カ。國^{クニ}造^ノ本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ前^{マエ}國^{クニ}造^ノ春日^{カスガヒ}率^{スベテ}川^{カハ}、
 朝^{アサ}皇^{ミコ}子^{ノミコ}彥^{ヒコ}坐^{イマス}王^{ノミコト}子^{ノミコ}八^{ヤチ}瓜^{ウリ}命^{ノミコト}定^{サダ}賜^{タマフ}國^{クニ}造^ノ此^{コノ}後^{ノチ}國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 此^{コノ}前^{マエ}國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 方^{カタ}小^コ依^ヨ也^{ナリ}。道^{チウ}口^{クハ}也^{ナリ}。云^{イハ}く^ク、
 本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 三^ミ野^ノ之^ノ本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ後^{ノチ}國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 巢^ノを^カ造^{ツク}あり^カ。數^{カズ}郡^ノの^カ地^チあり^カ。本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 野^ノ前^{マエ}國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 三^ミ野^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 は^ハ又^{マタ}本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 何^{ナニ}事^{コト}も^{ナシ}。然^{シカ}し^テ、
 分^{ワケ}て^シ云^{イハ}ふ^カ、
 了^{マツ}上^ウの^カ出^デる^カ、
 天^{アメ}武^ム紀^キの^カ美^ミ濃^ノ連^{レン}、
 本^ホ巢^ノ國^{クニ}造^ノ三^ミ野^ノ、
 和^ワ名^ナ抄^シの^カ美^ミ濃^ノ、

其息長帶比。但馬國多生陸之仙人。其地移居。

大和の高額を以て名を負ふ。其地は移居。

此の地は多摩國造の所。其地は移居。

馬國氣多郡鷹貫神社。其地は移居。

此の地は葛城山。其地は移居。

帶比賣命息長の御父の名も同也。彼地は移居。

此の地は御弟の所。其地は移居。

後諡の如く記す。其地は移居。

子息長日子の例を以て思ふ。其地は移居。

女命申す。其地は移居。

此の地は足意の所。其地は移居。

三代實録。其地は移居。

天皇之曾孫氣長宿禰王。其地は移居。

五世御孫。其地は移居。

王の天皇乃玄孫。其地は移居。

如何なる由。其地は移居。

子王父王姉命の息長も同也。其地は移居。

上は。其地は移居。

子王者云て。其地は移居。

大書法。其地は移居。

國品治。其地は移居。

治造志賀高穴穗朝多遲麻君同祖若角城命三世孫大
船足尾定賜國造フネノスシネラ治造の品治造造上上國字
云人見えあり○針間阿宗君神名帳ニ播磨國揖保郡
阿宗神社あり此地ハ依止り針間の事ハ黒田宮段ニ
出傳北一の河俣稻依毘賣河俣ハ河内國若江郡ハ
依ハ例ノ宜ヨリなり○大多牟坂王オホタムサカノミコ多牟坂ハ地名然
らバ廻坂ウマサカの意イなり詳サカあり此國造本紀ハ淡海國造志
賀高穴穗朝御世彦坐王三世孫大陀牟夜別定賜國造

段ハ意オホ富多牟オホタム稻氣イナ云々此主者オホタム格カあり○多遲麻
註コ此者コ也○平ヘ云云此主者オホタム格カあり○多遲麻
國造祖馬國あり國造本紀ハ但遲麻國造志賀高穴穗
朝御世竹野君同祖彦坐王五世孫船穗足尾定賜國造
此取彦坐王五世孫あり此大多牟坂王ハ丹波之
竹野別入建豊波豆羅和氣王ハ子孫あり御院兼
國造生ウ思シ皇ミ若ニ此大多牟坂王ハ其國造の祖
事ハ住ウ思シ皇ミ若ニ此大多牟坂王ハ其國造の祖
馬國造の祖ウ思シ皇ミ若ニ此大多牟坂王ハ其國造の祖
星ウ思シ皇ミ若ニ此大多牟坂王ハ其國造の祖

云ふ事ありて同格なり。伊南流々訓法。①建豊波

巨羅和氣王諸奈み羅字を脱せ依茂余延佳が考

子補了ふる依仍。○道守臣道守み由ありて此称を

負ふ。臣の類又地名。詳あり。今和泉國大鳥郡堺

路を守は者云。五葉四の吾子。往乃まふ。道

追む。答を千遍思。手野女の吾身。何れ。道守

の向む。答を云。道守者あり。和名抄。道路具。道選

紀神代。卷。泉守。道者あり。和名抄。道路具。道選

漢語抄。云。知。毛。利。行。り。あ。者。な。は。て。此。氏。ハ。天。武。紀。ハ。十

三年十一月道守臣賜姓曰朝臣。姓氏録。左京道守朝

臣。開化天皇皇子武豊葉頼別命之後也。又皇別道守臣

道守朝臣同祖。豊葉頼別命之後也。又山城國道守臣

守朝。其同祖。武波都良和氣命之後也。今本道守同

祖。建豊羽頼別命之後也。又皇別國道守臣。道守朝臣同

祖。武豊頼別命之後也。見。又。波。多。入。頼。稱。動。後。み

武。御世。ハ。朝臣。姓。を。賜。り。共。二。賜。り。何。方。の。道。守。氏。あり。老

武。御世。ハ。朝臣。姓。を。賜。り。共。二。賜。り。何。方。の。道。守。氏。あり。老

守。臣。麻呂。續。紀。光。五。小。道。守。臣。多。祢。留。四。十。道。守。臣。東

人。あ。見。ゆ。東。人。ハ。百。廿。二。歳。み。て。其。髪。尚。多。聰。如。少

年。少。あり。又。續。紀。九。小。但。馬。國。人。○忍。海。部。造。忍。海。ハ。頭

宗紀の歌於尸農跡... 和國忍海乃美郡... 由是始也又忍海即女の御名代... 者乃忍海即女の御事... 氏人清寧紀... 細目學云見... 年忍海造賜姓曰連... 同姓の姓氏録... 牟須美命之後也... 此依... 皇別國忍海部... 御兄弟の間傳... 皇別國忍海部... 天武紀... 高津宮... 依網之阿昆古... 攝津國往吉郡大羅... 依網之阿昆古... 鄉神名帳... 大依羅

須美命... 造地名... 云々... 倭... 欽明紀... 是非... 幡國... 身別... 出... 野... 小... 攝津國往吉郡大羅... 依網之阿昆古... 鄉神名帳... 大依羅

那 天

神社四座 並名神太月 何れ神功紀より即得神教而拜礼
 之因以依網吾彦男垂見為祭神主也見元 今も住吉郡
 何れ其又和名抄云河内國丹比郡依羅美郷汝水
 垣宮殿也作依網池 此河内國あり書紀推古卷云河
 内國作依網池 今丹比郡池あり見ゆ如此河内津國
 二の依網あり丹比郡佳吉郡等相接て大
 依羅社也依網池也殊也此二郡界より近づき地
 あり以見也本あり二國は分属し依り
 沈なり 万葉七の青角髪依網原ありは哥の村ま阿
 毘古八月代宮殿也木國酒部阿毘古景行紀也山部阿

拜古 云姓也見元 姓氏録あり 輕我孫 津國神別又
 精 戸あり 姓氏録あり 我孫同國雜姓あり
 我孫公 和泉國雜姓あり 今和泉國和泉郡我孫子
 同姓阿比古道成 ふや 阿比 尋常の戸あり
 ちり異あり か如 稱意 吾彦 云 孫 子 借
 比古 字あり 親 子 云 彦 美 凡 云 孫 子 借
 孫 古 云 麻 基 也 云 後 世 の 言 あり 古 書 小
 名 無 古 一 云 比 古 曾 孫 和 名 比 古 古 孫 和
 今孫 を 麻 基 云 云 後 の 麻 基 云 云 比 古 孫 和 名 比 古 古 孫 和
 孫 を 比 古 云 云 比 古 麻 基 云 云 比 古 孫 和 名 比 古 古 孫 和
 仁德卷 四 十三年秋九月依網屯倉阿弭古捕異鳥獻

飛

天

御年六十三歳書紀云。六十年夏四月丙辰朔甲子。天皇崩。一云。時年百十五也。何。大御父天皇の二十二年春正月立為皇太子。年十六也。何。依。或書云。百十一也。云。此。何。依。太子。百十一也。云。伊邪河之坂。上書紀云。六十年云々。冬十月癸丑朔乙卯。葬于春日率川坂本陵。一云。坂上陵也。何。諸陵式云。春日率川坂上陵。春日率川宮御宇。開化天皇。在大和國添上郡兆域。東西五段。南北五段。以在京戸十烟。毎年差充令守。見也。坂上。云。坂本。云。二。の傳。其。平。京。内。又兆域の狭き。前皇廟陵記云。或曰。今在奈良林小路。韓國社。奥念佛寺境内也。云。念佛寺の後方。小あり。今此何。

坂ありの坊名。又油坂町坂之新屋町西。坂あり云あり。坂上云云。小由あり。

御具本。氏子。伊惠命坐師木。水垣宮。治天下也。此天皇娶木。國造名荒河。乃辨之。遠津牟。魚目。目微比賣。生御。

豐木入日子命。次豐鉏入日賣

命。柱。又娶尾張連之祖。意富阿

麻比賣生御子。大入杵命。次八

坂之入日子命。次沼名木之入

日賣命。次十市之入日賣命。柱。四

又娶大毘古命之女御真津比

賣命生御子。伊玖米入日子伊

沙知命。伊玖米伊沙。次伊邪能

真若命。自伊至。次國片比賣命。

次千千都父和。此三字。比賣命。

○古事記傳二十三

二二

は万葉十... 此宮の在三輪村東南志紀御縣神社西... 秋九月遷都於磯城是謂瑞籬宮... 荒川庄あり此地因是地名あり... 八箇村あり此地因是地名あり... 皇其地の事ハ古語拾遺神武段ハ見... 出○荒河刀辨和名抄ハ紀伊國那賀郡荒川郷あり今

傳公ハ北小葉非... 河命繩伊荒川戸傳女申日女為妻生西男... 遠津津魚目微比賣遠津小紀國の地名... 春生夏長秋衰冬死故名年魚也... 古事記傳二十三

天孫出焉。意富阿麻比賣和名抄云尾張國海

部郡海部鄉由也。此又依也孫名也。按東舊事紀云

饒速日命六世孫建宇那比命。城鳴連祖草谷草姬生云

男一外孫七世孫建諸隅命。妹大海姬命。赤名葛城高名

姬命。此命磯城瑞籬宮御宇天皇。立為皇妃。誕生而男

安云云。此小尾張連の始祖也。饒速日命の祖也。天孫

明命如云。傳十五又傳北一尾張連の祖也。天孫

天村雲命。其子天忍人命。其子天戶月命。其子建斗米命。

天孫建宇那比命。其子建諸隅命。大海姬命。赤名葛城高名

天孫建宇那比命。其子建諸隅命。大海姬命。赤名葛城高名

柴野。此云人。塔心見也。此乃意也。塔心見也。此乃意也。

木字假書。如云。城の意也。非不也。此記也。字異也。

坂之入。百子命。坂百地。名也。山城。國邊。郡也。坂郷

又弥榮の意也。詳云。坂。此命の御女也。坂。坂。坂。坂。

賣命。野申也。又書紀云。豐城命。其御母也。云云。

坂振。天某邊也。又書紀云。入日賣命。沼名也。意詳

矣。按神沼海耳命。又書紀安冥卷云。淨名底仲媛。孝昭

卷云。淨名底仲媛。又他田宮。天皇。大御名。沼名。倉云云。淨

卷云。淨名底仲媛。又他田宮。天皇。大御名。沼名。倉云云。淨

御原宮天皇大御名天淳中原云々
 多くは若くは沼示那也
 沼示那也沼示那也玉の謂也然
 らば名之小玉之例多那瓊之城
 自代宮段小沼名木郎女等申後皇女坐皇沼示云々
 例心塚原宮段小怒能伊呂北賣玉垣宮段小沼帶別命
 多心人を卜示多心小淳名城推姫命小食尾也河系
 此此賣御子也其也○十市之入日賣命和名抄小
 大和國市知郡あり此地小依也味り登表あり假字あり
 止保知尋常子異ありり也此小常乃

海媛生於坂入彦命淳名城入姫命十市瓊入姫命御
 眞津也賣命天理の御子也同御名あり亦上小出
 勢垂仁系初也海皇后曰御間城姫天彦命之妻也平河
 舊事紀小御間津城也乃異荷也正事あり也
 師ハ姓を以て誤也御間津城也乃異荷也正事あり也
 世ハ又同化の皇始也御間津城也乃異荷也正事あり也
 きを思ふは此太昆古命の御也又彼皇女ハ書紀小ハ非
 伊玖米入月子伊沙知命伊玖米ハ地名也詳あり
 舊事紀五也活月邑也其地也名也定也又方
 葉三長哥小活道山也其地也名也定也又方
 是ハ長哥小活道山也其地也名也定也又方

彦命。伊賀。日賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 收。其。田。澤。為。也。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 紀。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 後。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 誤。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 記。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 子。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 二。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 異。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 心。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。

故。伊。賀。日。賣。命。無。子。五。十。田。鶴。彦。命。此。申。次。阿。
 者。治。天。下。也。次。豐。木。入。日。子。命。
 者。上。毛。野。君。等。之。祖。也。妹。豐。鉏。比。賣。
 命。神。之。宮。也。次。大。入。杵。命。者。
 能。登。臣。次。倭。日。子。命。始。而。於。陵。
 也。祖。也。

者遠祖八細田の功乃事見之云々此氏也書紀垂仁卷八上野
 日向彦八細田云名を賜り休之其功の功也景行卷
 五十五春二月以彦狹嶋王拜東山道十五國都督
 是禮城命之孫也然到春日沓咋邑臥病而薨之是時東
 國百姓悲其五不至竊盜充斥葬於上野國五十六年秋
 八月詔御諸別王曰汝父彦狹嶋王不得向任所而早薨
 故朕傳領東國是以御諸別王兼天皇命且欲成父業則
 行治之早得善政時蝦夷騷動即率兵而擊焉云々是以
 東方無事焉由是其子孫於今在東國也見之云々
 嶋王

八垂仁紀小見え云々八細田の子小や何れも姓氏録
 紀上野君遠祖八細田云々何れも祖也然らぬハ
 國造本紀小上毛野國造瑞籬朝皇子豐城入彦命
 孫彦狹嶋命初治平東方十二國為對云々此氏也
 神紀小荒細別在別仁德紀云竹葉瀨田道安爾絶す
 熊舒明紀云形名天智紀云稚子天武紀云三千
 年十三月上毛野君賜姓曰朝臣姓氏録云京
 別上毛野朝臣下毛野朝臣同祖豐城入彦五世孫多奇
 波世君之後也云々此等云々應神天皇の御陵が辺に
 馬を換ふ事云々雄略紀九年河内國言飛鳥
 戸郡人田邊使伯孫云云此事也必不此上毛野君氏

四世孫奈良初賜國造初河定字脫奈良

天武紀及十三年十一月下毛野君賜姓曰朝臣姓

氏錄及皇別下毛野朝臣崇神天皇皇子豐城入彥命之

後也續紀九陸奧國信夫郡人吉弥候部廣國下

毛野靜屈再造郡人吉弥候部念丸等七人下毛野俯

見公也云姓を賜ひしは見ゆ靜屈公を誤也

郷あり安達信夫北七吉弥候横刀吉弥候夜須麻

呂並賜姓下毛野朝臣吉弥候間人同姓總麻呂並賜下

毛野八續後紀三小近江國人志賀忌寸田舎麻呂等四

人賜姓下毛野朝臣五下瓊殖天皇皇子豐城入彥命之

苗裔也亮陸奥國大夫部繼成等飛人賜姓下毛野

陸奥公等陸奥①豐采入自孫命衛子孫命上併乃

外孫亦姓民錄金池田朝臣上毛野朝臣同祖豐城入彥

命并世孫佐太公之後世孫任志朝臣上毛野

同祖豐城入彥命五世孫多奇波世君之後也池原朝臣

任吉同氏並毛野坂本朝臣上毛野同祖豐城入彥命并

世孫佐太公之後也軍持公上毛野朝臣同祖豐城入彥

命八世孫射狹君之後也云云大綱公上毛野朝臣同祖

豐城入彥命六世孫下毛君奈良弟真若君之後也毛野

字落桑原臣上毛野同祖云云川合上毛野同祖云云

垂水史集毛野同氏豐城入彦命男彦狹嶋命之後彦狹嶋命
豐城命男高長首上毛野同氏佐味朝臣世毛野
朝臣同祖太野朝臣同豐城入彦命四世孫荒田
別命之後也垂水公豐城入彦命四世孫賀表真若命之
後也云云佐自努公豐城入彦命孫太荒田別命之後也
下養公上毛野朝臣同祖云云廣來津公下養公同祖云
云韓矢田部造上毛野朝臣同祖豐城入彦命之後也三
世孫弥母異別命孫現右君云云車持公同豐城入彦命
之後也廣來津公上毛野朝臣同祖豐城入彦命之後三
世孫赤麻里云云止美連桑來津公同祖云云村舉首豐

城入彦命之後也佐代公上毛野朝臣同祖云云珍縣主
佐代公同祖云云登美首佐代公同祖豐城入彦命男倭
同尚建日向網田命之後也尊原部佐代公同祖云云
淡木造豐城入彦命之後也丹比部同上輕部倭日向建
師向網多命之後也云云我孫豐城入彦命男網多
命之後也佐自努公豐城入彦命之後倭氣豐城入彦命
四世孫荒田別命之後也我孫公豐城入彦命男倭日向
建日向網田命之後也見之續組四十水池原公網
主等言池原上毛野二氏之先出自豐城入彦命其太彦
命子孫東國亦腹朝臣各因居地賜姓命氏斯乃古今所

大神宮儀式帳小豊鉏入姫命御形長成支次以纏向
珠城宮御宇流目天皇御世奈倭姫内親王遠為御杖代
齋奉支次乃御形長成此大御神の伊勢宮鎮座家
乃拜祭賜河里小初遊心以是之伊勢坐坐坐坐坐
其我伊勢太神宮宮乃及後以伊勢太神宮申故小
依其御號を初京小及後世延申世休物小
例の常多き之伊勢宮宮乃云る小倭國縫邑小坐
伊勢大神の坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐坐
意小見候。伊勢大神の天照大神申候云云云云
係小見候。能登臣和名抄小能登國能登郡也何れ

是折所續紀小養老五年五月甲午朔廿未割越前國意
羽咋能登鳳至珠洲四郡始置能登國天草草生年
有丙戌能登國并越中國天草草生年五月乙卯能登
國依舊分立也何れ和名抄云靈龜二年割越中國置
無國也云云共名義不詳也次神名式小能登郡能
登此咩神社能登生國王比古神社小抄云此氏
國造休紀小能等國造志賀高穴穗朝御世活自帝皇子
天入來論孫彦狹嶋命定期賜國造也何れ此誤齊明紀
小能登臣馬見龍乃葉十八小羽咋郡擬主帳能登臣也
美事云人見也性靈集小能登臣姓氏錄小以此氏見

狹桃花鳥坡於是集近習者悉生而埋立於陵域數日不
 死晝夜泣吟遂死而爛臭之犬鳥聚噉焉天皇聞以泣吟
 之聲心有悲傷詔群卿曰夫以生所愛令殉亡者是甚傷
 矣其雖古風之非良何從自今以後議之止殉者何是
 州人垣也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 或人垣也書紀云殉也其說表裏也然也此王之時始
 立人垣也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 字也垣也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 乃風也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 始也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修

段亦遵倭參王子故事也何事也何事也何事也
 紀也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 命也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 之也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 傷也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 有也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 為也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 見也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 和也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 賣也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修
 子也乃於此也然其垣也書紀云漢大也修

是者我之御心。故以意富多多。
 涅古而令祭我御前者。神氣不
 起。國安平。是以驛使班于四方。
 求謂意富多多。涅古人之時。於
 河内之美努村。見得其人。貢進。

爾天皇問賜之。汝者誰子也。答
 曰。僕者大物主大神。娶陶津耳
 命之。女。活玉依。毘賣生子。名櫛
 御方命之子。飯肩巢見命之子。
 建甕槌命之子。僕意富多多。涅

古白。於是天皇大歡以詔之天

下平人民榮。即以意富多多泥

古命。為神主而於御諸山拜祭

意富美和之大神前。又仰伊迦

賀色許男命。作天之八十毘羅

訶。此三本字。定奉天神地祇之社

又於宇陀墨坂神祭赤色楯矛

又於大坂神祭黑色楯矛。又於

坂之御尾神及河瀨神悉無遺

忘。以奉幣帛也。因此而役氣悉

何り其幽事何多故誰が所為乎云々之類小知
られし依を云疫病乃類ふる此幽事何の故誰
が所為乎知らぬを神の御教を析て此を知こ
るあり書紀神代卷小天兒屋命主神事之宗源者也故
此の神事を以て神の教を乞て其幽事を何のゆゑ
誰が志す事を知ふ其ト事祈請乃本を主かして今其
掌依を謂ありよく文義を味ふはかして今其
幽事の大物主大神乃御所為其御名の顯也女な
る幽事顯るを相照して如此迦微基中を幽
事書き今此小顯る云依義を既るは。○是者ハ
疫病の如此起也依るあり。○我之御心玉垣宮段小布
斗摩迹々台相而求何神之心爾崇出雲大神之御心訶

志此高殿天照大神之御心者書紀景行卷亦風起
浪波王船欲渡是必海神也神功卷亦時薄幸難集皇
后曰必神心焉則立太任輪社以奉初身矣軍衆自聚允
恭卷神大下淡路嶋去終日以不獲一獸於是臘止敗
更卜矣嶋神崇之曰不得獸者是我之心也味若海底者
真珠其珠祠於我則悉當得獸云外類聚國史亦天長四
年正月詔曰天皇詔旨止楯荷神前爾申給前止申佐久
頃向御蘇原愈吠坐須赤依匠若求苗爾楯荷神社乃樹
伐礼苗罪崇赤出止申須云及實赤神乃御心赤志坐波
云々在佐伯詔小是也鏡の神の心を荒る見ゆ云

天武卷六如以此訓至明宮段末其身如本以安平也

書紀云五年云々其文上六年百姓流離或有背叛其勢

難以德治之是以晨興夕惕請罪神祇先是天照大神倭

大國魂二神並祭於天皇大殿之內然畏其神勢共住不

安故以天照大神託豐鍬入姫命祭於倭笠縫邑仍立磯

堅城神籬亦以日本大國魂神託淳名城入姫命祭然淳

名城入姫命髮落體瘦而不能祭天照大御神の御靈鏡

以爲齋鏡了了授奉賜了也如何天皇の同御殿小齋

祭遷奉至賜了了云々五年云々六年云々の事依

此二柱神乃御崇小也所思者より不

居不淨小則了了場州云々非吹了了敬礼の熱か

息不淨小則了了場州云々非吹了了敬礼の熱か

後云々然後隨神論遷行坐伊勢國渡過宮御遷奉

見云々初後隨神論遷行坐伊勢國渡過宮御遷奉

不勅命ハ離坐凡承出伊勢國鎮座皇の

心小測知法さ記さ修さ此は倭大國魂神を祭

乃見云々七年春二月詔曰云々天皇乃幸于神淺

茅原而會八十万神以下向之是時神明憑倭迹々日百

襲姫命曰天皇何憂國之不治也若能敬祭我者必當自

○古事記傳二十三

○二十八

御形神社あり。又同郡小伊和坐大名持御魂神社大由。此
 又石邊公小大物生命子久斯比賀多命。又拍人野大物
 主命兒掃日方命ひきりめ美比比所常よよ通ふ
 音ふ又同外又出雲國造神賀詞小傳大物主掃日命
 登名平称天也河内大物主神の御名也。此其い
 ちよく似り。又上卷吉備兒嶋の亦名を。健日方別
 ち云ゆ彼處傳五の小云依之也。考合以。飯
 肩巢見命飯の伊を除き父名乃比賀多也。同下神の
 意ハ未思得次舊事紀ハ健飯賀田須命也。此健

此記也。若くは飯の比。此は伊。此は言。此は巢見の
 事情長卷熊野久須毘命子系。傳七葉。由。建
 植命名義。其卷も同名の神坐也。其處。傳三葉。此云
 名如ト。五。僕。以。能。此。訓。意。富。多。多。古。
 此名ハ。意。富。多。多。古。讀。ハ。古。讀。ハ。舊。事。紀。ハ。大
 直。祢。古。心。書。五。多。古。地。名。亦。古。讀。ハ。神。名。帳。ハ。攝。津
 國。河。邊。郡。多。太。神。社。あり。此。社。多。田。莊。の。内。村。野。小。あり。
 此。多。田。多。云。處。中。替。あり。世。此。亦。難。波。根。子。山。背
 心。の。小。多。太。神。社。あり。注。古。ハ。傳。祢。小。難。波。根。子。山。背
 根。子。山。多。云。類。あり。三。代。實。録。神。又。小。多。太。三。輪。大。田。々

石止同祖神饒速日命五世孫伊香色雄命之後也將見
 又佐為連真神田曾祢連巫部宿祢水取連宇治宿祢
 宇治山守連長谷山直若湯宿祢矢田部首物部飛鳥
 津首采女臣物部等氏々條命子饒連日命六世孫
 伊香我色雄命子津首條命三世孫伊香我色雄命
 伊香我色雄命子伊香我色雄命子伊香我色雄命
 日命之子宇摩志麻治命其子彥湯支命其子出石心大
 臣命其子大夫只宿祢命其子大線祢命其子伊香我色
 雄命伊香色雄命ありあり此其人天皇乃御舅又
 坐於此仰之以下無遺忘以奉幣也

の事等總て係出子十鬼羅訶を作事以間乃
 云々の事皆此命乃奉るて供物部連祖伊香色雄
 命乃給ふ給ふ書紀云乃外獲物部連祖伊香色雄
 為神班物者吉之又卜便祭他神味吉十一月丁卯朔巳
 卯命伊香色雄而物部八十手所作祭神之物即以大
 田田根子為祭大物生大神之主又以長尾市為祭倭大
 國魂神之主然後祭他神吉焉此書紀の文乃趣也
 意を分明し給ふ故今書紀の文乃趣也
 物主大神及倭大國御魂神の二柱を對了其餘の
 諸の天杜國杜乃神掌を造りて伊香色雄命
 伊香色雄命先彼二柱神を第一の祭に賜ふは

於是時也。此水垣朝，御世也。此推尋之事，亦如也。既而
神功卷小，云皇后曰：必神心焉。則立大三輪社，以奉刀
矛矣。亦見於後。乃之也。三代實錄十
水石清水，八幡宮。御鞍奉賜，不若文也。新宮
構造，天岐，楯及種々神財，可奉出而神財波且奉出也。
止畢，太利楯，是御鞍等乎。奈毛，急利介苗，以乎。今造訪
天云々，奉出給布。亦思多，亦在。中如，如楯
予也。殊々重々，奉賜。亦如，此水垣宮御
儀の以方例の次第の傳はる。來る。此の如く。○
祭の奉あり。此水垣宮同言。亦如。楯矛を奉て祭。亦意也。

祭字ハ書成ハ。後書紀云。九年春三月甲子朔
戎演天皇。豊有神。又誨之曰。以赤盾六枚。赤矛八竿。祠墨
坂神。亦以黑盾八枚。黑矛六竿。祠天坂神。西月甲午朔。色
酒。依夢之。教祭墨坂神。天坂神。龍田。風神。祭祝詞曰。
龍田。亦稱。辭。竟奉皇神。乃前祭。自父志。賣嶋。茶。天。八。嶋。國
知志。皇御孫。命。乃。遠。御膳。乃。養。御膳。正。赤。丹。乃。穗。亦。聞。食
須。五。穀。物。辛。始。立。天下。乃。松。根。乃。作。物。辛。草。乃。片。葉。亦。至
乃。阻。不。成。一。律。上。律。亦。不。在。識。慎。且。以。獲。故。亦。百。能。物。知
人。等。乃。外。傳。亦。出。神。乃。御。心。者。此。神。止。白。止。負。賜。支。此
神。物。知。隊。等。乃。外。傳。亦。以。是。止。每。出。留。神。乃。御。心。母。無

トニテトキコシメシテスメミマノミコトノリミカクカミナチヲ
止白止聞者臣皇御孫命詔久神等乎波天社國社止忘
事無久遺事無久称辞竟奉止思志行波須乎護神曾天
下乃公根乃作々物乎不成傷神葉波我御心曾止悟奉
礼止宇氣此賜支是以皇御孫命大御夢尔悟奉久天下
乃公民乃作々物乎惡風荒水尔相都尔不成傷波我御
名者天乃御柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉尔吾
前尔奉年幣帛者云々吾宮者朝日乃日向處夕日乃日
隱奥乃龍田能立野尔小野尔吾宮波定奉尔吾前乎称
辞竟奉者天下乃公民乃作々物者五穀乎始尔草乃片
葉尔至万互成幸向奉年止悟奉支是以皇神乃特教悟

奉應仁宮柱定奉尔此乃皇神能前尔称辞竟奉尔皇御
孫命乃宗豆乃幣帛令捧持尔王臣等尔為使尔称辞竟
奉尔止皇神乃前尔白賜事尔神玉祝部等諸節食進宣
云々此尔宇豆乃幣帛尔安幣帛能足幣帛止皇神能御心
尔平久闻食豆天可能公民能作々物乎惡風荒水尔不
相賜皇神乃成律向賜者云々秋祭尔奉年止云々此尔
嶋尔事云々尔宮柱定奉尔云々尔皆此水垣宮乃
御世乃事尔志貴嶋尔欽明天皇乃御世の如く
然尔非尔尔此處尔思合尔今墨坂大
坂の神を別小祭賜ふ此龍田乃類り乎年穀の
おをりけり○又於河瀬神云々十一字真

云あり止み引ふ龍田祭詞あり天社國社共忘事無災
 遺事無災稱辭竟奉隆あり初又續紀十乃詔不漏落事
 母在牟加止辱美云々集聖あり○幣帛皆美臣具良修
 訓上卷傳八の四出あり○役氣小僕等ありあふみ
 役を誤せしあり又延佳本あり疫作せしあり今あり
 本あり役ありあり依り其由あり上文役病ありあり
 云あり此微能氣中訓書○國家の阿米能期多
 了訓書し書紀あり然訓書○安平也○多北良岐
 伎了訓書し綴あり語下文あり天不太平人民富榮見
 元書紀仁徳卷あり是以政令流行天下太平二十餘年
 無事矣あり河上皆同ト休まあり書紀云云於是疫

病始息國內漸謚五穀既成百姓饒之○或問者云ハ
 大物主大神ハ百萬神を帥て皇御孫命を守護奉坐
 神あり此御世天皇乃悪る御政ヲ聞え此
 段の如崇ふまひて天下を騷がし人民を惱まし賜ふ
 心得此義如何答凡て神の御心御所為ハ彼外國
 乃佛聖人あり云らむ者乃如く尋常の理を以て此方
 よめありわかくみ定る論ふ法き物よハ非此善ハ悪
 九て測る難
 きとやぞかし
 地臨意富陵後武恬以朝以

此謂意富多多。泥古人所以知

神子者。上所云話玉。依毘賣。其

容姿端正。於是有神壯夫。其形

姿威儀於時無比。夜半之時。倏

忽到來。故相感。共婚。供往之間。

未經幾時。其美人妊身。爾父母

怪其妊身之事。問其女曰。汝者

自妊。無夫何由。妊身乎。答曰。有

麗美壯夫。不知其姓名。每夕到

來。供住之間。自然懷妊。是以其

父母欲知其人。誨其女曰。以赤

土散床前。以閑蘇此二字紡麻

貫針刺其衣襪。故如教而旦時

見者。所著針麻者。自戶之鉤穴

控通而出。唯遺麻者。三勾耳。爾

即知自鉤穴出之狀。而從糸尋

行者。至美和山。而留神社。故知

其神子。故因其麻之。三勾遺而。

名其地。謂美和也。泥古命者。神

君鴨君ノ祖ノ

星彼處乃遠者合世之曉亦遠也此事既傳八葉之
云の所也此の姓身系は疑はれず著明き意は
云依辞あり無夫云云係はる夫の表也訓
上卷須勢理毘賣命乃御哥也那遠岐互遠波那志
宇流波志彼壯夫之其名母斯良奴賀者訓也
有麗美壯夫不知其姓名之
世より又姓名をばふ事なり此の氷垣宮御
文市より世に傳はり師の然依を姓名云物あり漢
至其名は知らぬは如何處の如何ある人なり
如意化具其の毎夕到来不用基登亦伎立者訓也

赤土の波迹削捨其由も止卷に出入其處の傳計
十九 師の曾本亦訓也其の波迹削捨也床前の
師の登詳能借訓也其の波迹削捨也床前の
散散何世に料か下其由見れり推度
至て思ふ此赤土著者足跡を視て其人の出
往方を知むの設か若然らば戸外より設
衣欄赤土の著者識は其人を認知
起る説力何世に料か下其由見れり推度
種事若失し構ふ時設は二又思ふ所床前の下
亦又云辭乃無き也此赤土も用蘇麻の事も屬し異

蘇^ソ云^ク處^ニを^シ云^フ形^ノ也^{ナリ} ○如^ニ教^ス而^{シテ}表^ス斯^ノ詞^ノ志^ヲ基^ニ登^ル斯^ノ五^ノ際^ニ
訓^レ法^ノの^ノ斯^レ互^ニ為^リ而^シ ○且^ニ時^ノ阿^ラ志^多途^ニ訓^レ法^ノ又^ハ都^ノ
登^ル未^ダ互^ニ訓^レ法^ノ其^ノ由^ハ傳^ハ十^八五^十八^ノ集^ノ云^フ此^ノ彼^ノ
壯^ク夫^ノ例^ノ乃^チ宿^ノ還^ル去^リ朝^ノ訓^レ法^ノ ○鈞^ハ迦^カ岐^ノ
訓^レ法^ノ和^ノ名^ヲ抄^ル門^ノ具^ニ揚^ル低^ク漢^ノ語^ヲ抄^ル云^フ鈞^ハ匙^ノ戸^ノ乃^チ加^カ
岐^ハ一^ニ云^フ加^カ良^カ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
抄^ル云^フ鈞^ハ匙^ノ門^ノ乃^チ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
曲^ニ云^フ鈞^ハ匙^ノ門^ノ乃^チ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
探^ル其^ノ沈^ム處^ニ亦^チ有^リ其^ノ形^ヲ就^テ何^レ物^ノ亦^チ有^リ云^フ
門^ノ戸^ノ鈞^ハ乃^チ名^ノ也^{ナリ} 漢^ノ國^ニ物^ノを^シル^ル形^ノ也^{ナリ} 曲^ノ

訓^レ法^ノの^ノ斯^レ互^ニ為^リ而^シ ○且^ニ時^ノ阿^ラ志^多途^ニ訓^レ法^ノ又^ハ都^ノ
登^ル未^ダ互^ニ訓^レ法^ノ其^ノ由^ハ傳^ハ十^八五^十八^ノ集^ノ云^フ此^ノ彼^ノ
壯^ク夫^ノ例^ノ乃^チ宿^ノ還^ル去^リ朝^ノ訓^レ法^ノ ○鈞^ハ迦^カ岐^ノ
訓^レ法^ノ和^ノ名^ヲ抄^ル門^ノ具^ニ揚^ル低^ク漢^ノ語^ヲ抄^ル云^フ鈞^ハ匙^ノ戸^ノ乃^チ加^カ
岐^ハ一^ニ云^フ加^カ良^カ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
抄^ル云^フ鈞^ハ匙^ノ門^ノ乃^チ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
曲^ニ云^フ鈞^ハ匙^ノ門^ノ乃^チ加^カ岐^キま^ハ四^ノ声^ノ苑^ニ云^フ鈞^ハ簡^ノ具^ニ池^ノ揚^ル氏^ノ漢^ノ語^ヲ
探^ル其^ノ沈^ム處^ニ亦^チ有^リ其^ノ形^ヲ就^テ何^レ物^ノ亦^チ有^リ云^フ
門^ノ戸^ノ鈞^ハ乃^チ名^ノ也^{ナリ} 漢^ノ國^ニ物^ノを^シル^ル形^ノ也^{ナリ} 曲^ノ

麻の量を以て此地乃名を負けむらる。他より思ふ
ばい物遠まが如く形れ。此の其の女の家より言
初、名は、は、然、乃、翌朝、蘇、は、卷、は、許、多
ら、麻の、は、づ、わ、唯、三、句、乃、み、遺、出、を、始、免、て、見、は、
時、乃、心、現、以、て、三、句、遺、置、し、麻、を、認、行、く、處、云、意、も、て、
美、和、乃、云、初、は、形、は、は、。○書紀、は、十、年、云、々、是、後、倭
迹、迹、日、百、襲、姫、命、為、大、物、主、神、之、妻、然、其、神、常、晝、不、見、而、
夜、來、矣、云、々、の、事、。全、文、ハ、黒、田、宮、殿、彼、此、賣、命、の、下、傳、也、
ル、其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
ハ、倭、迹、々、媛、皇、女、為、大、三、輪、大、神、婦、每、夜、有、一、壯、士、密、來、

鏡、婦、皇、女、思、奇、以、綜、麻、賣、針、夜、壯、士、之、曉、去、也、以、針、賣、禰、
及、且、也、皆、之、唯、堵、三、輪、遺、器、皆、故、時、火、祢、為、三、輪、村、社、名、
赤、然、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
乃、書、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
君、ハ、本、は、大、神、尊、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
神、書、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
此、美、和、大、神、を、殊、に、崇、奉、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
世、ハ、即、此、神、の、御、傳、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
是、ハ、大、神、の、御、傳、也、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
ハ、言、足、り、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、
ハ、言、足、り、。其、也、。此、乃、故、事、の、い、く、よ、く、似、る、り、土、佐、國、風、土、記、

氏録大和國必大神朝臣素佐能雄命亦世孫大國主之

後也初大國主神娶三嶋溝抗身之女王擲姫夜未曙去

未曾晝到於是王擲姫續草係衣至明隨苧尋覓經於草

淳縣陶邑直指大和國御諸山還視草遺唯有三縈因之

号姓大三縈一本は御諸山の土に真穂二字あり元々

誤也乃如且九の文も省き過らむの草淳縣を經ぬ處

あり又三嶋より義和山に到らむの三縈遺草係衣因了姓を

大三縈号引心を得ぬ文あり御子を生ふと云はれ

云誰姓云は類聚國史十九弘仁十二年八月以

大神宇佐二氏為八幡太菩薩宮司臨時祭式小八幡

二氏補之三代實録四大神朝臣庸主卒庸主若

得難補他氏三氏輪大田乃根子之後庸主本姓神直成

疎以也自信大輪大田乃根子之後庸主本姓神直成

落之後賜姓大神朝臣乃真神田朝臣全雄賜姓大神

朝臣欽陸輪田由根子命之後也五汁小大神朝臣良

臣向室披新法詔物皆見え此姓皆大神朝臣

大神朝臣云大神朝臣言小初乃者無所定ま少所

司神書紀又出焉所乃定まれ少所乃定ま

同人乃見之續紀仁妙此神麻加牟陸君兒首

子人乃見之續紀仁妙此神麻加牟陸君兒首

志又

鴨の地名は又大和國葛城上郡の鴨又因出り市は此

紙の此引不舊事紀四小大田々祿古命の孫太鴨積
命此命磯城瑞籬朝御世賜賀茂君姓書紀神代
君等大三輪君等甘茂君を先よ次で天武紀小鴨
君蝦夷人見え十三年十一月鴨君賜姓曰朝
臣續紀此五小天平宝字八年十一月復祠高鴨神於大
和國葛上郡高鴨神者法臣圓興其弟中衛將監從五位
下賀茂朝臣田守等言昔大泊瀬天皇獵于葛城山時有
老夫每與天皇帝相逐爭獲天皇怒之流其人於土左國先
祖所生之神化成老夫爰被放逐於是天皇乃遣田守迎
之令祠本處高鴨神式大和國葛上郡高鴨阿治姓
須岐詔彦根命神社四座阿治姓

氏錄大和國賀茂朝臣天神朝臣同祖大國並神之後
也大田由祿古命孫太賀茂都美命名伏賀奉齋賀茂
神社也此賀茂神社右の高鴨神社乃みを云
社此を合せ云此二社の神
命乃子孫の齋奉別子姓
氏錄小鴨君賀茂縣主鴨縣
又此之御世大毘古命者遣高
志道其子建沿河別命者遣東

方十二道而令和平其麻都漏

波奴トムケ自麻下五人等又日子坐ヤハサシメマタヒコイマスノ

王者遣且波國令殺玖賀耳之

御笠タニヒキ此人名者也玖イサ賀カ二字以音ハナハノクニツカハシテ

大毘古命の境原朝の皇子みえ彼御段に出るます
高志道高志管越國よ上卷み出傳十一道の事

次云神社あり姓氏録小道公大彦命孫彦屋玉田心命之後也切り見ゆ此ら此の道は建招河別命此命の事也境原宮段は出傳北東方十二道東方北率加志能加多訓塔方を師の倍も訓は倍の古ハ東南西北加多云々を多々漆下云は例なり十二道ハ十二國を云ふ國造本紀野國造東方十二國あり上の高志道も下文ハ高志國あり又孝德紀ハ前以良家大夫使治東方公道既而國司之任六人奉法二人違令云々此小國司八人の事を云はしめて八道ハ八國ありあ明らけ

方波王御

日、この國の、此の十國、乃、此、何、乃、國、々、を、合
世、ゆ、の、數、より、今、此、を、あ、知、ら、ず、小、此、れ、を、あ、ら、り、
亦、云、バ、伊、勢、伊賀志摩、國が屬法、此、而、尾、張、參、河、遠、江、駿、河、甲、斐、伊
豆、相、模、武、藏、總、上、下、總、あり、安、房、の、後、道、常、陸、奥、此、國
二、の、内、に、入、り、れ、下、文、の、往、遇、干、相、津、の、道
事、乃、見、て、蝦、夷、を、言、向、ふ、事、の、多、き、と、倭、建、命、殿
の、東、方、亦、三、道、の、あり、是、其、代、の、定、め、り、の、事、也、可、し、
此、の、國、を、道、の、云、尔、朝、廷、よ、り、其、國、を、治、る、也、个、を、遣、次、
命、就、て、云、稱、あり、先、神、代、の、天、尾、羽、張、神、の、言、の、恐、之、仕、
奉、然、於、此、道、者、僕、子、建、御、雷、神、可、遣、也、河、の、天、神、乃、御、

使、の、答、白、し、賜、予、詔、云、又、此、道、の、樞、原、中、國、を、言、向、
の、罷、行、を、云、此、の、黒、田、官、段、の、針、開、為、道、の、以、言、
向、和、吉、備、國、の、河、の、針、開、の、言、向、ふ、國、の、初、の、事、
為、道、の、云、又、丹、波、道、主、の、申、以、王、の、名、の、丹、波、
國、を、治、る、の、遣、使、賜、也、因、此、道、主、の、申、也、
此、等、其、段、の、傳、北、二、の、六、十、二、葉、を、見、る、考、合、次、也、
小、高、志、道、の、あ、は、道、の、此、意、あり、此、を、書、紀、は、北、陸、
云、北、陸、道、の、云、義、是、の、心、也、後、は、東、海、道、東、山、
得、て、道、の、云、義、是、の、心、也、後、は、東、海、道、東、山、
道、の、云、名、を、建、て、天、下、を、總、て、畿、外、を、七、道、の、分、定、先、
ら、れ、る、も、の、漢、國、の、制、分、て、初、て、十、道、の、定、先、
唐、太、宗、の、時、の、彼、國、内、を

里みなりひ且の上代あり云来初稱御賜
物なり傳下抑畿外を都て七道分ち又其名
孝徳紀三年小畿内の疆を定ち御世ありけむ
れ東友八道あり七道乃上代の見格なり是時
ま都て分て七道せし制王の無り是時
ら光あり然れ彼紀乃此御卷み七東海北陸
河内後出非此記を以て記され物あり
當昔乃各あり非此記を東方十二道高志道あり
俗を古乃稱ありあり孝徳紀より前あり
の見え山陽山陰河内後を以て記され
み山陽山陰河内後を以て記され
る山陽山陰河内後を以て記され
字の下あり一本方字の下あり
子な誤あり今延佳本又一本依り
○麻都漏波

奴ハ白禱原官段ハ不伏人等河内傳十九の云
が如下。○和平ハ許登年氣夜波須訓傳本此言の例
原官段ハ引依文此ハ上乃高志道を合せて云
り。○日子坐王伊邪河官段傳北二乃小出○且波同
官段傳二小出○玖賀耳之御笠ハ服従ハぬ輩乃渠帥
乃名なり傳下其小なりて玖賀耳ハ姓ハ聞え伝地
名ハ思子乃丹波小此地名物ハ見え周防國ハ
傳ハ小ハ心得あり若くハ此ハ御笠ハ別人
小して二人の名然らバ之字ハ及あるハ又を誤
傳ハ傳下耳之云云何也ハ如何ハ

乃取也。同意也。注の者、字延佳本、小無、此也。諸本、昔有、又他の例、此也。

武渟川別遣東海、吉備津彦遣西道、丹波道主命遣、武渟川別遣、東海、吉備津彦遣、西道、丹波道主命遣、

因以詔之、曰、若不受教者、乃奉兵伐之、既而共授印綬、因以詔之、曰、若不受教者、乃奉兵伐之、既而共授印綬、

為將軍、命乃其國、言向、吉備國、給、為將軍、命乃其國、言向、吉備國、給、

非、此、命、出、見、其、因、此、事、其、段、奉、非、此、命、出、見、其、因、此、事、其、段、奉、

御子、此、書、紀、の、方、傳、乃、異、御子、此、書、紀、の、方、傳、乃、異、

故大毘古命罷往於高志國之

時服腰裳少女立山代之幣羅

坂而歌曰古波夜美麻紀伊理

毘古波夜美麻紀伊理毘古波

夜意能賀袁袁奴須美斯勢牟

登斯理都牟用伊由岐多賀比

麻幣都半用伊由岐多賀比宇

逝逝波父斯良爾登美麻紀伊

理毘古波夜於是大毘古命思

怪返馬問其少女曰汝所謂之

言何言爾少女答曰吾勿言唯

為詠歌耳即不見其所如而忽

失

ウタヲコソウカヘレテ... 高志一本又一本... 福壽奈延佳体... 都加披佐礼麻加利伊麻勢... 乎者才五...

麻 邊 理 快 爲

多ク夫須麻新羅邊伊麻須共四下也安之我浪乃夜敵
也麻故要且伊麻之奈婆切也亦多夕の後世也某處
所か何日時故毀去也同小あ幣なり○腰裳の字の隨
ゆ許志母也訓情也延佳も師也二字をを母也訓志
を書法き小腰字を添姓氏録も葛木襲津彦命男腰裙
宿称也云々名亦阿也母訓万葉紀欽明紀也此字を
書法處古然云服の名ありしなりして其の尋常の裳
あり別物なりは之常の裳を然り云し其差ハ詳あり
次台記別記久安六年正月十日女御入内同北二日
物唐衣白腰裳也三月五日臨時祭打出云々蒲萄漆
唐衣款冬腰裳あり此は之よれぬの裳を云るなり

別物なり未よく考す次也本他の記録も亦あり此名見
えも多しごやおゆれ等今も亦得思出たりいれ
思はれ此の後世の之等類なり上代も云々同物なり
は上代仍事なり云々けし名の上代も下禰を母
也云然も初也おがし初事なり心其由ハ傳六の四其
亦別物也系系裳也著法裳也腰裳なり云々下おや
何はむ但万葉の哥也也依元思事反古も裳なり其の
おはむ法は服なり物なり此に此を服と依之也
也殊も云依ハ尋常の裳なり非系初故也又思ふも此
は此記め也書紀あり共も少女也書き童女也書紀
小書也ぬれぬいませ幼き女なり後下依て後世も女

天皇乃大御名ゆすは波夜ハヤの歎く辞あり此事倭建命
 段阿逗麻波夜アトマハヤ所處ハ傳北七ノの委云ハ倭ノ所也此
 所向也再重編之歌又所ハ歌物ノ常也如中ニ歎き
 為深切ネモコロなり○意能賀表表上乃表字諸本皆素
 作按知写誤為命書紀此句飲酒餓鳥鳴カケ所
 小依カ改カ知カ師ノ素ヲ用ヒハシ巢アリ上ニ卷ハ御ノ巢アリ
 記中ハ素字を假字ニ用ヒハシ例ハ表字ハ赤裳表
 且スカ後ニ其意解ル由ル表ノ誤アリカク柶ノ
 義ハ若柶ノ後ニ其意解ル由ル表ノ誤アリカク柶ノ
 實此ノ下ニ存ルハ須美斯勢牟登ル云二句ハ伊由ノ岐ノ
 意能賀ハ御真亦入月字ノ已ハガハなりハ作者ノ已ハ表ハ命ノ

云云ハ始ハ心ノ物ヲ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 表ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 云云ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 緒長クハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 古縁緒ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 わけ氣思ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 正字ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 命ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 非中ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 考合ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 意能賀表ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 命ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 義ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ
 其ハ此意ノ各ノ命ノ生ルノ續ク持テ不レ絶スハ其ハ倭物ノ

此初の二句は思怪一本は思字を異作
 光殊は穩かゆは思怪一本は思字を異作
 還其曲聞え為物返馬駐心所修持を返也
 は彼少女即歌詠以下大毘古命の來坐下方
 所往修物此過ぬ故其妨引返賜ふは修
 何言の繼躰紀の哥小柯羅履你鳴以柯你輔居等
 所梅豆羅枯枳樓目韓國を如何言さる事
 可訓修上此哥奇如如何事云意もては
 此爲詠歌身守多表許曾守多此都礼光訓修
 同保(註)為詠歌身守多表許曾守多此都礼光訓修
 詩曾云辭小耳字の意何命勿言修乃み答て止
 次來て娘此小由云修凡て歌公真云常の言乃此

夫非改意をく免る物を人小喻ははれ常
 乃言の比よおあよえ小勿聽賜ひえ心や先賜了也
 此答あるは○即不見其所如而如往ハ由玖幣母
 美延受修訓修由玖幣ハ行方也云云然修也
 玉○忽失此少女神小坐げひ書紀云於是大彦命異
 之問童女曰汝言何辭對曰勿言也唯歌耳乃重詠先歌
 忽不見矣
 見矣

故大毘古命更還參上請於天

皇時。天皇答詔之。此者為在山

代國。我之庶兄。建波邇安王起

邪心之表耳。波邇安王。伯父興軍。

宜行。即副丸邇臣之祖日子國

夫致命而遣時。即於丸邇坂居

忌倉而罷往。於是到山代之和

訶羅河時。其建波邇安王興軍。

待遮各中挾河而對立相挑。故

號其地。謂伊杼美。今謂伊豆美

也。爾日子國夫致命。乞云其廂

人先忌矢可彈爾其建波爾安
 王雖射不得中於是國夫致命
 彈矢者即射建波通安王而死
 故其軍悉破而逃散爾追迫其
 逃軍到父須婆之度時皆被迫

窶而屎出懸於禪故號其地謂
 屎禪今者謂父須婆又遮其逃
 軍以斬者如鵜浮於河故號其
 河謂鵜河也亦斬波布理其軍
 社故號其地謂波布理曾能波

以下五字

如此

平訖

參上

覆奏

自

更サラニ請マカス云イハスすまでお係カはる至ス。係カはる言コトふハハハ。一ヒトふヒ。

辞コト申マカス上ウチ道ミチ一ヒト也ナリ。又マタ更マタ小コ謁カク見ミ申マカス以ヨリ意イハス云イハス。

依ヨリ言コトあり。○請マカスハ麻アサ表ウラ須ス訓ムカク乃ハ幣ヘ浪ラ坂カハル少シ女メの

詠ウタひハ歌ウタの趣オモおハわルをハ。形カタらシ大オホ事コトハル聞キ棄ス一ヒトハル。

ありハ一ヒト故ユハ更マタ小コ謁カク見ミテ其ソノありハ也ナリ。狀カタチをハ奏ソウ次ツギ打ウり。○

答コタヘ詔ミコトノコト答コタヘハ常トキハ人ヒト乃ハ物モノをハ問トハル也ナリ。言コトをハ云イハすハ。

ハ此コノありハハ必カナラハ然シカらシ次ツギハ大オホ毘ヒ古コ命ノミコトの事コトをハ奏ソウシテ。

小コ就ツキズ詔ミコトノコト不ズ成ス云イハハ係カあり。○為ナリ字ジ下シハ在アリハ於オ母ハハ布フ尔ニ也ナリ。

訓ム修ムハ新ニハ公キミ坐マカ。卷マク頭カサ為ナリ生成ニ成ス國クニ土ツチ奈ニ何ニ事コト也ナリ。為ナリ穢ケガレ汚ケガレ而シテ奉ホウ。

難ムシ高タカ津ツ音ネ段ダン為ナリ又マタ民タチ富トク也ナリ。此コノ漢カン文ブンの格カク也ナリ。

之レ表ウラハ云イハすハ所トコロより返マカル。非ズハ延ノビ佳カミハ起オキ耶ヤ也ナリ。

如コトハ珠シユ也ナリ。○我ガ之ノ庶シヤ兄ケイ我ガ之ノ汝ニ之ノ也ナリ。誤アヤマ也ナリ。

那ナ實シヤク也ナリ。訓ム修ム其ソノ故ユ也ナリ。建タテ波ハ迹スジ安ヤス王キミ也ナリ。孝コウ元ゲン天テン皇クニミコト也ナリ。

御ミコト子コ也ナリ。大オホ毘ヒ古コ命ノミコト也ナリ。弟ケイ也ナリ。異イ也ナリ。御ミコト叔シヤク父フ也ナリ。

御ミコト兄ケイ弟ケイ也ナリ。師シ也ナリ。疑ウタガハス也ナリ。御ミコト無ム伯ハク父フ也ナリ。

凡ソト也ナリ。此コノ也ナリ。又マタ無ム伯ハク父フ也ナリ。誤アヤマ也ナリ。

ふ日大毘古命の申給ふ事大御必所思水谷等
あや此のけりけふは法其彼建波迹安王の
あり乃為人を豫て所知食上又是時既あや
所行むりて疑わくあはせり
所記む書紀の事百襲姫命の申賜子依
所知者むり趣あり何れあやあり
達之訓小父の義あり和名抄伯父和名手知あり
父の兄を伯父父乃弟を叔父父の姉を伯母父の妹を
叔母あや分て漢國の姉を皇國の表婆
の兄弟を同ト衣違父乃姉妹を同ト表婆
云り字鏡阿伯父之兄漢半地阿叔父之弟弟半地
河れ此のけり此大毘古命を指又詔多あり書紀
後の称けり

安閑卷の其天皇の太伴金村太連を指て太伴伯父
詔此伯父を如何静明卷の山背大兄王の蘇我
蝦夷大臣を叔父乃あま新語見をあり此御伯
叔父の非次あり父の齡子列あり人を崇久親子
云称の聞ゆ俗言あり常云く形此の殊小實
の大御伯父あ坐の所あり○宜行の由加勢の訓
小由氣を延も古語なり建波迹安王を討し行味
王は此處書紀の大事命乃還而具以狀奏於是天
皇姑倭迹多日百襲姫命聰明叡智能識未然乃知其歌
怪言于天皇是武埴安彦將謀反之表者也吾聞武埴安

彦之妻吾田媛密奉之取俵香山土農領中頭而柳曰俵
 國之物實則反之是以知在事焉非異圖必後之於是更
 留諸將軍面議之也ハカリタヒキ諸將軍見上見え云
 丸通臣ハ伊那河宮段ハ出傳北四七六葉
 名義國平コノクニ也年伊那河宮段ハ出傳北四七六葉
 名義國平コノクニ也年伊那河宮段ハ出傳北四七六葉
 國押人命の御名因を始天帶彦此人姓氏録吉田
 條天帶彦國押人命四世孫彦國嘗命又真野臣和
 朝臣天足彦國押人命三世孫彦國嘗命又見云
 命傳世功和射の子外若孫書紀垂仁卷

五葉の失笑ハ中野ハ和舞遠祖國嘗命見云
 本紀ハ赤坂此右神社又和舞遠祖國嘗命見云
 若命ハ前記ハ丸通坂神名帳和國添生都和
 逢坐赤坂此右神社又和舞遠祖國嘗命見云
 神武卷ハ見云宮段ハ池高津朝宮段ハ天御哥ハ和
 往ハ所ハ此坂也意坂ハ赤坂也古坂ハ赤坂也
 行ハ此坂也意坂ハ赤坂也古坂ハ赤坂也
 宮段ハ見云其傳十ハ葉ハ云也傳此件書紀ハ

は身死未幾時武埴安房與其妻吾田媛謀反逆興軍忽
至各分道而夫從山背婦從大坂共入欲襲帝京時天皇
遣五十狹狹命擊吾田媛之軍即遮於大坂皆大破之
殺吾田媛悉斬其軍卒○次小復遣大彥與和耳
臣遠祖彥國舊向山背擊埴安房爰以忌菟鎮坐於和耳
武鏖坂上則卒精兵進登那羅山而軍之時官軍屯聚而
躡躡草木因以号其山曰那羅山○和耳羅河
泉川の舊名なり其由次小見ゆ○待遮凡爾待云々
云云之語多し○既遮之佐南岐流傳訓佐南
は障あり使流中限あり塞隔於云云
霧のなり其○

洛中挾河而對立相挑○中挾那迦孫於枝立訓對
賊彥率被殺知立訓法止卷黃泉鼓○許引名引塞
其黃泉此良坂其石置中塔對立而法○又御警殿也
中置天按訶而宇氣布時○
漢文あり○
考合以法○
此の互は誘動あり○
○今謂伊豆美也此六字諸本皆細書体を今改め
段々其の其故○如以言体例○

段小故号其地謂楯津於今者云日下之藝津也王垣宮
段小故号其地謂懸木今云相樂也故号其地謂墮國
今云第國也謂志比宮段小故号其浦謂並浦冷謂都奴
賀也也皆伏字本文也註書協例無打也
はり沙也伊豆美名和名抄云山城國相樂郡水泉以
美郷之れり續紀北山出水郷之れり万葉四
五小川津鳴泉之里尔十一丁宮本別泉之追馬喚大
二河也河川雜武也丸山城國泉河樺井渡
瀬者官率東太寺工侍每年九月上旬造假橋見元万
葉下云下は泉乃阿弥持越流真木乃都麻并乎九

妹門出見河乃十三丁真木積泉河乃速瀬才七
小楯並而伊豆美乃河波乃又青丹余之奈良夜麻
須疑底泉川伎欲吉可波良尔馬驛古今集旅ふ京出
今日乃乃原泉川新古今集戀小甕原涌下流也泉
河岬外奇の多事書紀云更避那羅山而進到輪韓河
與埴安彦挾河屯之各相挑焉故時火改号其河曰挑河
今謂泉河訛也○其箱以能比登訓倍小明
宮段小伏隱河邊之兵彼箱以箱一時共興也
加那多許那多箱ハ軍防令小左右箱也
左右箱猶左右方也

頭曰我君故時人号其脫甲處曰伽和羅禪屎處曰屎禪
 今謂樟葉訛也又号即頭之處曰我君伽和羅禪屎處曰屎禪
 嶋宮段見其由異名帳山禪屎國相樂郡和伎
 安字脫見其由異名帳山禪屎國相樂郡和伎
 坐天乃杖賣神社地其社中今夫平尾小
 申次社是神和伎神地其社中今夫平尾小
 絶我君本和伎神地其社中今夫平尾小
 如古語也昧知故其人其車子云云其
 カレ 故大毘古命者隨先命而罷行
 マカリ 高志國爾自東方所遣建沼河

別與其父大毘古共往遇于相
 津故其地謂相津也是以各和
 平所遣之國政而覆奏
 隨先命先大毘古命者遣高志道真將建沼河別命
 遣東防上道而云令其命者如
 況此大毘古命者其命乃係云係如
 建沼河別命其命乃係云係如
 〇古事記傳二十三
 〇八十三

造也。俗物也。女乃調。謂。ほ云。はり。神功紀。ハ新羅。王。ケ。毎
年。貢。男女。之。調。了。白。世。俗。ハ。然。聞。ゆ。れ。バ。形。り。此ハ新羅
王の貢
調。ハ。非。也。バ。なり。頃。法。也。又。男。の。み。貢。は。後。の。御
制。ハ。允。テ。孝。德。御。世。又。令。お。り。乃。制。ハ。多。ク。上。代。ハ
女。ハ。貢。了。し。ゆ。り。ハ。何。も。起。決。凡。ハ。云。ハ。日。市。上。代
乃。語。ハ。允。テ。如。此。子。之。ゆ。り。文。也。採。り。て。左。端。之。手。末
之。高。了。語。里。傳。了。ゆ。り。ハ。い。り。ゆ。り。之。み。雅。ハ。俗。物。也。
里。の。市。ハ。初。念。貢。了。ハ。初。終。テ。其。制。也。立。ふ。多。ク。俗。物。
云。ハ。乃。法。ハ。き。は。や。り。の。定。ま。れ。ハ。お。り。ハ。何。も。市。
先。身。乃。市。ハ。御。調。貢。は。既。ハ。是。の。先。の。御

代々々々。必。あ。り。法。事。切。れ。ハ。形。勢。書。紀。ハ。廿。七。年。
春。三。月。詔。云。々。宜。當。以。時。便。校。以。民。令。知。長。幼。之。次第。及
課。役。之。先後。焉。秋。九。月。始。校。人。民。更。科。調。役。此。謂。男。之。拜
調。女。之。拜。未。調。也。此。詔。調。ハ。例。の。撰。者。ハ。お。り。ハ。作。り。
上。代。の。意。旨。ハ。非。ハ。然。也。然。レ。更。校。云。々。更。科。云。々。ハ。
お。り。ハ。然。レ。お。り。ハ。初。科。ハ。お。り。ハ。非。俗。ハ。お。り。ハ。なり。
乃。何。所。此。ハ。始。也。ハ。校。人。民。ハ。係。テ。云。ハ。俗。ハ。季。曲。也。ハ。
ま。り。法。き。ハ。稱。ハ。多。ク。閑。也。訓。ハ。書。紀。ハ。ホ。ハ。不。
同。書。紀。神。代。卷。ハ。称。辞。見。之。式。の。諸。乃。祝。詞。ハ。称。辞。竟。
奉。云。ハ。甚。多。ク。皆。多。ク。閑。許。登。ハ。訓。ハ。大。神。宮。儀。
式。帳。ハ。天。津。告。乃。乃。太。告。乃。乃。厚。廣。事。遠。多。ク。倍。申。ハ。何

後世為人の所為ありむ。必書紀の年絶お依て
あえ記流湊き。彼紀等同くあり。必他古書お
據ありて。お見えぬ。當なり。支汗年月必
書紀の如き。お非。此。彼。その。正。古書。各異
お。古書。乃。遺。注。後。世。以。書。紀。を。所。あ。ま
て。其。お。様。末。至。不。書。紀。合。依。進。御
代。お。詳。何。の。書。お。異。採。不。亦。然。故。お。流
十。又。神。世。の。段。お。崩。の。年。月。を。記。し。其。據
神。武。天。皇。の。以。來。漏。れ。皆。注。し。書。紀。に。依。り。故。思。お
お。若。く。は。安。麻。呂。朝。臣。の。一。書。お。據。り。自。書。加。算。ら。ぬ。お

依物あり。本文。書連。詞。非。細。注。お。依
物。新。故。なり。お。彼。朝。臣。の。非。流。お。必。古。き。世
乃。今。の。若。く。は。お。何。の。流。お。世。人。の。書。紀。お。合。さ。れ
る。心。お。已。の。彼。紀。合。さ。れ。然。也。お。今。これ。取
依。故。お。採。田。老。翁。の。誦。傳。亦。お。和。語。の。舊。辞。お。非
お。現。ゆ。れ。お。天。の。成。寅。年。の。書。紀。お。く。ハ。此。御。世
此。五。十。五。年。お。れ。ハ。十。三。年。の。差。あり。此。お。一。書。の。年。紀
お。書。紀。お。必。書。紀。お。混。む。月。の。合。了。也。○山。邊。道。勾。之。固
上。書。紀。お。明。年。秋。八。月。甲。辰。朔。甲。寅。葬。于。山。邊。道。上。陵。也
見。又。垂。仁。卷。の。元。年。冬。十。月。癸。卯。朔。癸。丑。葬。也。何。の

